

## 第2章 菊池市の都市構造

---



## 第2章 菊池市の都市構造

### 2-1 人口特性

#### (1) 現況人口

##### 1)人口・世帯数・世帯人員

本市の人口は、平成12年（2000年）までは増加傾向にありましたが、平成17年（2005年）以降減少傾向に転じています。世帯数は増加傾向にありますが、これに反比例する形で世帯人員は減少しています。

また、ベトナムやフィリピンなど技能実習生としてアジアからの外国人居住者が増加しており、特に令和3年（2021年）以降に著しく増加しています。

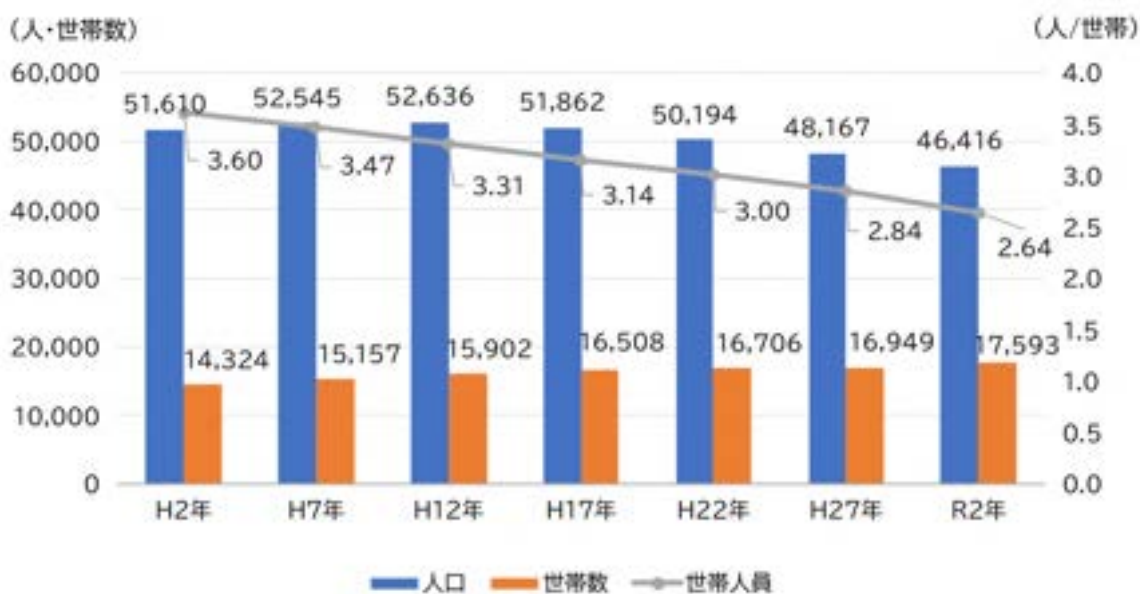


図 2-1 人口、世帯数、世帯人員の推移

資料：H2年～R2年 国勢調査

表 2-1 人口、世帯数、世帯人員の推移

年度	人口	世帯数	世帯人員
H2年	51,610	14,324	3.60
H7年	52,545	15,157	3.47
H12年	52,636	15,902	3.31
H17年	51,862	16,508	3.14
H22年	50,194	16,706	3.00
H27年	48,167	16,949	2.84
R2年	46,416	17,593	2.64
H17年/H22年	-3.2%	1.2%	-4.4%
H22年/H27年	-4.0%	1.5%	-5.4%
H27年/R2年	-3.6%	3.8%	-7.2%

資料：H2年～R2年 国勢調査

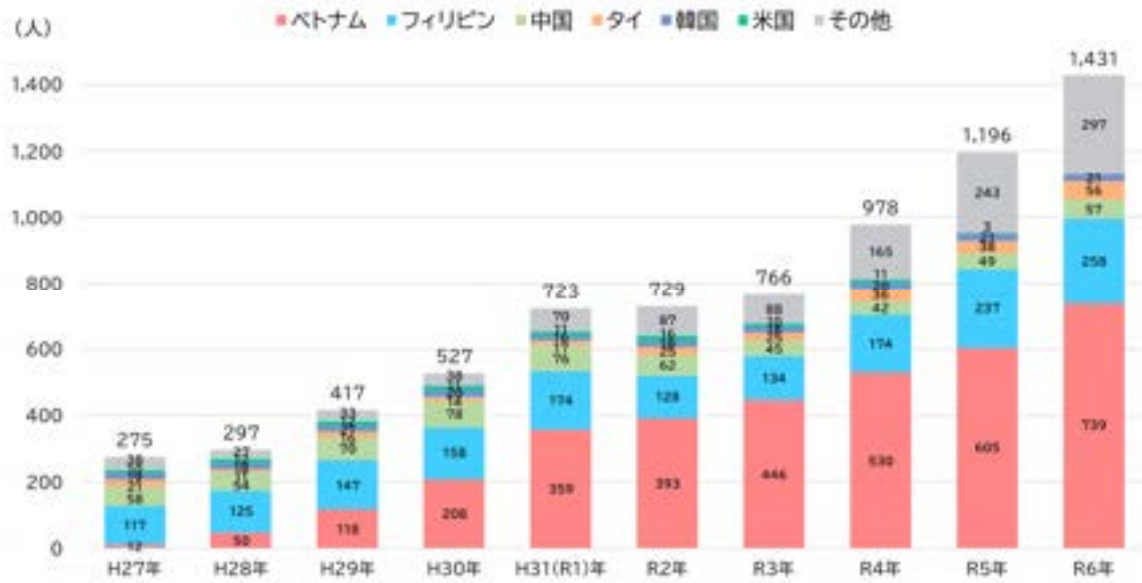


図 2-2 外国人人口の推移

資料:菊池市統計資料 2025

## 2)地域区分別人口

地域区分別人口をみると、行政区域は平成 17 年（2005 年）から減少し、都市計画区域も同様に、減少しています。用途地域は、平成 17 年（2005 年）から平成 27 年（2015 年）にかけて減少していましたが、令和 2 年（2020 年）に増加に転じています。人口集中地区(DID)は減少が続いています。



図 2-3 地域区分別人口の推移

資料:H17年~R2年 国勢調査

表 2-2 地域区分別人口の推移

年度	H17年	H22年	H27年	R2年	H27年/H22年	R2年/H27年
行政区域	51,864	50,194	48,167	46,416	-4.04%	-3.64%
都市計画区域	35,477	34,638	34,609	33,202	-0.08%	-4.07%
用途地域	11,482	10,619	10,235	11,000	-3.62%	7.47%
用途地域指定外区域	23,995	24,019	24,374	22,202	1.48%	-8.91%
人口集中地区(DID)	7,822	7,121	6,695	6,273	-5.98%	-6.30%

資料:H17年~R2年 国勢調査

### 3)地区別人口

#### ①地区別人口増減

最も人口の多い菊池地域は減少傾向を示し、旭志地域、七城地域も同様に減少しています。令和2年(2020年)の国勢調査の結果により、旭志地域は、令和4年(2022年)に過疎地域として指定されました。熊本都市圏に近い泗水地域では、平成22年(2010年)まで増加傾向でしたが、平成27年(2015年)以降は減少しています。

地区別に人口増減をみると、菊池地域の市街地外縁部や、泗水地域の幹線道路沿道などで人口が増加していますが、農業地帯や山間部では人口減少傾向にあります。

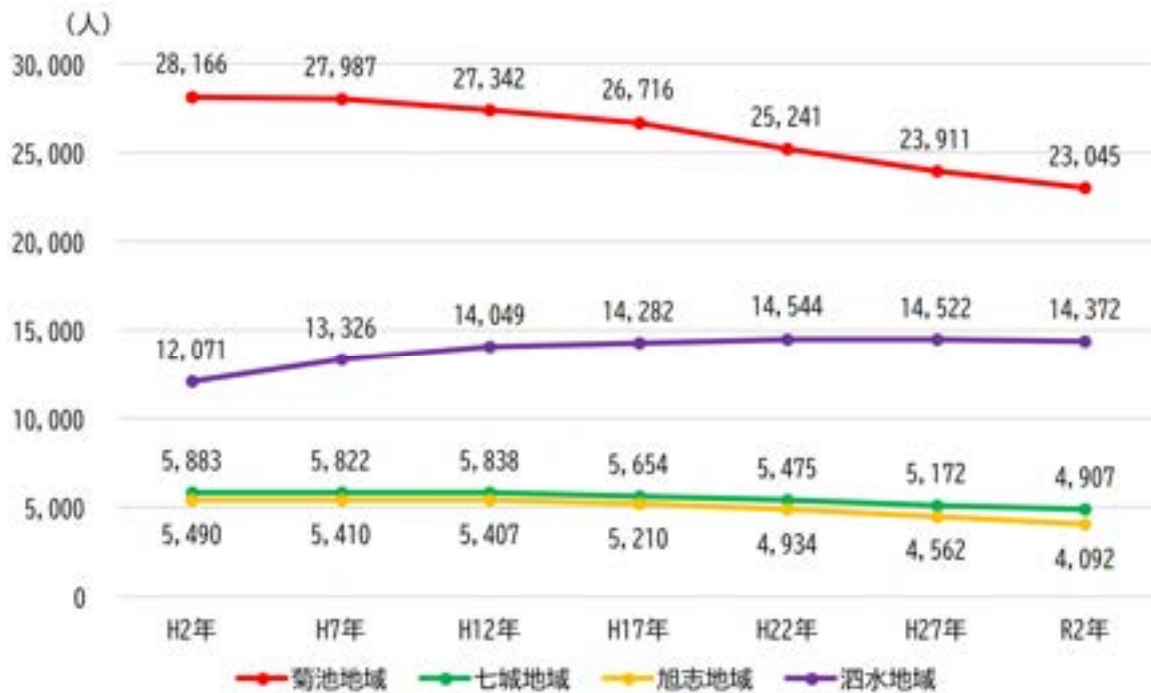


図 2-4 地域別人口の推移

資料: H2年~R2年 国勢調査

表 2-3 地域別人口の推移

年度	菊池地域	七城地域	旭志地域	泗水地域
H2年	28,166	5,883	5,490	12,071
H7年	27,987	5,822	5,410	13,326
H12年	27,342	5,838	5,407	14,049
H17年	26,716	5,654	5,210	14,282
H22年	25,241	5,475	4,934	14,544
H27年	23,911	5,172	4,562	14,522
R2年	23,045	4,907	4,092	14,372
H17/H22	-5.5%	-3.2%	-5.3%	1.8%
H22年/H27年	-5.3%	-5.5%	-7.5%	-0.2%
H27年/R2年	-3.6%	-5.1%	-10.3%	-1.0%

資料: H2年~R2年 国勢調査

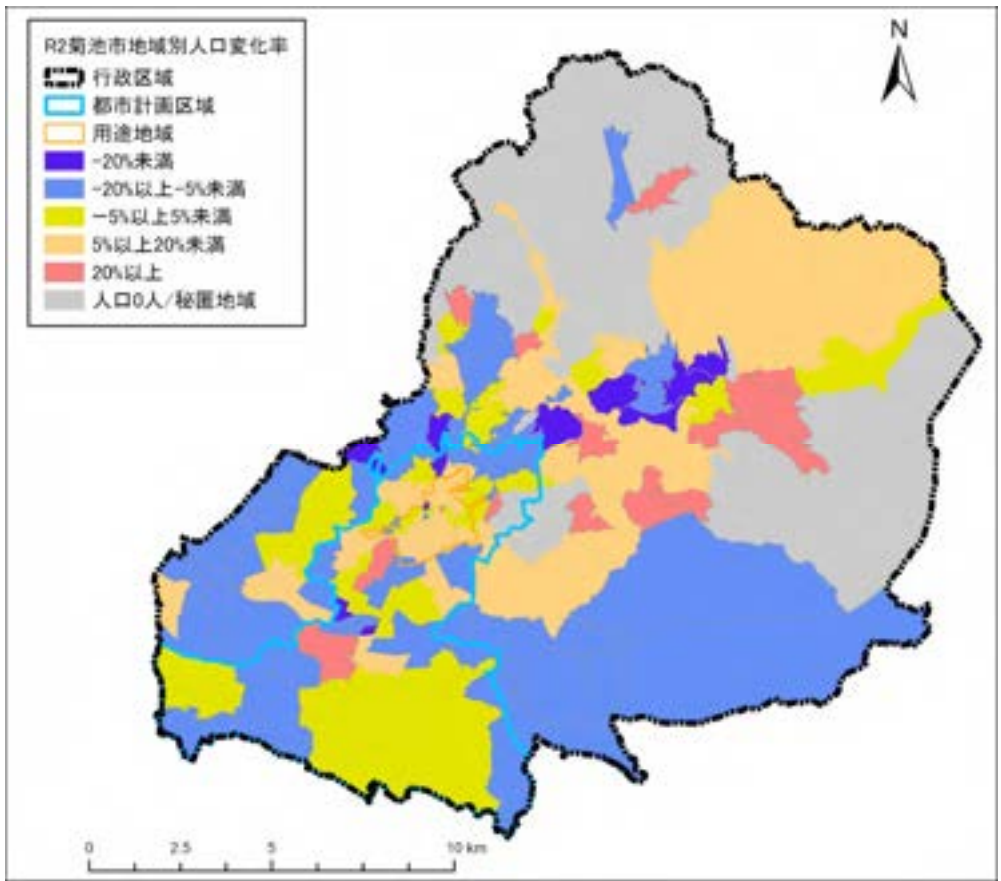


图 2-5 H27-R2 地区別人口増減变化率

資料:H27年~R2年 国勢調査

## ②地区別人口密度

菊池地域の用途地域内は、概ね 10 人/ha～30 人/ha 以上の人口密度を示し、用途地域の外延部では 10 人/ha 以上 20 人/ha 未満がみられます。泗水地域中心部の国道 387 号沿道では 10 人/ha 以上 20 人/ha 未満となっています。都市計画区域外では、10 人/ha 未満の地域がほとんどとなっています。

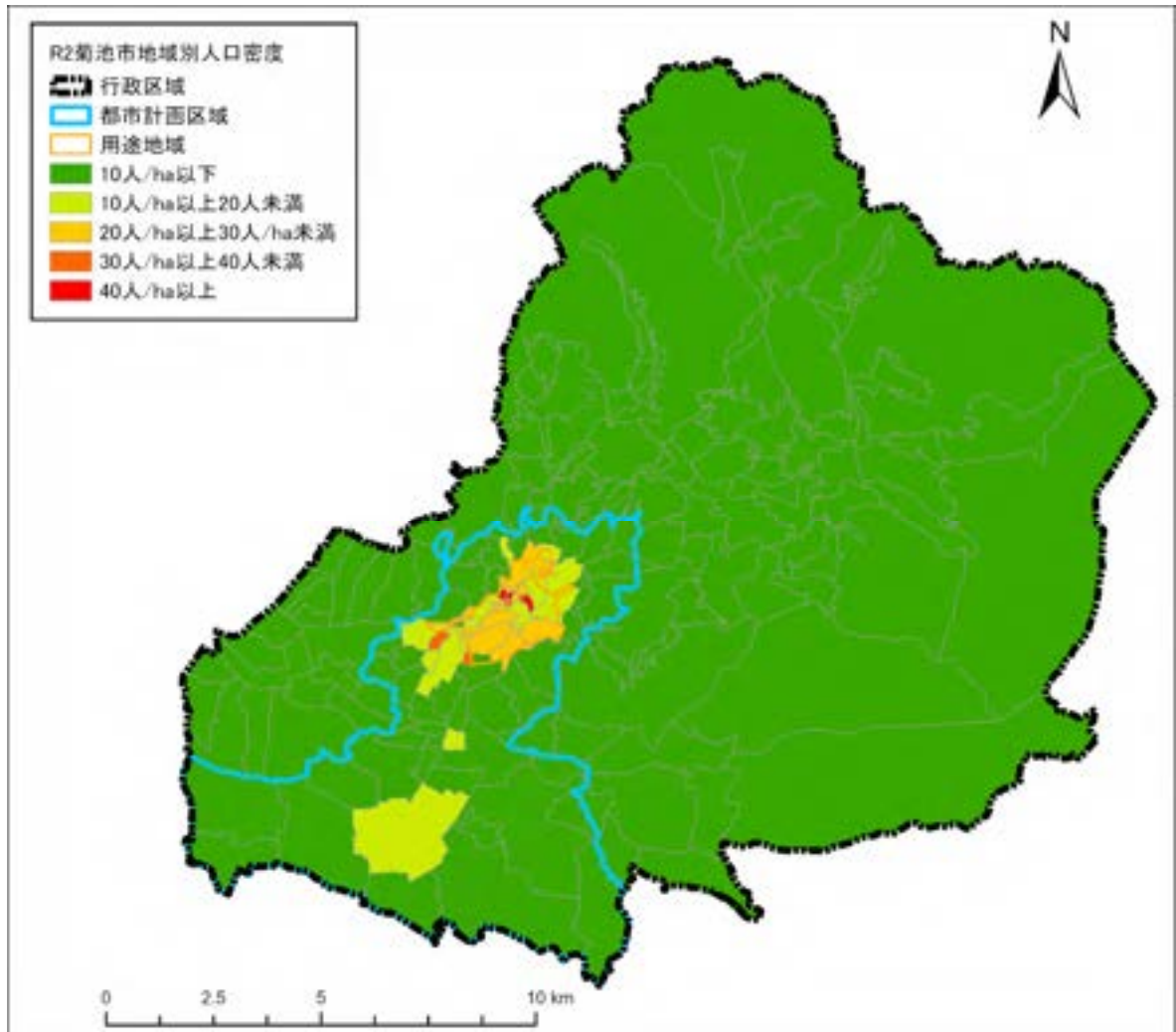


図 2-6 R2 地区別人口密度

資料:R2 年 国勢調査

#### 4)人口集中地区(DID)面積、人口密度

本市の人口集中地区（DID）は、用途地域が指定された菊池中心市街地にのみ指定されています。DID面積は昭和45年（1970年）頃と平成2年（1990年）頃に大きく増加し、その後はほぼ定常状態で現在に至っており、令和2年（2020年）で191haの面積となっています。

DID人口密度は、DID面積の拡大とDID人口の減少で、減少傾向にあります。平成22年（2000年）にDIDの指定要件の目安である40人/haを下回り、令和2年（2020年）には32.8人/haとなっています。

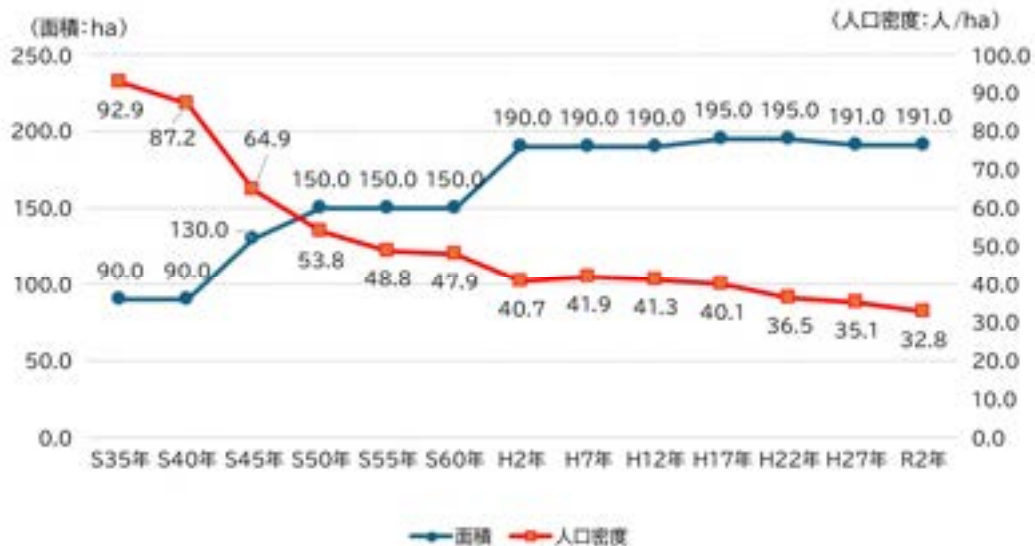


図 2-7 DID 面積と DID 人口密度の推移

資料:S35年～R2年 国勢調査

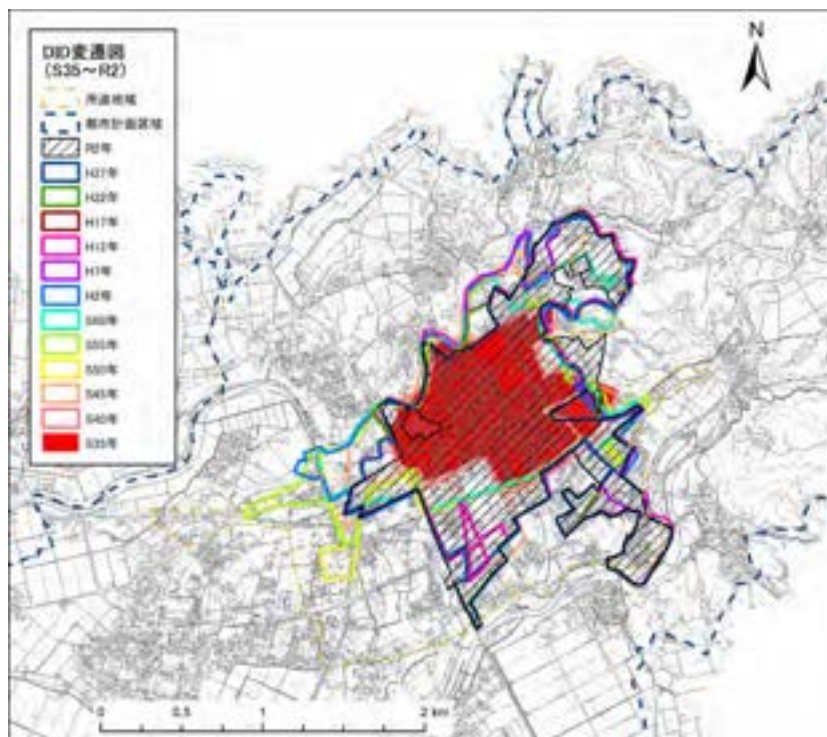


図 2-8 DID 変遷図

資料:S35年～R2年 国土数値情報

## 5)年齢別人口

### ①年齢3区分別人口

本市の年齢3区分別人口をみると、65歳以上人口の増加と15歳未満人口の減少が続いています。

令和2年(2020年)では、市全体の高齢化率は34%と3人に1人は高齢者となり、熊本県全体より3ポイント高くなっています。

七城地域や旭志地域の少子高齢化が進む一方で、泗水地域の高齢化率は30%であり、熊本県平均の高齢化率31%をやや下回っています。

注)年齢不詳は除く。

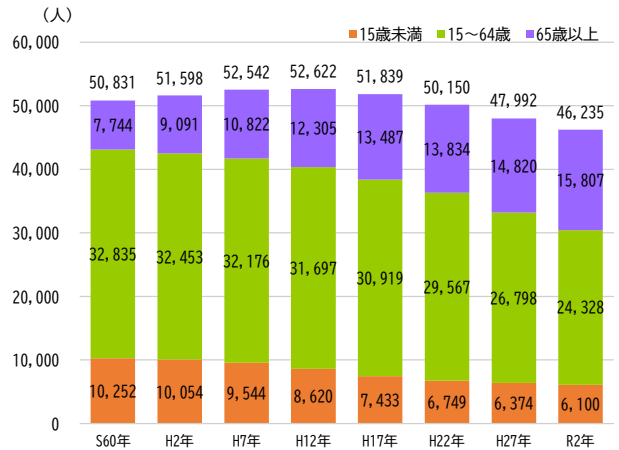


図 2-9 年齢別人口の推移(菊池市)

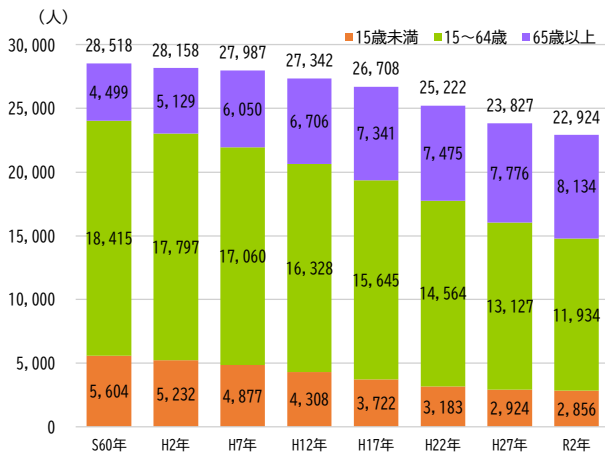


図 2-10 年齢別人口の推移(菊池地区)

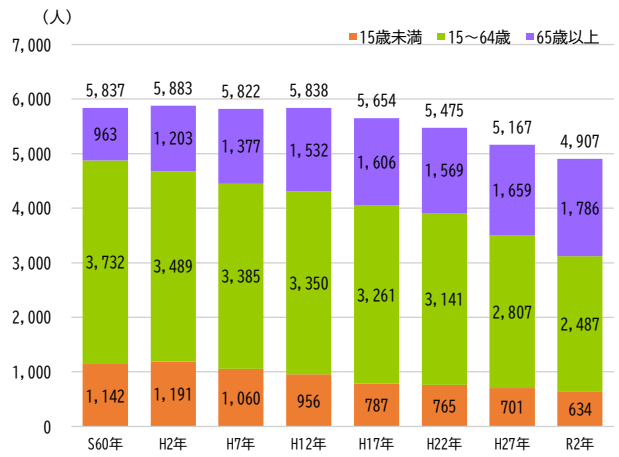


図 2-11 年齢別人口の推移(七城地区)

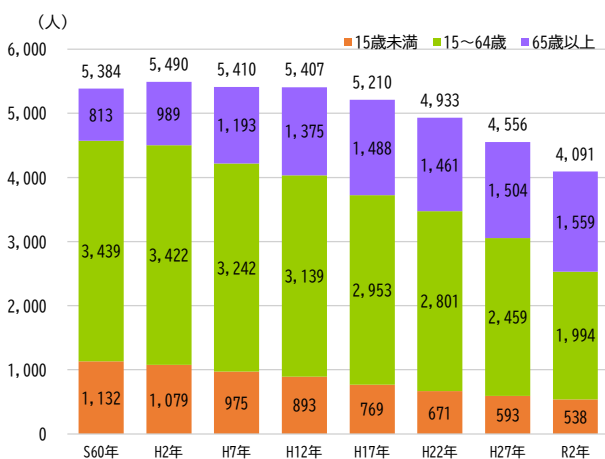


図 2-12 年齢別人口の推移(旭志地区)

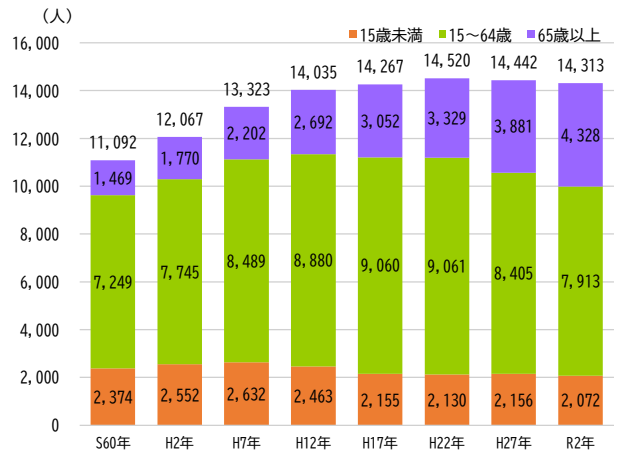


図 2-13 年齢別人口の推移(泗水地区)

資料:S60年~R2年 国勢調査

表 2-4 年齢3区分別人口構成比

菊池市	15歳未満	15～64歳	65歳以上
S60年	20.2%	64.6%	15.2%
H2年	19.5%	62.9%	17.6%
H7年	18.2%	61.2%	20.6%
H12年	16.4%	60.2%	23.4%
H17年	14.3%	59.6%	26.0%
H22年	13.5%	59.0%	27.6%
H27年	13.3%	55.8%	30.9%
R2年	13.1%	52.4%	34.1%

熊本県	15歳未満	15～64歳	65歳以上
S60年	21.2%	65.7%	13.2%
H2年	19.3%	65.1%	15.4%
H7年	17.3%	34.3%	18.3%
H12年	15.5%	63.1%	21.3%
H17年	14.3%	61.8%	23.7%
H22年	13.8%	60.5%	25.6%
H27年	13.6%	57.6%	28.8%
R2年	13.1%	54.3%	31.1%

菊池地域	15歳未満	15～64歳	65歳以上
S60年	19.7%	64.6%	15.8%
H2年	18.6%	63.2%	18.2%
H7年	17.4%	61.0%	21.6%
H12年	15.8%	59.7%	24.5%
H17年	13.9%	58.6%	27.5%
H22年	12.6%	57.7%	29.6%
H27年	12.3%	55.1%	32.6%
R2年	12.4%	51.8%	36.3%

旭志地域	15歳未満	15～64歳	65歳以上
S60年	21.0%	63.9%	15.1%
H2年	19.7%	62.3%	18.0%
H7年	18.0%	59.9%	22.1%
H12年	16.5%	58.1%	25.4%
H17年	14.8%	56.7%	28.6%
H22年	13.6%	56.8%	29.6%
H27年	13.0%	54.0%	33.0%
R2年	13.1%	48.7%	38.1%

七城地域	15歳未満	15～64歳	65歳以上
S60年	19.6%	63.9%	16.5%
H2年	20.2%	59.3%	20.4%
H7年	18.2%	58.1%	23.7%
H12年	16.4%	57.4%	26.2%
H17年	13.9%	57.7%	28.4%
H22年	14.0%	57.4%	28.7%
H27年	13.6%	54.3%	32.1%
R2年	12.9%	50.7%	36.4%

泗水地域	15歳未満	15～64歳	65歳以上
S60年	21.4%	65.4%	13.2%
H2年	21.1%	64.2%	14.7%
H7年	19.8%	63.7%	16.5%
H12年	17.5%	63.2%	19.2%
H17年	15.1%	63.4%	21.4%
H22年	14.7%	62.4%	22.9%
H27年	14.9%	58.2%	26.9%
R2年	14.4%	55.1%	30.1%

資料:S60年～R2年 国勢調査

②5歳階級別人口

平成22年(2010年)から令和2年(2020年)の5歳階級別人口の推移をみると、34歳以下の若年層及び45歳～64歳人口が大きく減少しています。一方で、70～74歳の人口増が大きく、また85歳以上人口は着実に増加傾向にあります。そのため、人口の少子化、高齢化が着実に進行しています。

注)年齢不詳は除く。

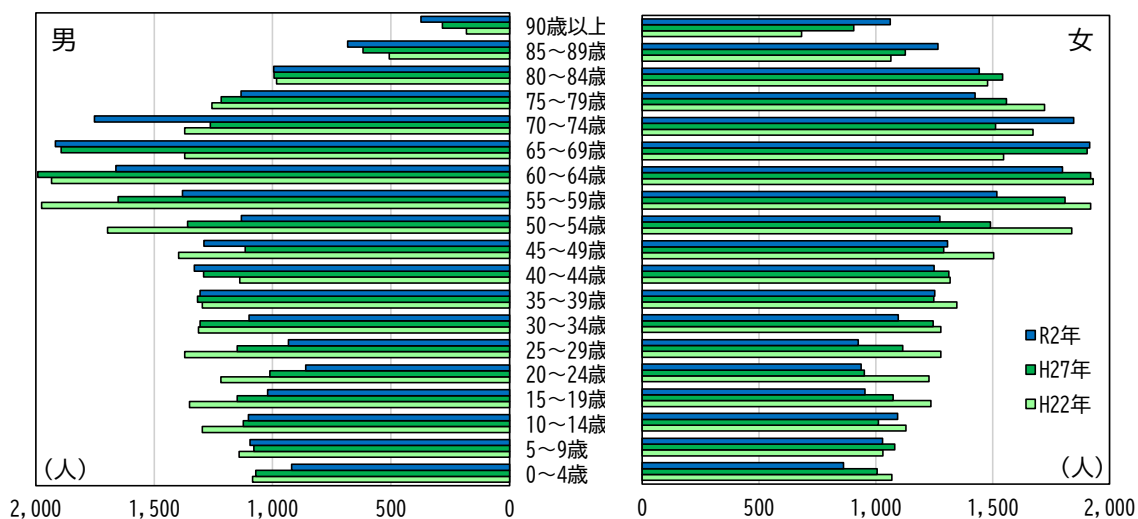


図 2-14 男女別5歳階級別人口(H22～R2年)

資料:H22年～R2年 国勢調査

## 6)500mメッシュ人口(令和2年)

### ①人口密度

本市の人口は、用途地域内と泗水地域中心部、国道387号沿道に集積が多くみられます。用途地域内では概ね20～40人/ha以上の人口密度を示しており、用途地域外延部においても10～20人/haの地区がみられます。泗水地域中心部においても、20～40人/ha以上の人口密度を示しており、国道387号沿道では5～20人/haの地区がみられます。

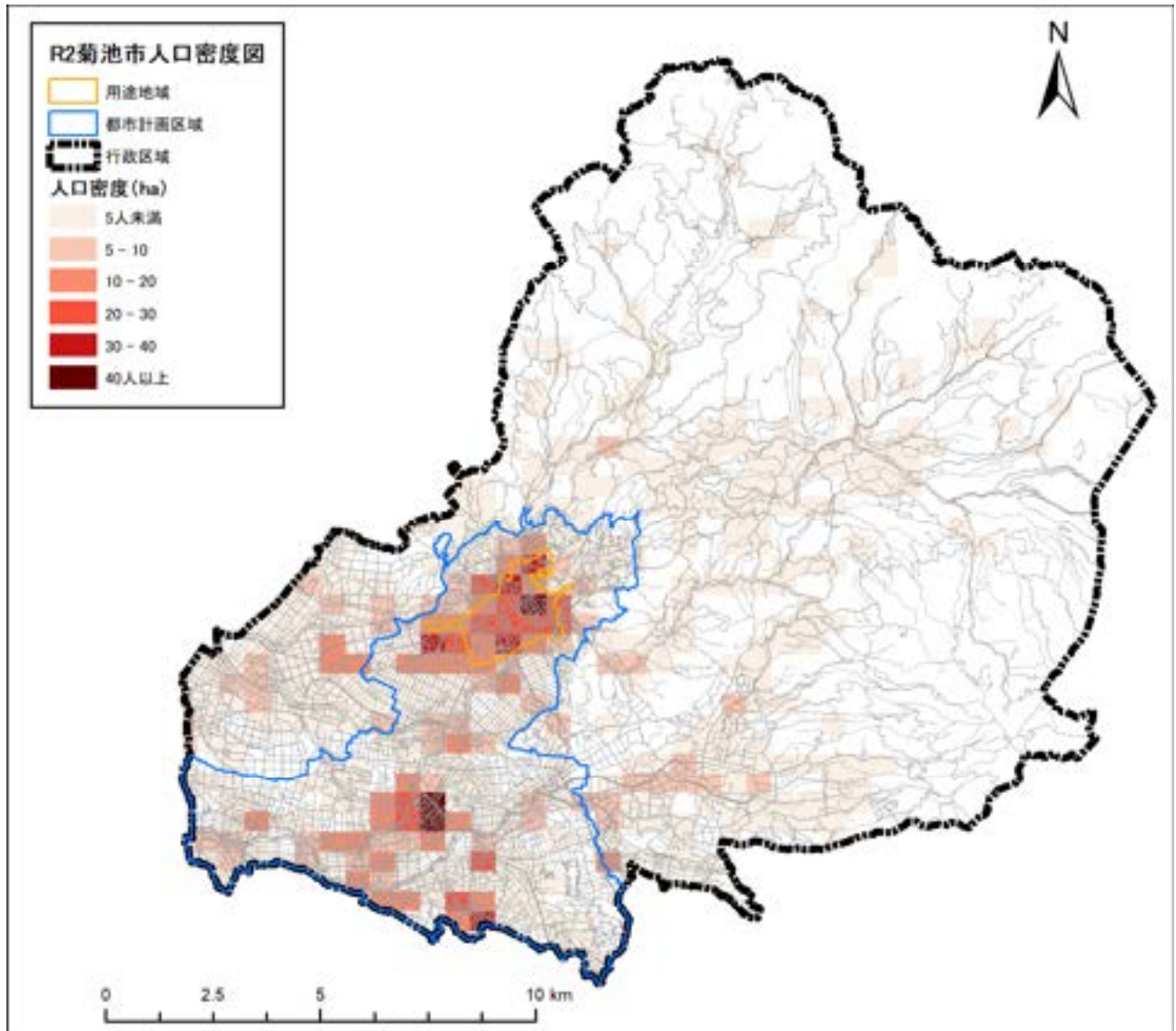


図 2-15 R2 菊池市人口密度図

資料:R2年 国勢調査

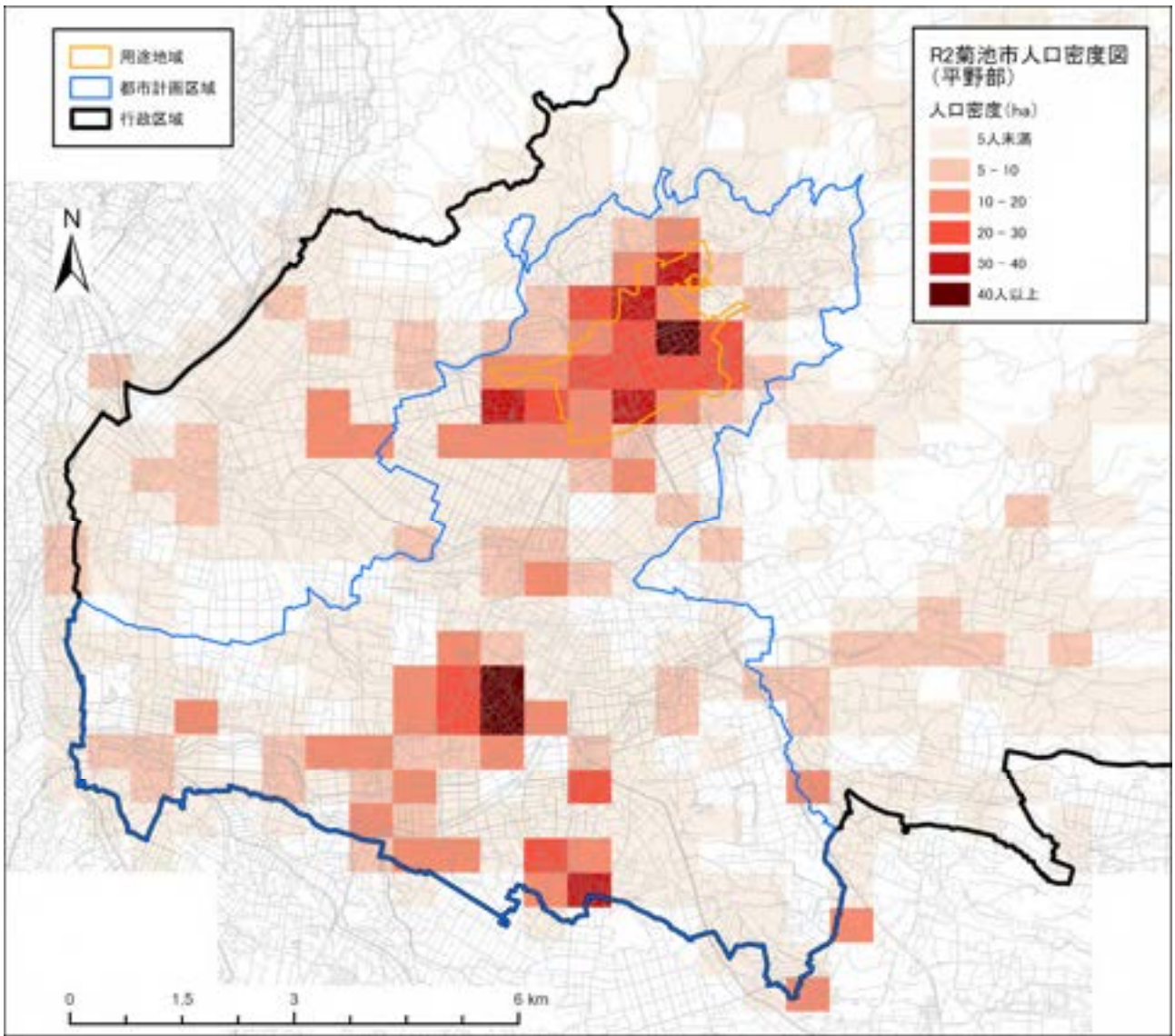


図 2-16 R2 菊池市中心市街地人口密度図

資料:R2年 国勢調査

②人口増減(平成 22 年～平成 27 年と平成 27 年～令和 2 年の比較)

平成 22 年(2010 年)と平成 27 年(2015 年)の人口増減は、用途地域の西側周辺部や泗水地域中心部で増加している地区がみられ、用途地域内において人口が大きく減少している地区がみられます。

また、平成 27 年(2015 年)と令和 2 年(2020 年)の人口増減は、用途地域とその周辺部や泗水地域中心部で増加している地区がみられ、用途地域の一部の地区や国道 387 号沿道一部の地区、旭志地域のグリーンロード沿いの一部の地区で人口が減少傾向がみられます。

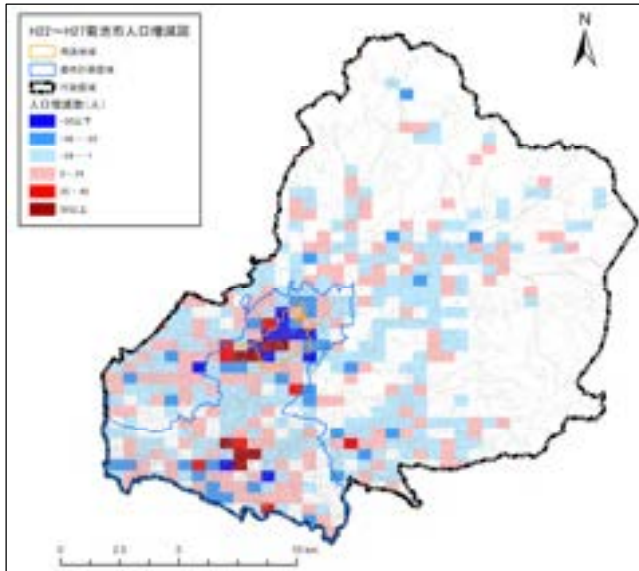


図 2-17 H22～H27 菊池市人口増減図

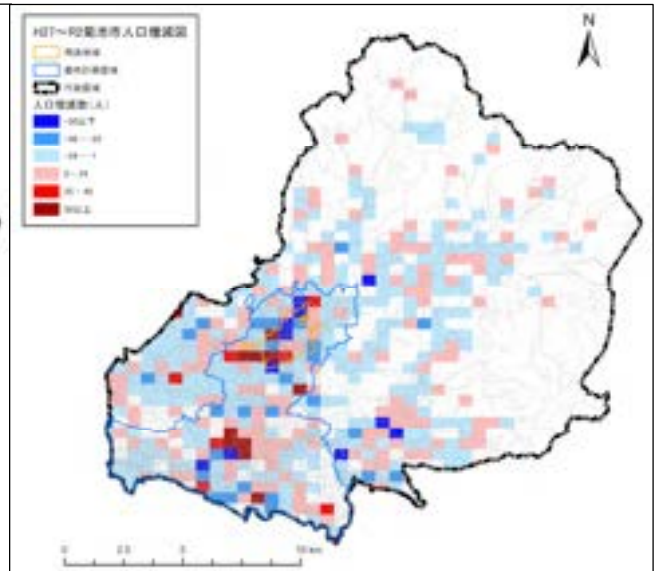


図 2-18 H27～R2 菊池市人口増減図

資料:H22 年、H27 年、R2 年 国勢調査

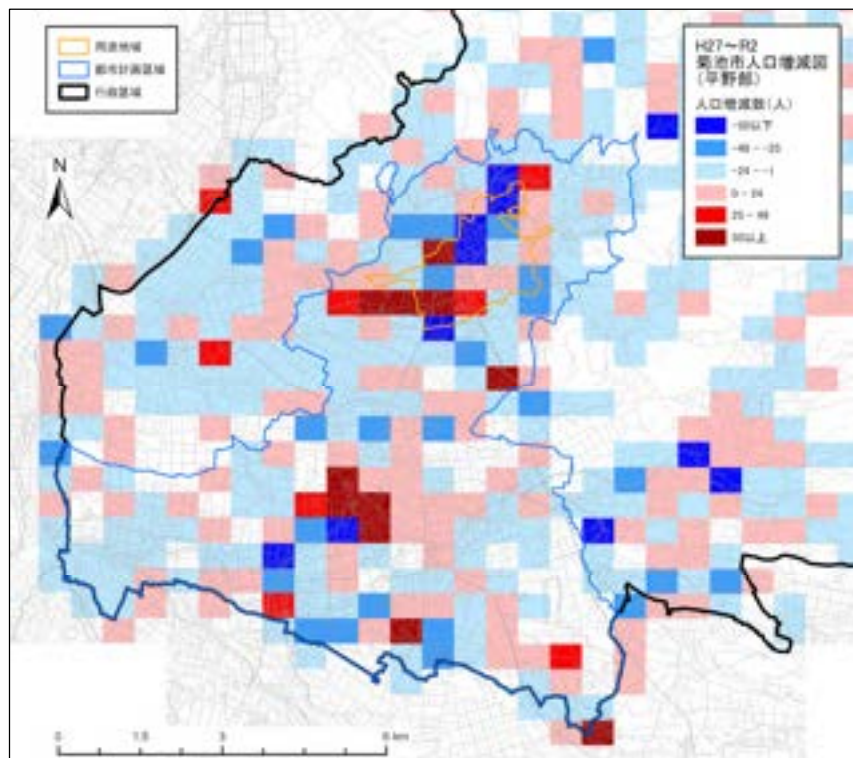


図 2-19 H27～R2 菊池市中心市街地人口増減図

資料:H27 年、R2 年 国勢調査

### ③年齢3区分別人口(小地域)

#### 〔年少人口(15歳未満人口)〕

用途地域周辺や泗水地域や七城地域の一部に、年少人口率が15～20%と、比較的高い地区がみられます。山地部にも、年少人口率が高い地区が一部にみられます。

一方で、用途地域や郊外部、水源地区、迫水地区などの山間部において、年少人口率が低くなっています。

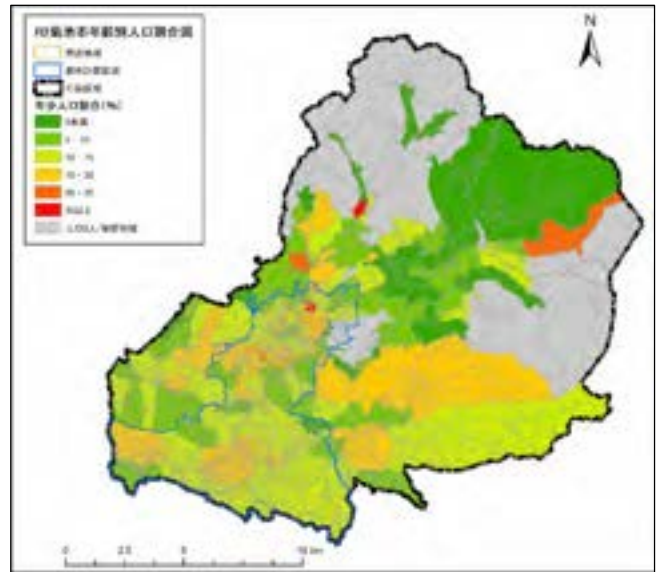


図 2-20 R2 菊池市年少人口割合図

#### 〔生産年齢人口(15～65歳人口)〕

生産年齢人口率は、用途地域や泗水地域、国道387号周辺などが比較的高くなっています。

一方で、用途地域周辺の田園地帯等では、生産年齢人口率が比較的低くなっています。

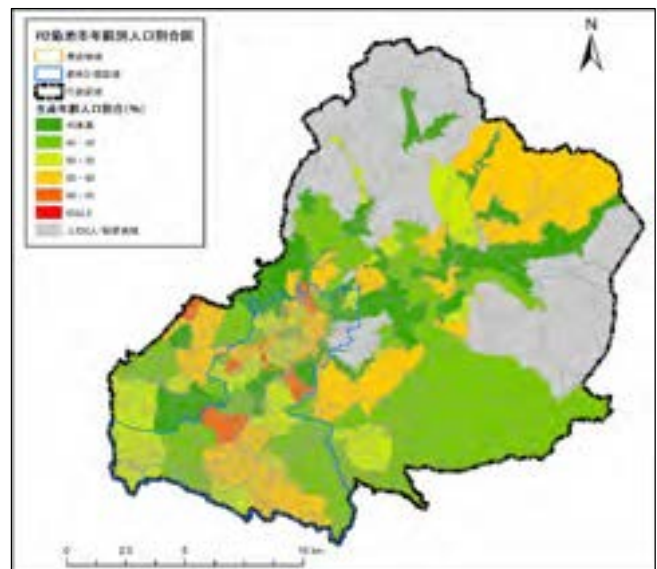


図 2-21 R2 菊池市生産年齢人口割合図

#### 〔老年人口(65歳以上人口)〕

市北部の山間部や用途地域の南側周辺部や七城地域南部においては、老年人口率が高い地区がみられます。

用途地域の縁辺部、国道387号沿道、泗水地域、七城地域中心部などは老年人口率が低い地区がみられます。

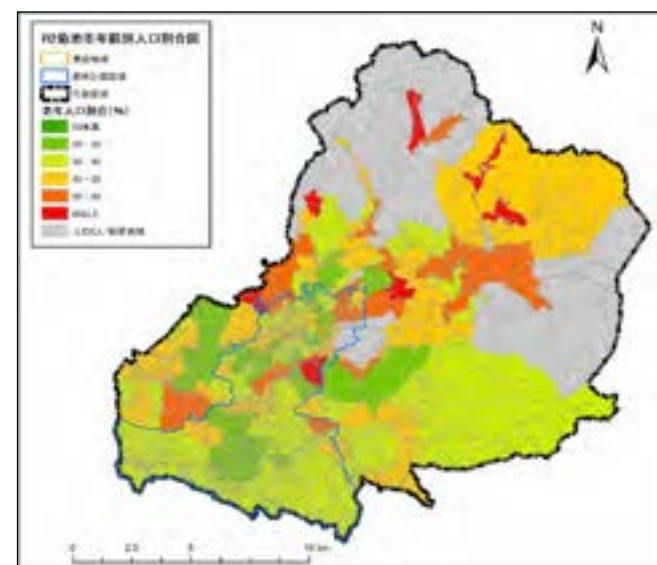


図 2-22 R2 菊池市老年人口割合図  
資料:H27年、R2年 国勢調査

## (2) 将来人口

### 1) 総人口

国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の令和 5 年予測に基づく本市の将来人口をみると、令和 32 年（2050 年）は 32,894 人で、令和 2 年（2020 年）の 46,416 人に対し、13,522 人、29%の減少が予測されています。

第 3 次菊池市総合計画後期基本計画における長期人口ビジョンでは、合計特殊出生率を 1.8 まで上昇・維持し、社会動態（人口流入促進と流出抑制）を±0 にすることで、令和 52（2070）年の目標人口は、31,000 人を確保することを目指しており、令和 32 年（2050 年）の将来人口を 36,673 人と設定しています。これは、令和 2 年（2020 年）の 46,416 人に対し、9,743 人、21%の減少となっています。

社人研の地域別の将来人口をみると、令和 2 年（2020 年）と令和 32 年（2050 年）を比較して、旭志地域が最も人口減少が大きく、続いて七城地域、菊池地域、泗水地域の順となります。



図 2-23 将来人口

資料：第 3 次菊池市総合計画(R8)長期人口ビジョンによる独自推計、国立社会保障・人口問題研究所(R5)

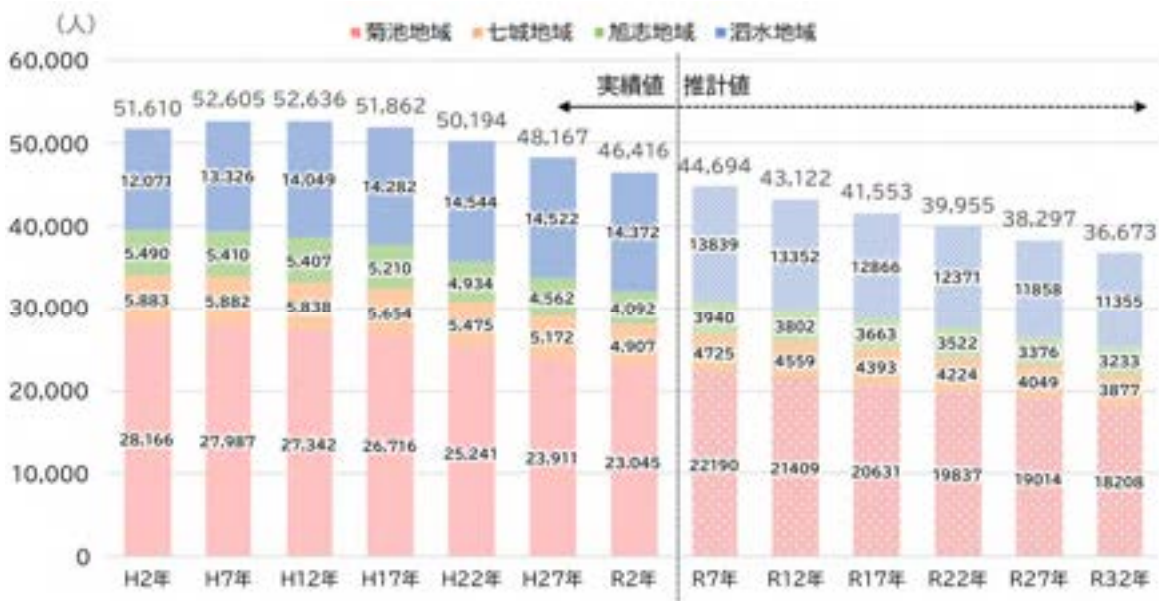


図 2-24 地域別将来人口

資料：第 3 次菊池市総合計画(R8)長期人口ビジョンによる独自推計、H2 年～R2 年国勢調査

表 2-5 地域別将来人口

		菊池市	菊池地域	七城地域	旭志地域	泗水地域	熊本県
実績値	S60年(1985)	50,831	28,518	5,837	5,384	11,092	1,837,747
	H2年(1990)	51,610	28,166	5,883	5,490	12,071	1,840,326
	H7年(1995)	52,545	27,987	5,822	5,410	13,326	1,859,793
	H12年(2000)	52,636	27,342	5,838	5,407	14,049	1,859,344
	H17年(2005)	51,862	26,716	5,654	5,210	14,282	1,842,233
	H22年(2010)	50,194	25,241	5,475	4,934	14,544	1,817,426
	H27年(2015)	48,167	23,911	5,172	4,562	14,522	1,786,170
	R2年(2020)	46,416	23,045	4,907	4,092	14,372	1,738,301
推計値	R7年(2025)	44,156	21,912	4,600	3,817	13,827	1,682,049
	R12年(2030)	41,825	20,678	4,319	3,554	13,274	1,621,541
	R17年(2035)	39,552	19,481	4,051	3,321	12,699	1,558,377
	R22年(2040)	37,336	18,299	3,802	3,102	12,133	1,492,907
	R27年(2045)	35,097	17,125	3,557	2,882	11,533	1,424,528
	R32年(2050)	32,894	15,993	3,306	2,669	10,926	1,355,329

資料:S60年~R2年 国勢調査、R5年 国立社会保障・人口問題研究所

表 2-6 地域別将来人口指標(令和2年を100とした)

		菊池市	菊池地域	七城地域	旭志地域	泗水地域	熊本県
実績値	S60年(1985)	110	124	119	132	77	106
	H2年(1990)	111	122	120	134	84	106
	H7年(1995)	113	121	119	132	93	107
	H12年(2000)	113	119	119	132	98	107
	H17年(2005)	112	116	115	127	99	106
	H22年(2010)	108	110	112	121	101	105
	H27年(2015)	104	104	105	111	101	103
	R2年(2020)	100	100	100	100	100	100
推計値	R7年(2025)	95	95	94	93	96	97
	R12年(2030)	90	90	88	87	92	93
	R17年(2035)	85	85	83	81	88	90
	R22年(2040)	80	79	77	76	84	86
	R27年(2045)	76	74	72	70	80	82
	R32年(2050)	71	69	67	65	76	78

資料:S60年~R2年 国勢調査、R5年 国立社会保障・人口問題研究所

## 2)年齢 3 区分別人口

地域別年齢 3 区分別将来人口構成比をみると、市全体では、令和 32 年（2050 年）には 65 歳以上人口率が 41%と、令和 2 年（2020 年）の 34%に対し 7 ポイント増加しています。

15 歳未満人口は、令和 32 年（2050 年）には 12%で、2020 年の 13%より 1 ポイント減少しています。地域別にみると、最も高齢化が進むのは七城地域で、令和 32 年（2050 年）には 65 歳以上人口率は 43%と非常に高くなります。菊池地域や旭志地域においても、65 歳以上人口率が 42%を超えることが予測されています。

表 2-7 地域別年齢 3 区分別将来人口構成比

	菊池市			菊池地域			七城地域			旭志地域			泗水地域		
	15歳未満	15～64歳	65歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上
R2年(2020)	13.2%	52.6%	34.2%	12.5%	52.1%	35.5%	12.9%	50.7%	36.4%	13.2%	48.7%	38.1%	14.5%	55.3%	30.2%
R7年(2025)	12.5%	51.1%	36.4%	12.0%	50.3%	37.6%	11.9%	49.0%	39.1%	11.4%	48.0%	40.6%	13.7%	53.9%	32.4%
R12年(2030)	11.8%	50.5%	37.8%	11.6%	49.3%	39.1%	10.7%	48.9%	40.4%	10.3%	47.1%	42.6%	12.8%	53.7%	33.4%
R17年(2035)	11.6%	50.3%	38.1%	11.4%	49.2%	39.3%	10.7%	49.0%	40.3%	10.4%	47.4%	42.2%	12.4%	53.2%	34.4%
R22年(2040)	11.6%	49.4%	39.0%	11.4%	48.5%	40.1%	11.0%	48.2%	40.8%	10.9%	46.9%	42.2%	12.2%	51.8%	36.0%
R27年(2045)	11.7%	48.4%	39.9%	11.5%	48.0%	40.5%	11.3%	46.0%	42.6%	11.5%	46.6%	41.9%	12.1%	50.2%	37.7%
R32年(2050)	11.8%	47.3%	40.9%	11.5%	46.9%	41.5%	11.7%	45.3%	43.0%	12.0%	45.8%	42.2%	12.0%	48.9%	39.1%

注)年齢不詳は除く。

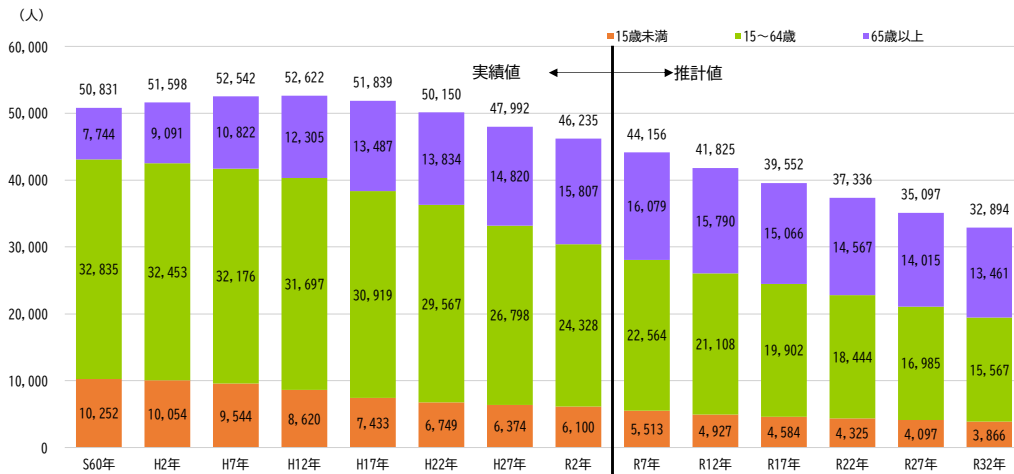


図 2-25 年齢 3 区分別将来人口

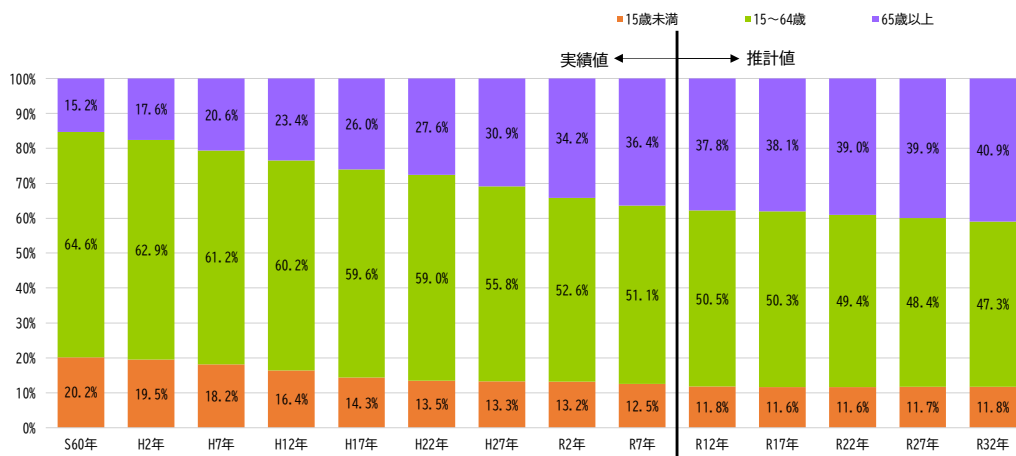


図 2-26 年齢 3 区分別将来人口構成比

資料:S60年～R2年 国勢調査、R5年 国立社会保障・人口問題研究所

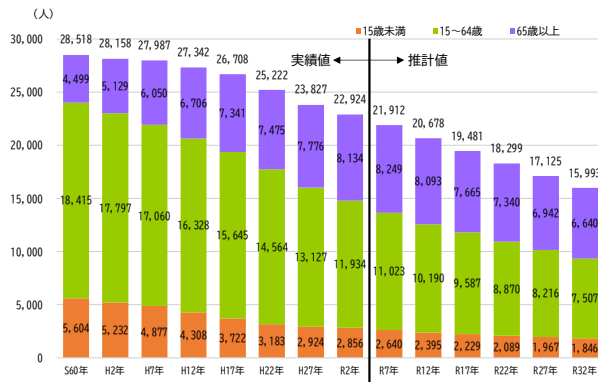


図 2-27 年齢 3 区分別将来人口(菊池地域)

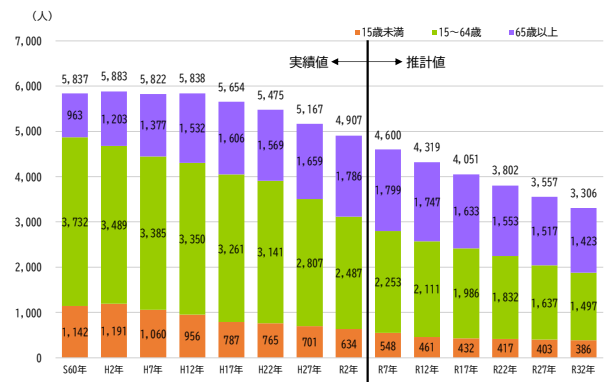


図 2-28 年齢 3 区分別将来人口(七城地域)

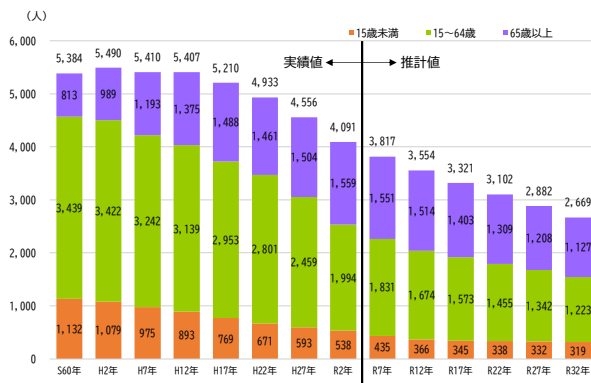


図 2-29 年齢 3 区分別将来人口(旭志地域)

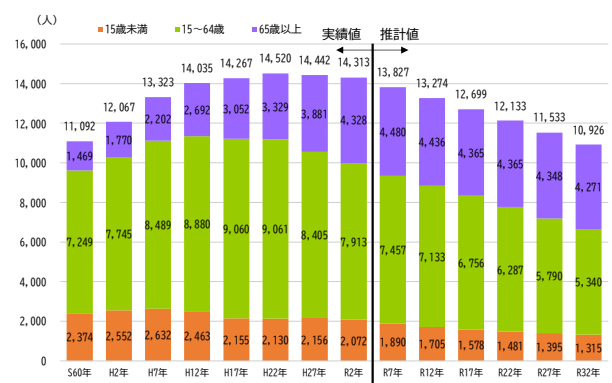


図 2-30 年齢 3 区分別将来人口(泗水地域)

資料:S60年~R2年 国勢調査、R5年 国立社会保障・人口問題研究所

### 3)メッシュ別将来人口分布

#### ①将来人口増減

1 kmメッシュの令和2年(2020年)～令和32年(2050年)にかけての人口増減率をみると、市全体の人口が減少していくことが予測されます。都市計画区域の大部分では、人口が25%～50%減少すると予測されています。中山間部や七城地域の一部で50%～75%の減少が見込まれている地区もみられます。

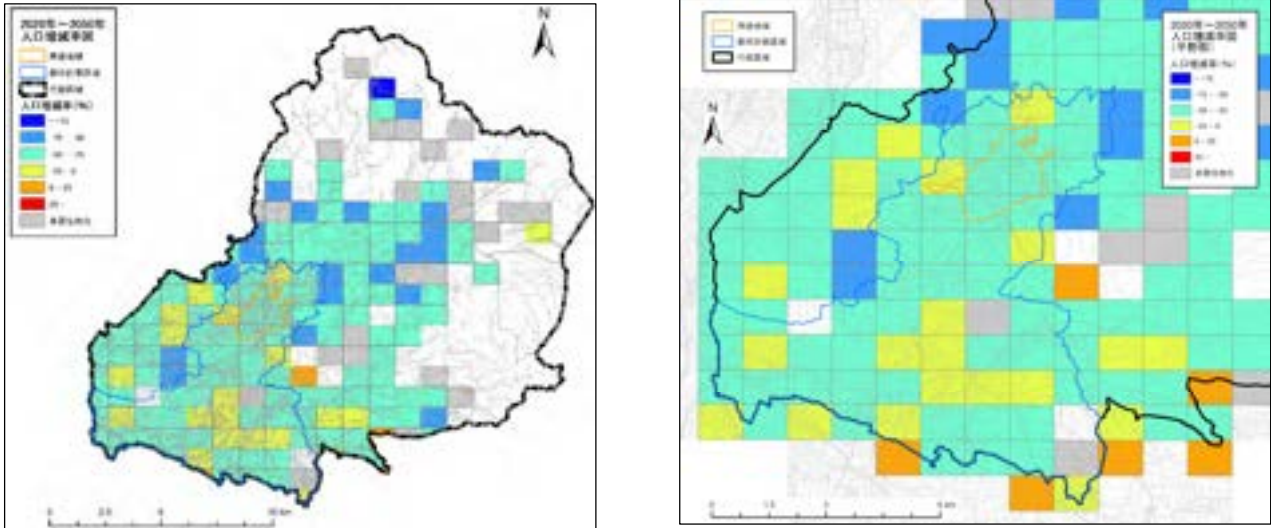


図 2-31 1kmメッシュ2020年～2050年人口増減率図

資料:国土数値情報(H30年国政局推計)

500mメッシュにおける、令和12年(2030年)～令和32年(2050年)の人口増減数をみると、概ね市全体で人口減少がみられます。特に、用途地域内や国道387号沿道など、現在、人口集積の多い地区での減少が予測されています。

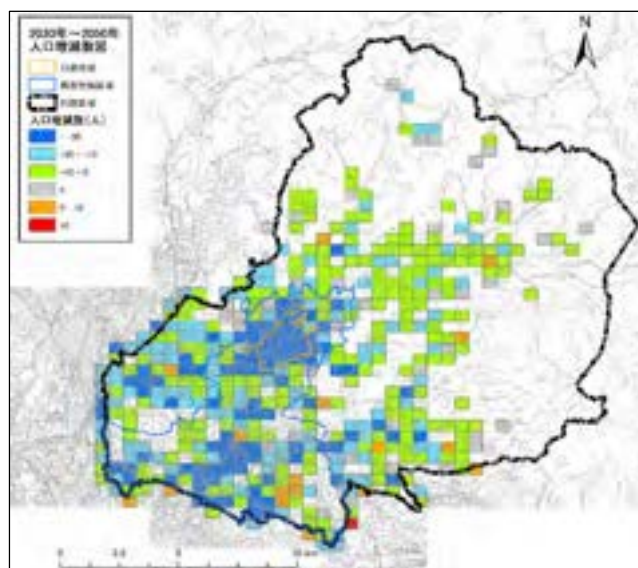


図 2-32 500mメッシュ2030年～2050年人口増減数図

資料:国土数値情報(H30年国政局推計)

## ②メッシュ別セミグロス人口密度

メッシュ別セミグロス人口密度をみると、菊池中心市街地で 50 人/ha を超える箇所がみられ、その周辺では 40 人/ha を超える箇所が多くなっています。泗水地域の菊池農業高校周辺、南部の合志市境界部で 40 人/ha を超える箇所もみられます。

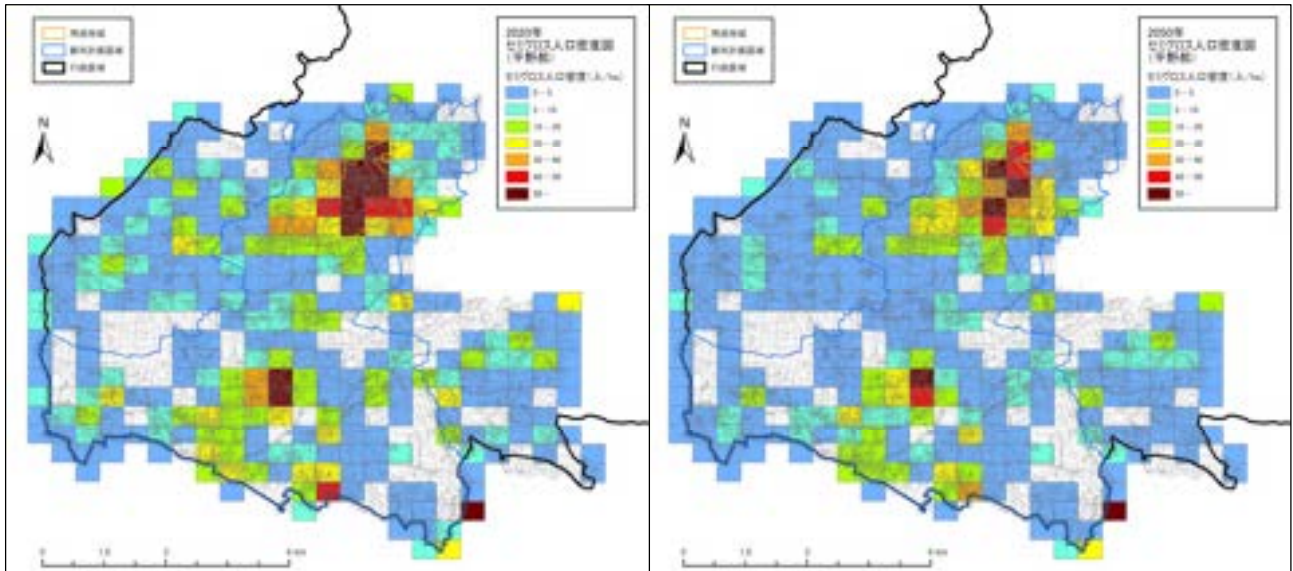


図 2-33 500mメッシュセミグロス人口密度図

資料:国土数値情報(H30年国政局推計)

### ③メッシュ(1km)別年齢3区分別人口増減

令和2年(2020年)と令和32年(2050年)年齢3区分別人口について1kmメッシュで比較すると、年少人口は概ね市全体で25%以上減少していくことが予測されています。泗水地域の一部等では25%以上増加が予測されている箇所もあります。

生産年齢人口も概ね市全体で25%以上減少することが予測されています。

65歳以上は、現在人口が増加している泗水地域を中心に25%以上増加することが予測されています。

75歳以上の後期高齢者は、さらに25%以上増加する箇所が増えることが予測されています。

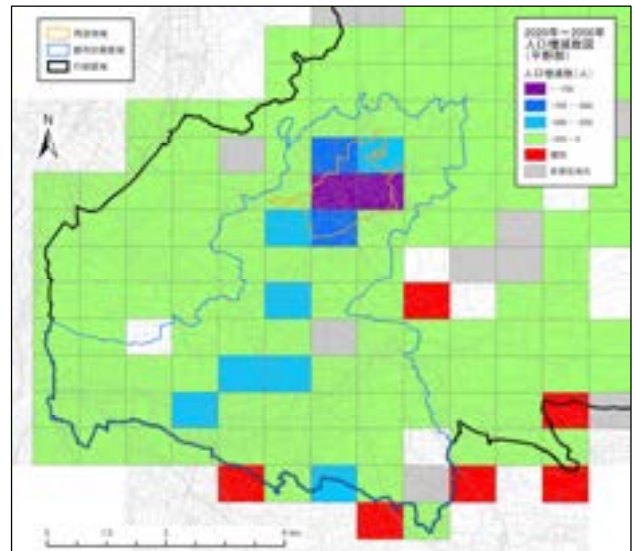
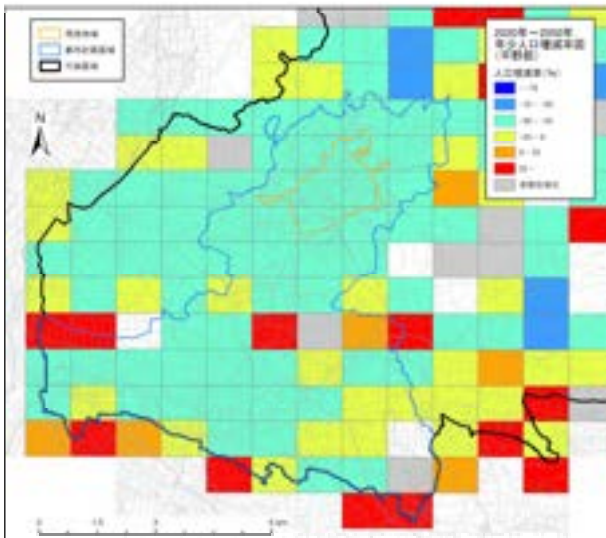
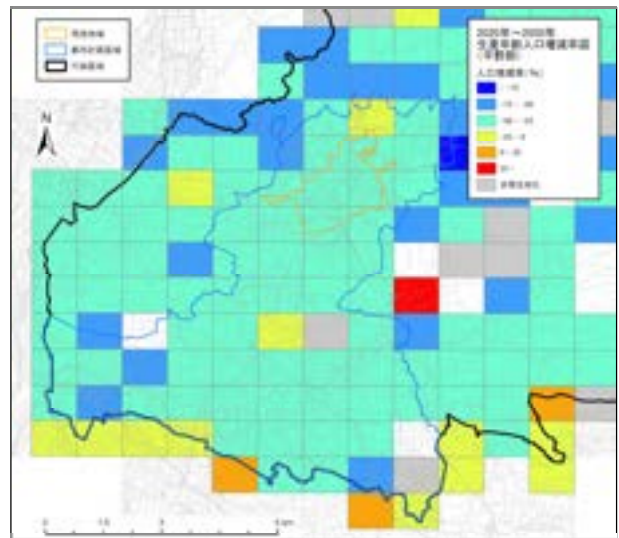


図 2-34 2020年～2050年人口増減図

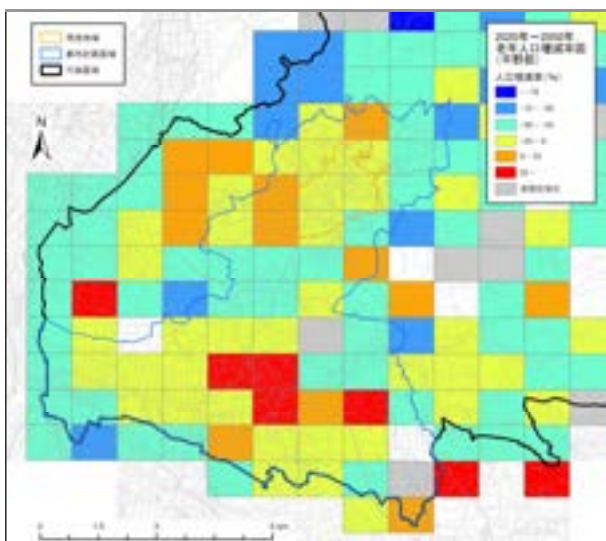
年少人口(0～14歳)



生産年齢人口(15～64歳)



老年人口(65歳以上)



75歳以上人口

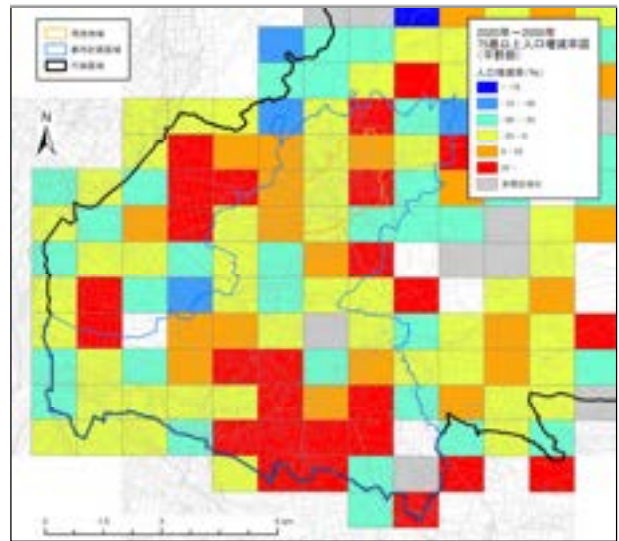


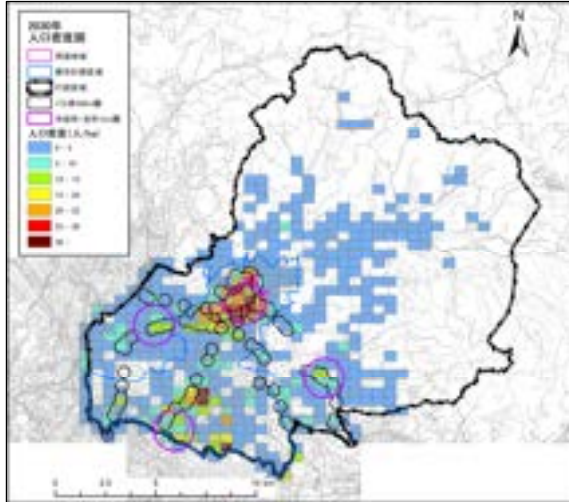
図 2-35 2020～2050年年齢区分別人口増減率図

資料:国土数値情報(H30年 国政局推計)

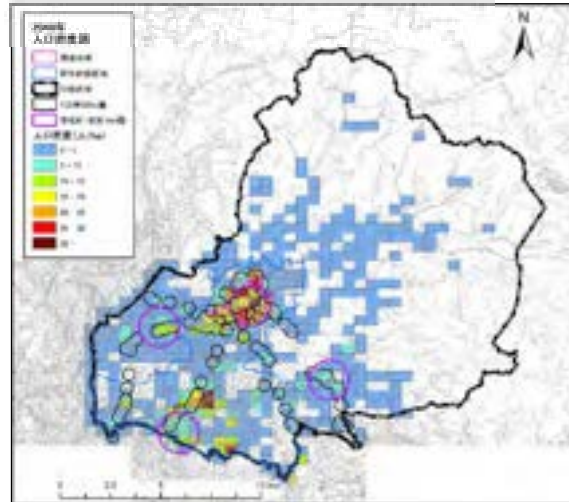
④年齢区分別人口の将来人口の変化予測

【将来全人口予測(500mメッシュ)】

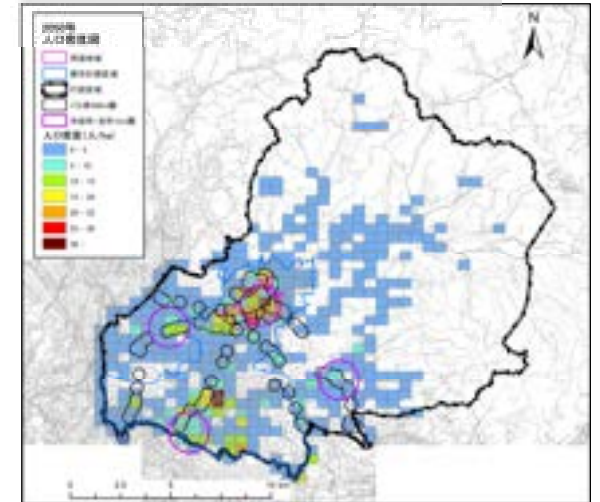
2030年 全市(41,825人)



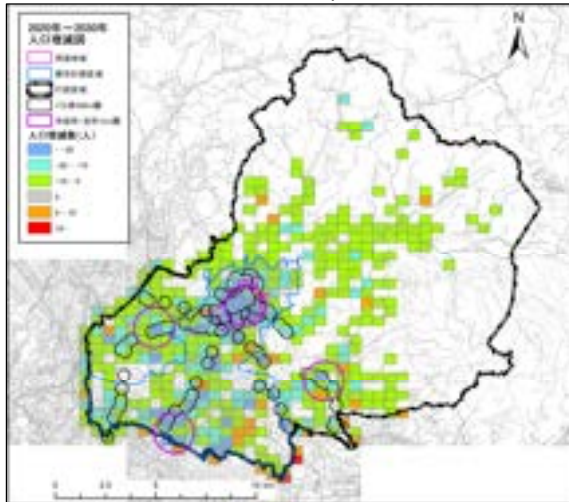
2040年 全市(37,336人)



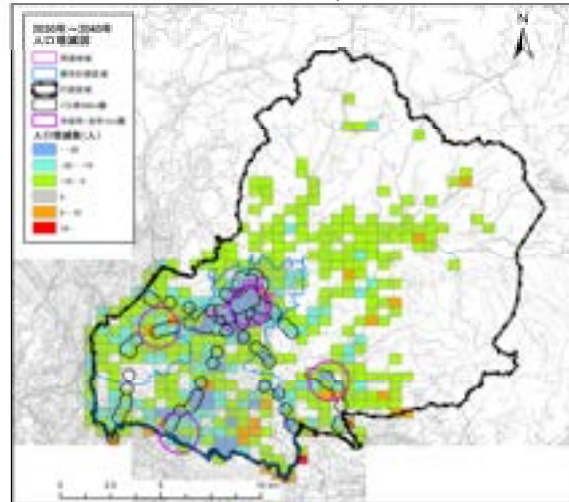
2050年 全市(32,894人)



2020年～2030年(-4,591人/-9.9%)



2030年～2040年(-4,489人/-10.7%)



2040年～2050年(-4,442人/-11.9%)

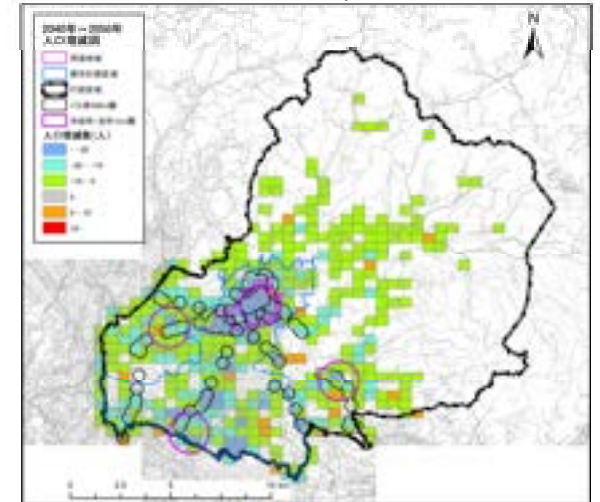
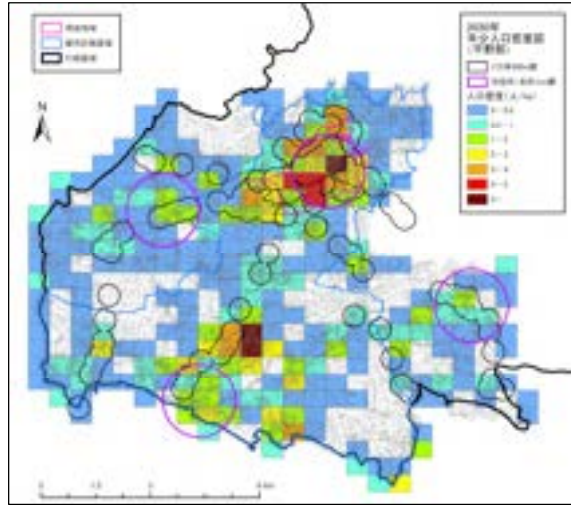


図 2-36 全市人口密度・増減数

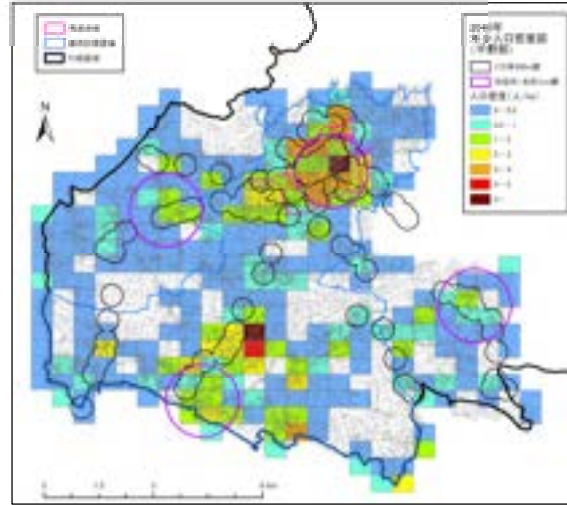
資料:国土数値情報(H30年 国政局推計)

【0～14 歳人口の将来人口予測(500m メッシュ)】

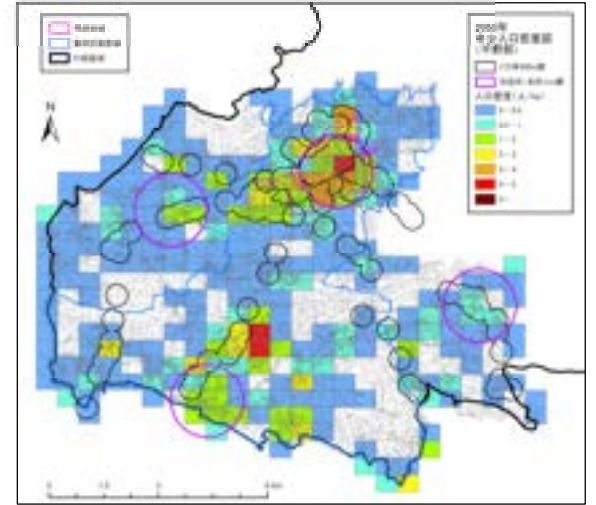
2030 年 全市(4,927 人)



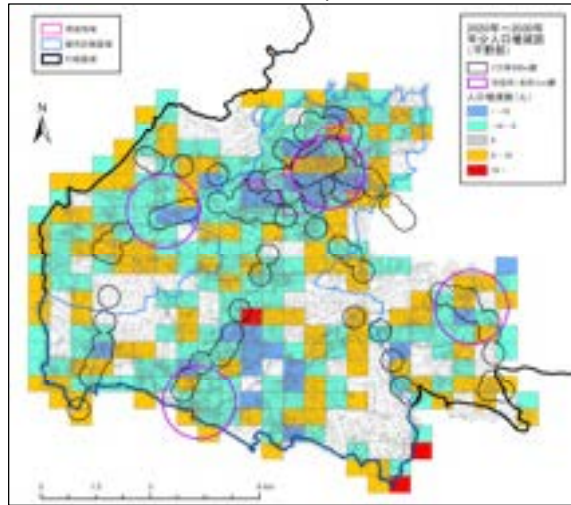
2040 年 全市(4,325 人)



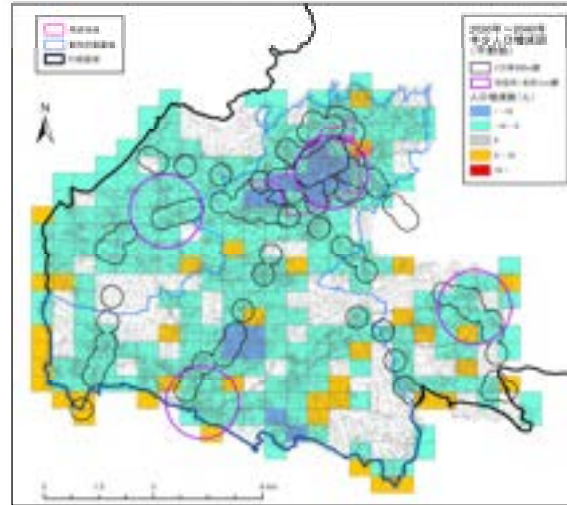
2050 年 全市(3,866 人)



2020 年～2030 年(-1,182 人/-19.3%)



2030 年～2040 年(-602 人/-12.2%)



2040 年～2050 年(-459 人/-10.6%)

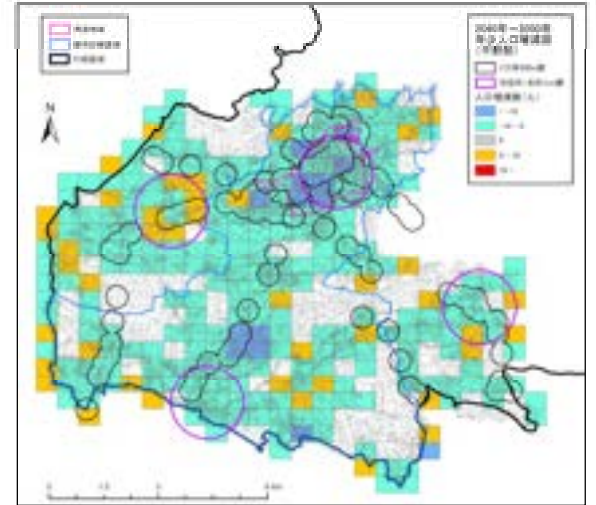
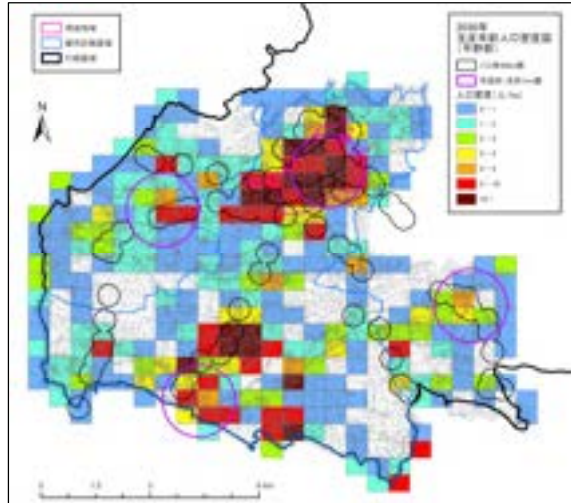


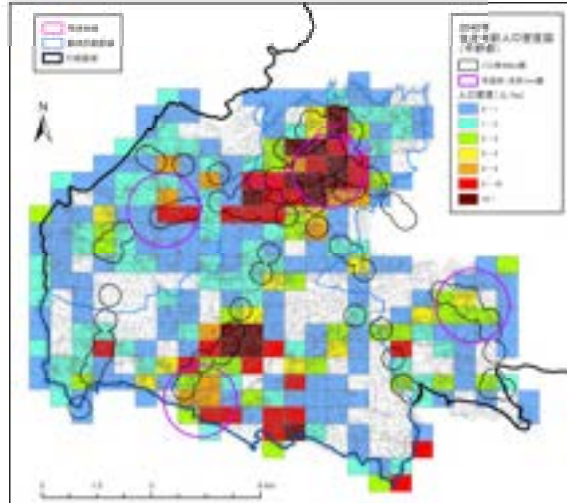
図 2-37 年少(0～14 歳)人口密度・増減数(平野部拡大図)

【15～64 歳人口の将来人口予測(500m メッシュ)】

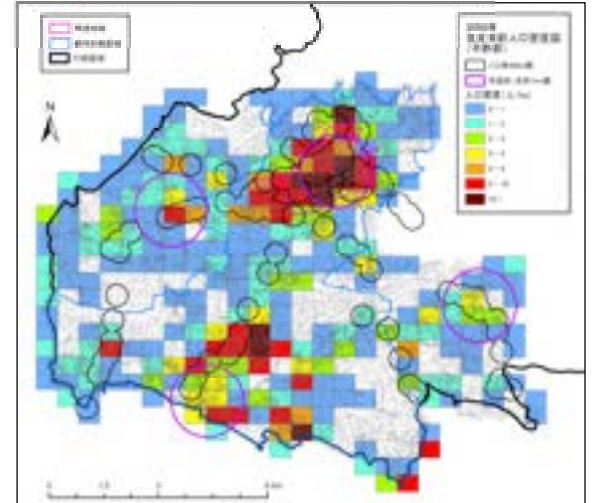
2030 年 全市(21,108 人)



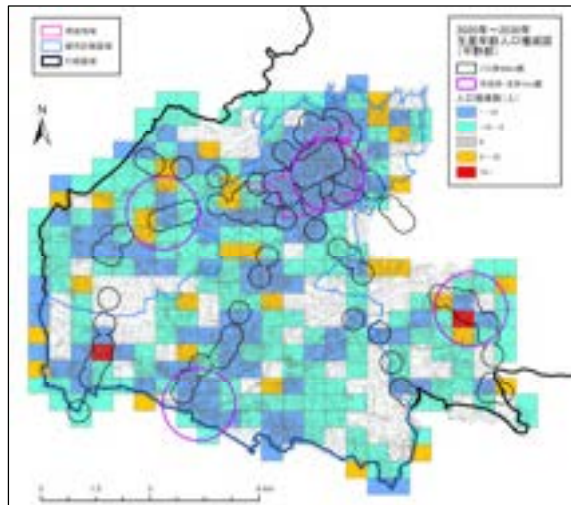
2040 年 全市(18,444 人)



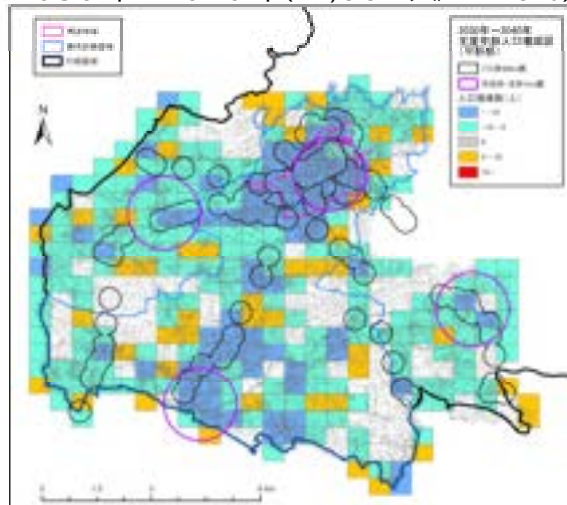
2050 年 全市(15,567 人)



2020 年～2030 年(-3,366 人/-13.8%)



2030 年～2040 年(-2,664 人/-12.6%)



2040 年～2050 年(-2,877 人/-15.6%)

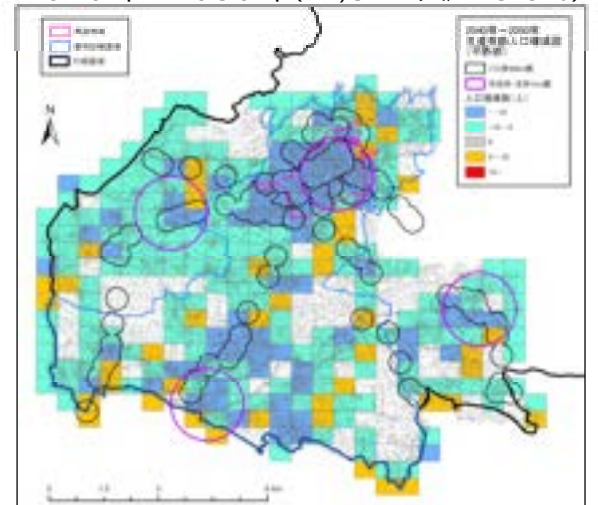
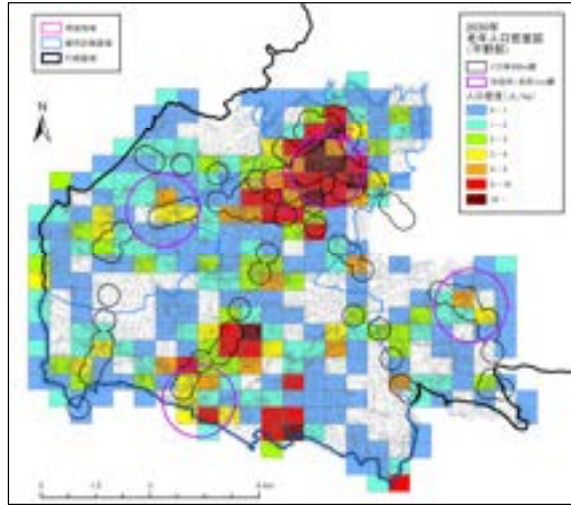


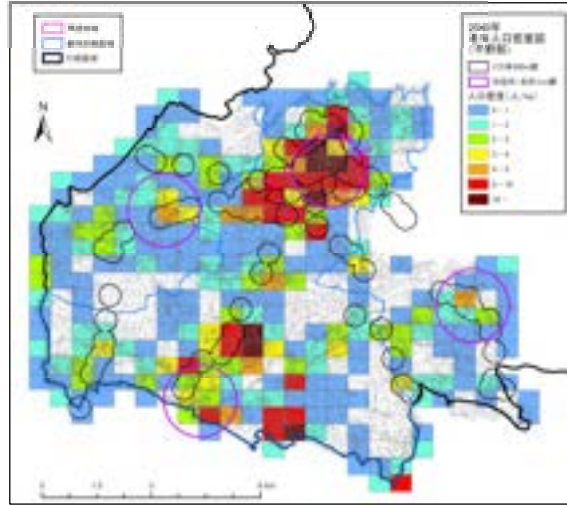
図 2-38 生産年齢(15～64 歳)人口密度・増減数(平野部拡大図)

【65 歳以上人口の将来人口予測(500m メッシュ)】

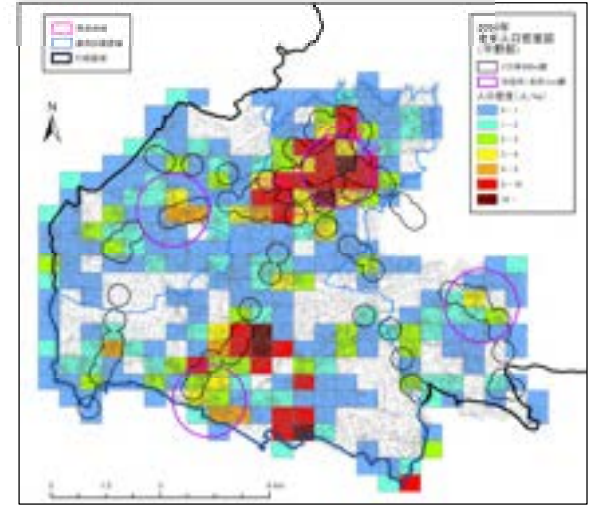
2030年 全市(15,790人)



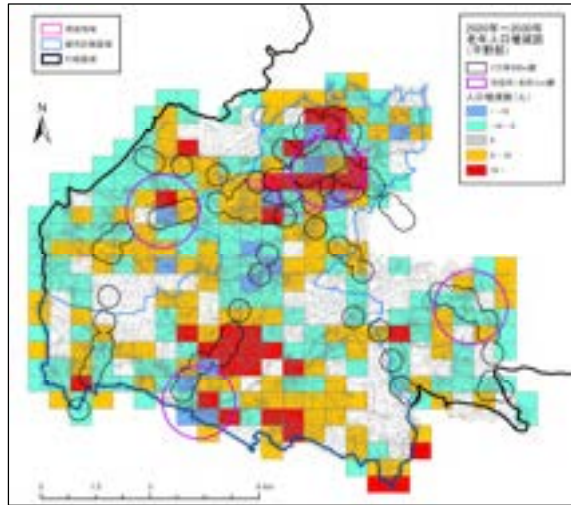
2040年 全市(14,567人)



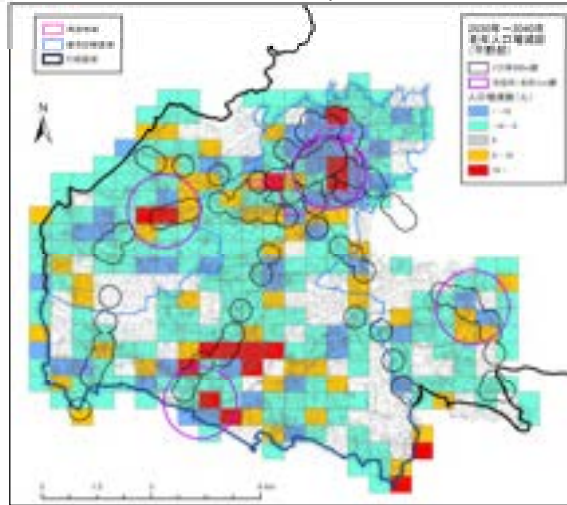
2050年 全市(13,461人)



2020年~2030年(-43人/-0.3%)



2030年~2040年(-1,223人/-7.7%)



2040年~2050年(-1,106人/-7.6%)

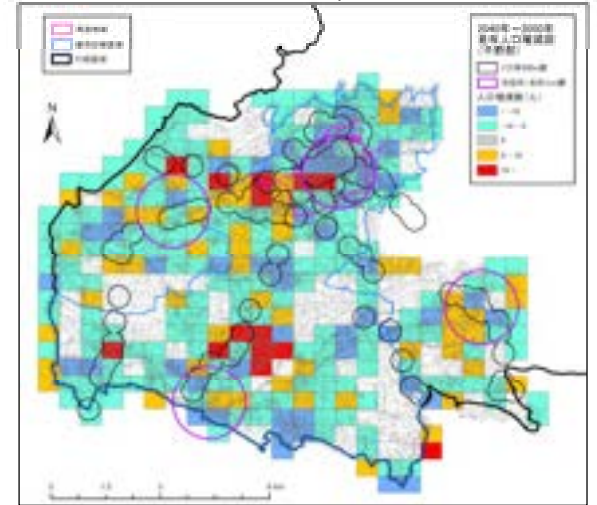
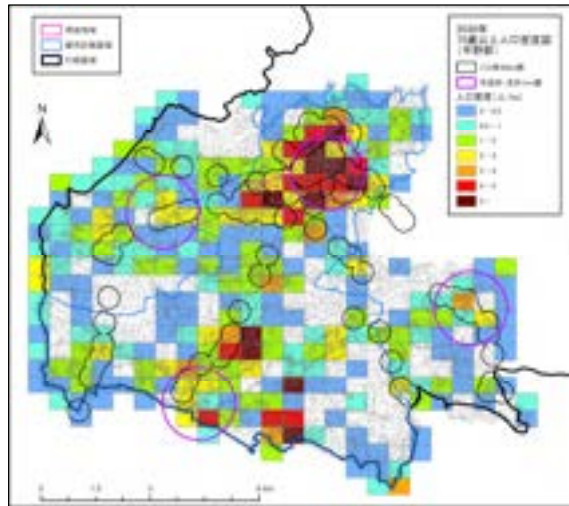


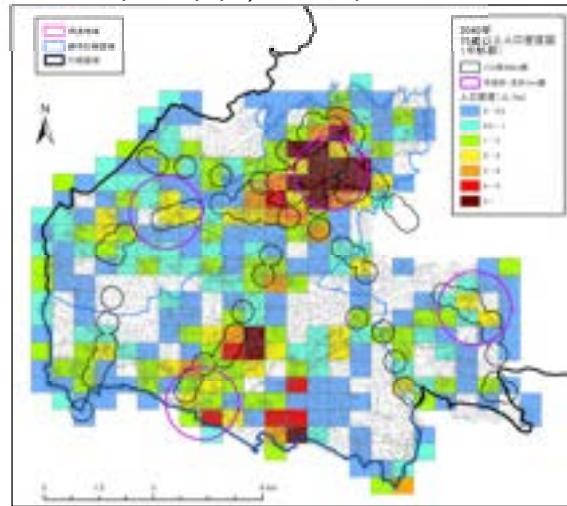
図 2-39 老年(65歳以上)人口密度・増減数(平野部拡大図)

【75歳以上人口の将来人口予測(500m メッシュ)】

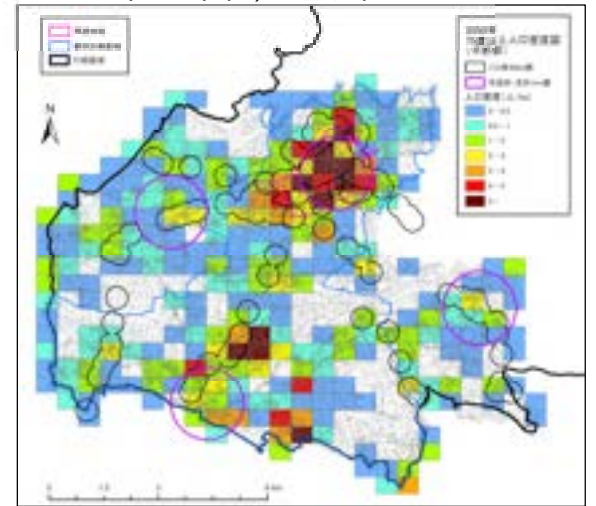
2030年 全市(9,691人)



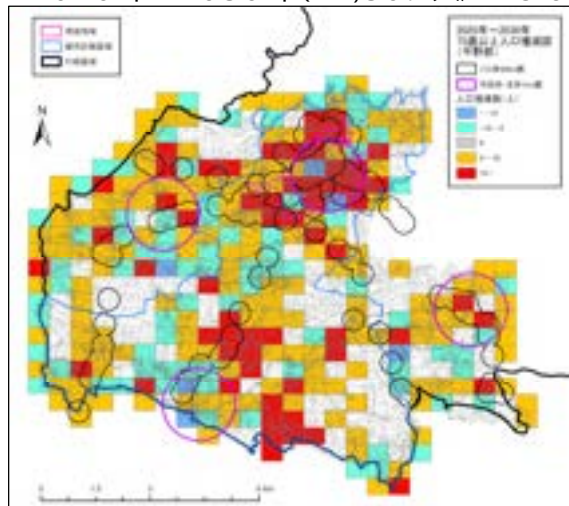
2040年 全市(9,654人)



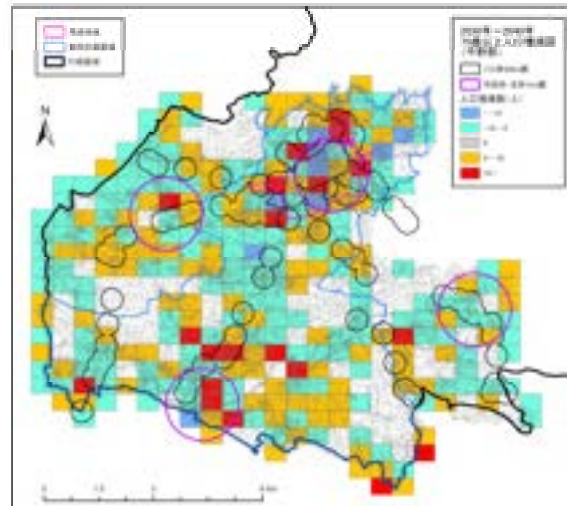
2050年 全市(8,449人)



2020年~2030年(+1,309人/+15.6%)



2030年~2040年(-37人/-0.4%)



2040年~2050年(-1,205人/-12.5%)

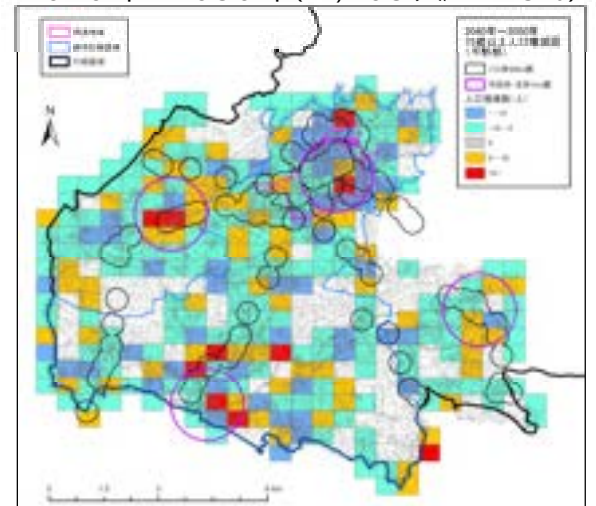


図 2-40 75歳以上人口密度・増減数(平野部拡大図)

資料:国土数値情報(H30年 国政局推計)

## 2-2 交通・開発等の特性

### (1) 人・車の動き

#### 1) 通勤・通学動向

##### 〔流出〕

令和2年(2020年)の国勢調査では、菊池市に居住し菊池市内で通勤・通学する人の割合は67%です。他市町へ通勤・通学する人の割合は、熊本市が11%と最も多くなっています。続いて合志市、大津町、山鹿市が5%程度となっています。

##### 〔流入〕

他市町からの流入先は熊本市が13%と最も多くなっています。続いて合志市7%、山鹿市6%、大津町4%となっています。

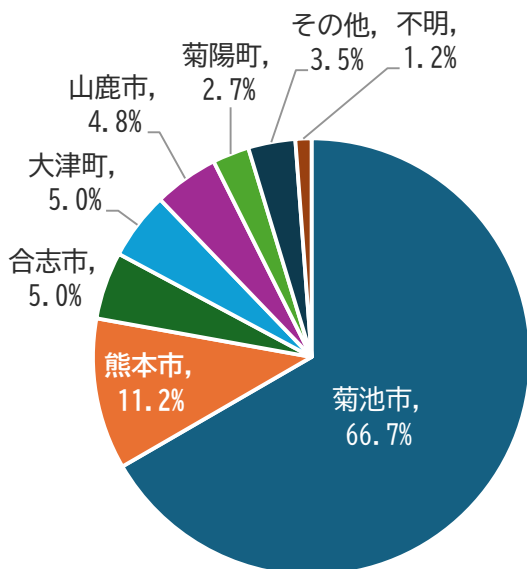


図 2-41 菊池市通勤・通学流出先構成比

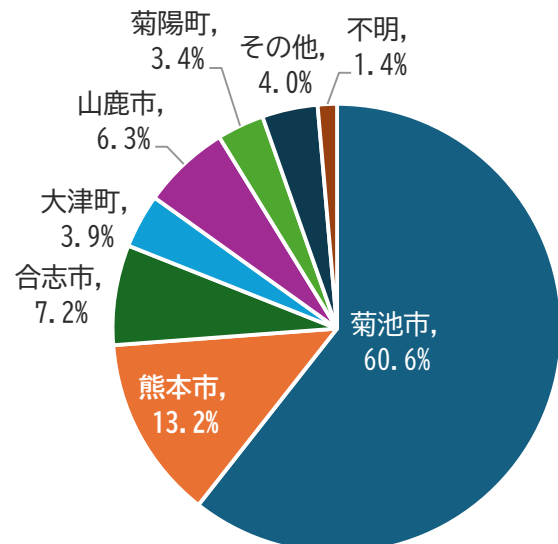


図 2-42 菊池市通勤・通学流入先構成比

表 2-8 通勤・通学動向(人)

	菊池市	他市町							不明	合計	
		熊本市	合志市	大津町	山鹿市	菊陽町	その他の熊本 県内の市町村	他県			小計
①菊池市に住んでいる人	19,028	3,201	1,430	1,414	1,359	763	681	314	9,162	347	28,537
②菊池市に通勤通学している人	19,028	4,161	2,257	1,211	1,974	1,067	1,070	201	11,941	452	31,421
②/①	1.00	1.30	1.58	0.86	1.45	1.40	1.57	0.64	1.30	1.30	1.10

表 2-9 通勤・通学動向構成比

	菊池市	他市町							不明	合計	
		熊本市	合志市	大津町	山鹿市	菊陽町	その他の熊本 県内の市町村	他県			小計
①菊池市に住んでいる人	66.7%	11.2%	5.0%	5.0%	4.8%	2.7%	2.4%	1.1%	32.1%	1.2%	100.0%
②菊池市に通勤通学している人	60.6%	13.2%	7.2%	3.9%	6.3%	3.4%	3.4%	0.6%	38.0%	1.4%	100.0%

出典:R2年 国勢調査

## 2) 中心市街地歩行者通行量

中心市街地の歩行者通行量は、近年減少傾向にあります。各調査年において、平日と休日を比較すると、平日の方が中心市街地の歩行者通行量が多い傾向があります。箇所別でみると、御所通りや中央通りの東西に横断する道路において比較的歩行者交通量が多くみられます。

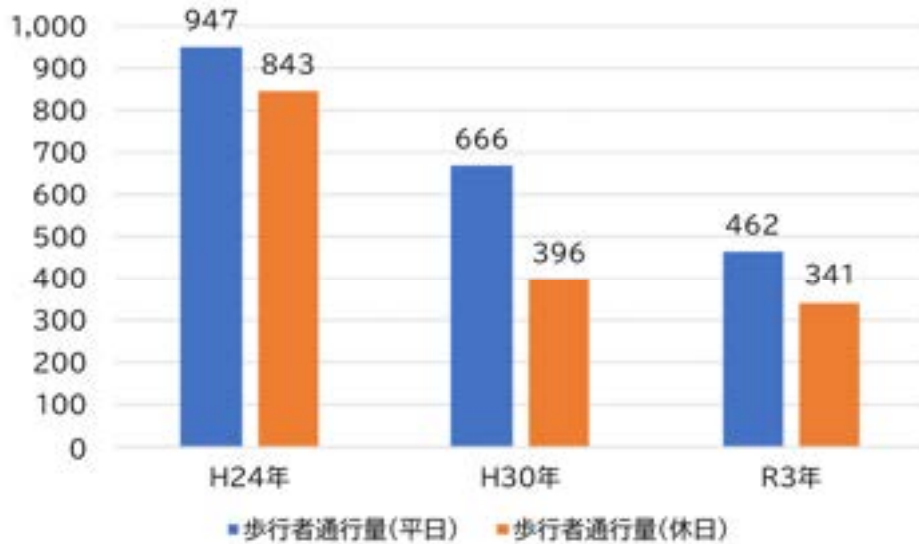


図 2-43 中心市街地通行量

資料: H24年、H30年 都市再生事業事後評価、R3年度 市街地交通量調査結果

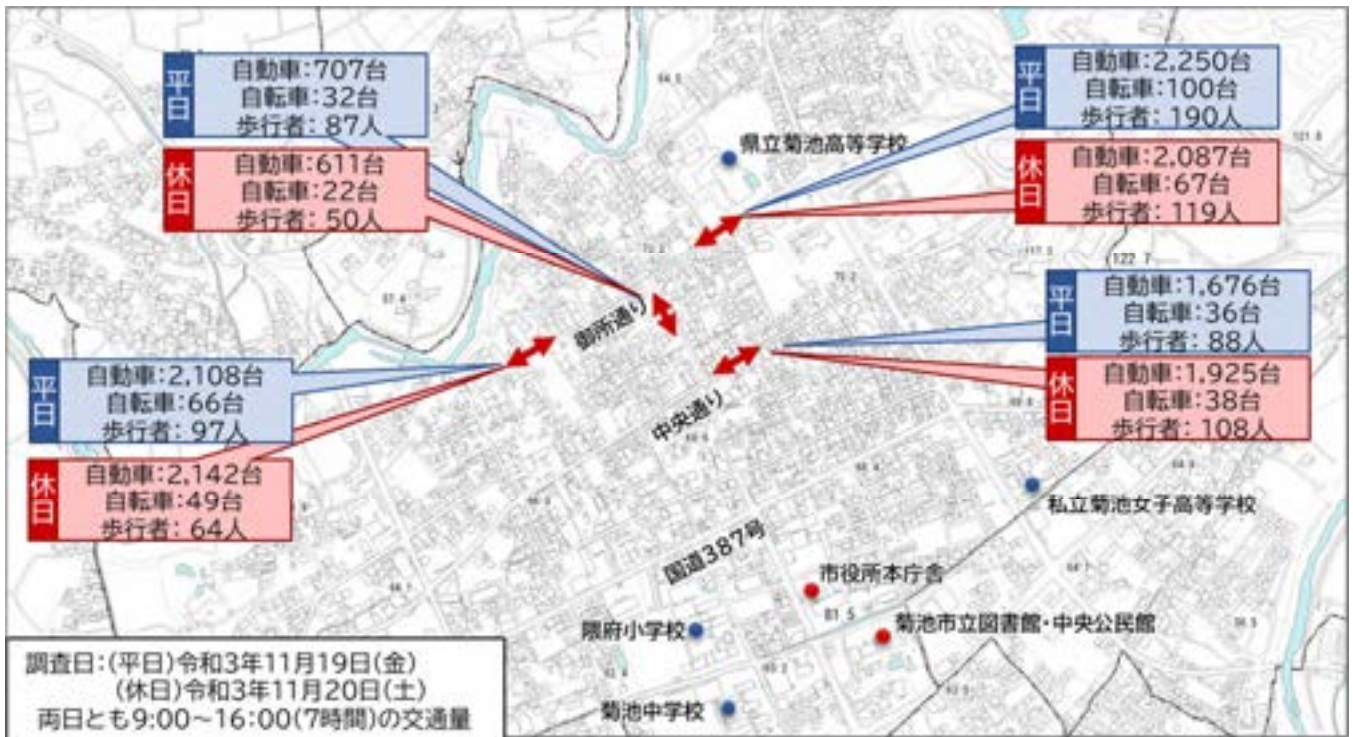


図 2-44 中心市街地歩行者通行量

資料: R3年度 市街地交通量調査結果

### 3)自動車交通

#### ①主要道路網

平均幅員別の道路網図をみると、国道 325 号は幅員が 15m 以上となっていますが、国道 387 号をはじめ、他の幹線道路は幅員 6m 以上 15m 未満となっています。

幅員別道路延長をみると、幅員 15m 以上は用途地域内で 4,634m、用途地域外で 20,379m、幅員 6m 以上 15m 未満は、用途地域内で 22,943m、用途地域外で 228,315m となっており、全体的に幅員の狭い道路が多くみられます。

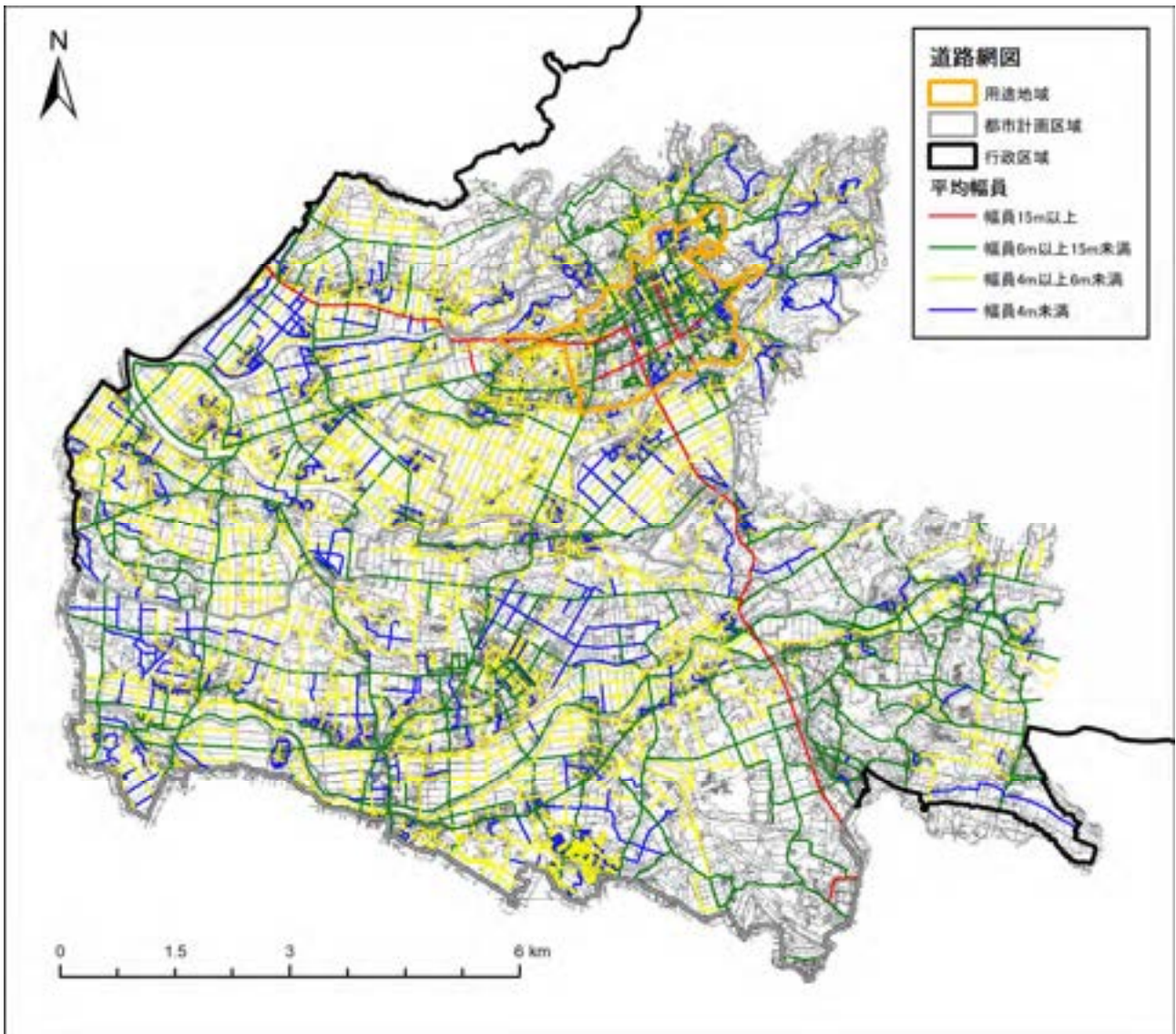


図 2-45 道路網図

表 2-10 幅員別道路延長

	15m以上	6m以上 15m未満	4m以上 6m未満	4m未満
用途地域内	4,634m	22,943m	16,037m	4,908m
用途地域外	20,379m	228,315m	339,788m	125,483m

資料：R4 年 都市計画基礎調査

## ②主要道路交通量

本市には鉄道がなく、自家用車やバス等が主な交通手段となっています。国道 325 号や国道 387 号が、その幹線道路的な役割を担っています。

自動車交通量についてみると、平成 27 年（2015 年）と令和 3 年（2021 年）の比較では、国道 325 号旭志伊坂や国道 387 号隈府などで増加がみられますが、他の箇所では減少しています。

令和 3 年度（2021 年度）の道路の混雑度をみると、国道 325 号の北宮で 1.32 と高い値を示し、また国道 387 号の泗水町吉富でも 1.03 と 1.0 を越えています。その他の箇所は 1.0 未満ですが全体として南部方面の混雑度が高く、熊本市方面との交通アクセスが重要となっていることがうかがえます。

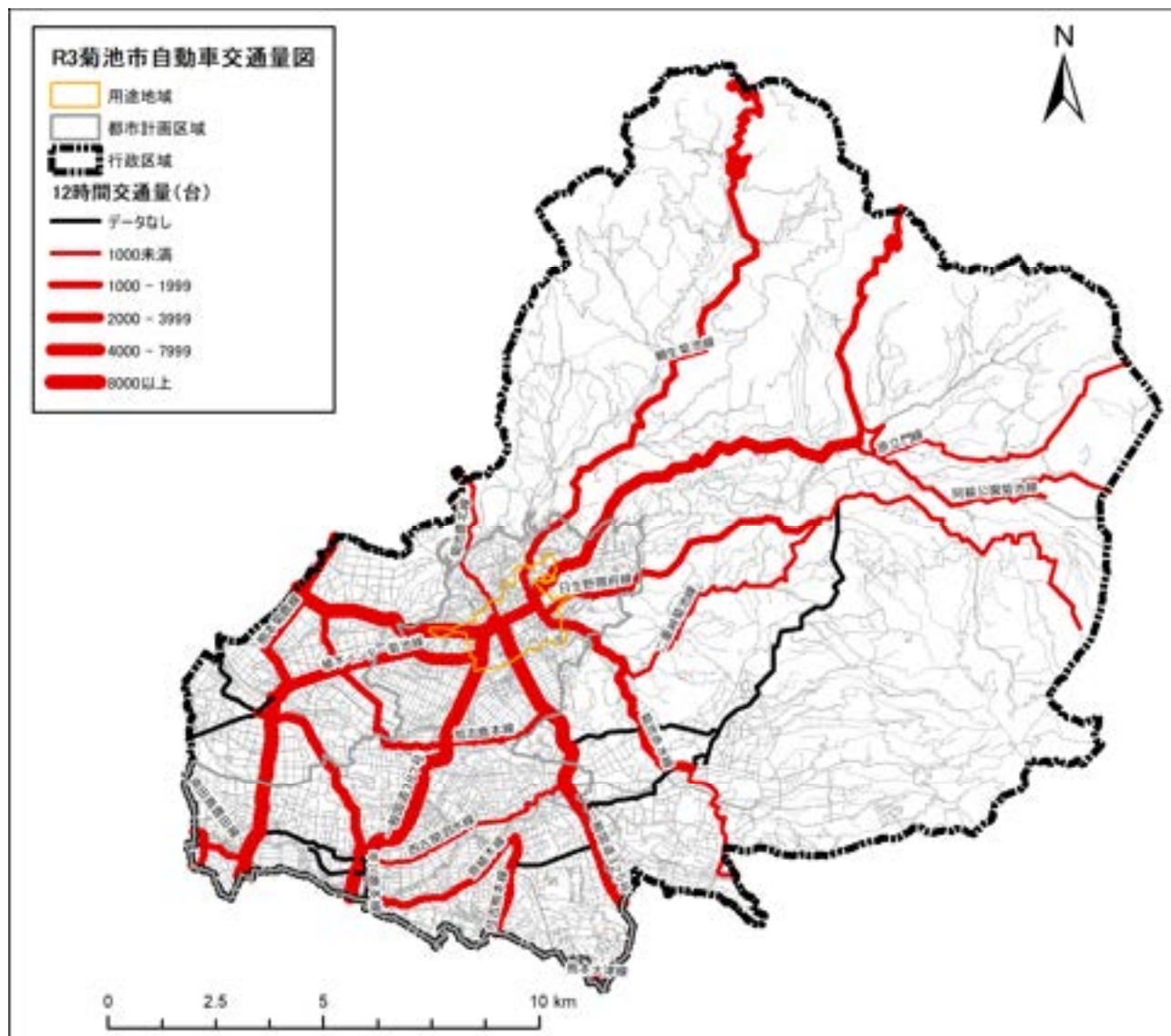


図 2-46 自動車交通量図

資料：R3 年 道路交通センサス

表 2-11 主要国道自動車交通量の変化(H27→R3)

路線名	年次	観測地点名	地点番号	平日12時間(台)	平日24時間(台)	大型車混入率(%)	混雑度	混雑時平均旅行速度(km/h)	車線数
一般国道325号	H27	-	11330	14,712	18,684	16.3	1.27	33.0	2
	R3	山鹿市鹿本町来民	12680	12,717	16,023	15.2	1.40	24.4	
		R3/H27		0.86	0.86	0.93	1.10	0.74	
一般国道325号	H27	菊池市北宮	11340	11,876	14,964	16.3	1.08	41.9	2
	R3	-	-	11,259	14,074	16.7	1.32	32.1	
		R3/H27		0.95	0.94	1.02	1.22	0.77	
一般国道325号	H27	菊池市北宮	11340	11,876	14,964	16.3	1.08	45.7	2
	R3	-	12680	11,259	14,074	16.7	1.32	46.3	
		R3/H27		0.95	0.94	1.02	1.22	1.01	
一般国道325号	H27	菊池市北宮	11340	11,876	14,964	16.3	1.08	36.8	2
	R3	菊池市北宮	12690	11,259	14,074	16.7	1.32	38.2	
		R3/H27		0.95	0.94	1.02	1.22	1.04	
一般国道325号	H27	菊池市北宮	11340	11,876	14,964	16.3	1.08	9.6	2
	R3	菊池市北宮	12690	11,259	14,074	16.7	1.32	18.2	
		R3/H27		0.95	0.94	1.02	1.22	1.90	
一般国道325号	H27	菊池市北宮	11340	11,876	14,964	16.3	1.08	14.4	2
	R3	菊池市北宮	12690	11,259	14,074	16.7	1.32	13.1	
		R3/H27		0.95	0.94	1.02	1.22	0.91	
一般国道325号	H27	菊池市北宮	11340	11,876	14,964	16.3	1.08	26.8	2
	R3	菊池市北宮	12690	11,259	14,074	16.7	1.32	27.7	
		R3/H27		0.95	0.94	1.02	1.22	1.03	
一般国道325号	H27	菊池市北宮	11340	11,876	14,964	16.3	1.08	44.5	2
	R3	菊池市北宮	12690	11,259	14,074	16.7	1.32	41.1	
		R3/H27		0.95	0.94	1.02	1.22	0.92	
一般国道325号	H27	-	11350	12,676	15,972	17.2	0.43	40.8	4
	R3	-	12700	12,309	15,509	17.2	0.47	40.6	
		R3/H27		0.97	0.97	1.00	1.09	1.00	
一般国道325号	H27	-	11360	17,763	22,559	18.3	0.62	44.2	4
	R3	菊池市旭志伊坂	12710	19,303	24,515	16.0	0.86	47.0	
		R3/H27		1.09	1.09	0.87	1.39	1.06	
一般国道325号	H27	-	11360	17,763	22,559	18.3	0.62	40.9	4
	R3	菊池市旭志伊坂	12710	19,303	24,515	16.0	0.86	40.9	
		R3/H27		1.09	1.09	0.87	1.39	1.00	
一般国道325号	H27	-	11360	17,763	22,559	18.3	0.62	58.1	4
	R3	菊池市旭志伊坂	12710	19,303	24,515	16.0	0.86	45.4	
		R3/H27		1.09	1.09	0.87	1.39	0.78	
一般国道387号	H27	菊池市隈府	11470	4,292	5,322	5.9	0.41	49.3	2
	R3	菊池市隈府	12840	4,880	5,954	5.2	0.47	48.2	
		R3/H27		1.14	1.12	0.88	1.15	0.98	
一般国道387号	H27	菊池市隈府	11470	4,292	5,322	5.9	0.41	16.1	2
	R3	菊池市隈府	12840	4,880	5,954	5.2	0.47	19.0	
		R3/H27		1.14	1.12	0.88	1.15	1.18	
一般国道387号	H27	菊池市隈府	11470	4,292	5,322	5.9	0.41	16.1	2
	R3	菊池市隈府	12840	4,880	5,954	5.2	0.47	19.7	
		R3/H27		1.14	1.12	0.88	1.15	1.23	
一般国道387号	H27	-	11475	14,172	17,998	7.9	1.44	15.4	2
	R3	菊池市泗水町吉富	12850	8,305	10,464	4.6	0.85	16.7	
		R3/H27		0.59	0.58	0.58	0.59	1.09	
一般国道387号	H27	-	11480	14,172	17,998	7.9	1.20	32.9	2
	R3	菊池市泗水町吉富	12860	12,291	15,487	6.3	1.03	33.5	
		R3/H27		0.87	0.86	0.80	0.86	1.02	
一般国道387号	H27	-	11480	14,172	17,998	7.9	1.20	31.8	2
	R3	菊池市泗水町吉富	12860	12,291	15,487	6.3	1.03	29.9	
		R3/H27		0.87	0.86	0.80	0.86	0.94	
一般国道387号	H27	-	11480	14,172	17,998	7.9	1.20	23.9	2
	R3	菊池市泗水町吉富	12860	12,291	15,487	6.3	1.03	22.8	
		R3/H27		0.87	0.86	0.80	0.86	0.95	
一般国道387号	H27	-	11480	14,172	17,998	7.9	1.20	35.3	2
	R3	菊池市泗水町吉富	12860	12,291	15,487	6.3	1.03	29.8	
		R3/H27		0.87	0.86	0.80	0.86	0.85	

資料：H27年、R3年 道路交通センサス

#### 4)公共交通の利用状況

本市には、熊本市市中心部を結ぶ熊本電鉄バスが国道 387 号を中心に運行されています。

令和 5 年（2023 年）の利用状況をみると蓮台寺から菊池温泉を結ぶ系統の利用が 2,200 人/日と最も多くなっています。本市では、平成 16 年（2004 年）より路線バスを補完するコミュニティバスとして、市街地巡回バスが東回り、西回りの系統で、それぞれ 6 便運行されています。

市内で、公共交通機関のない地域における生活交通の確保や交通の利便性向上を図るため、市街地やまちなかを結ぶ事前予約制の乗合タクシー（きくちあいのりタクシー）が運行されています。

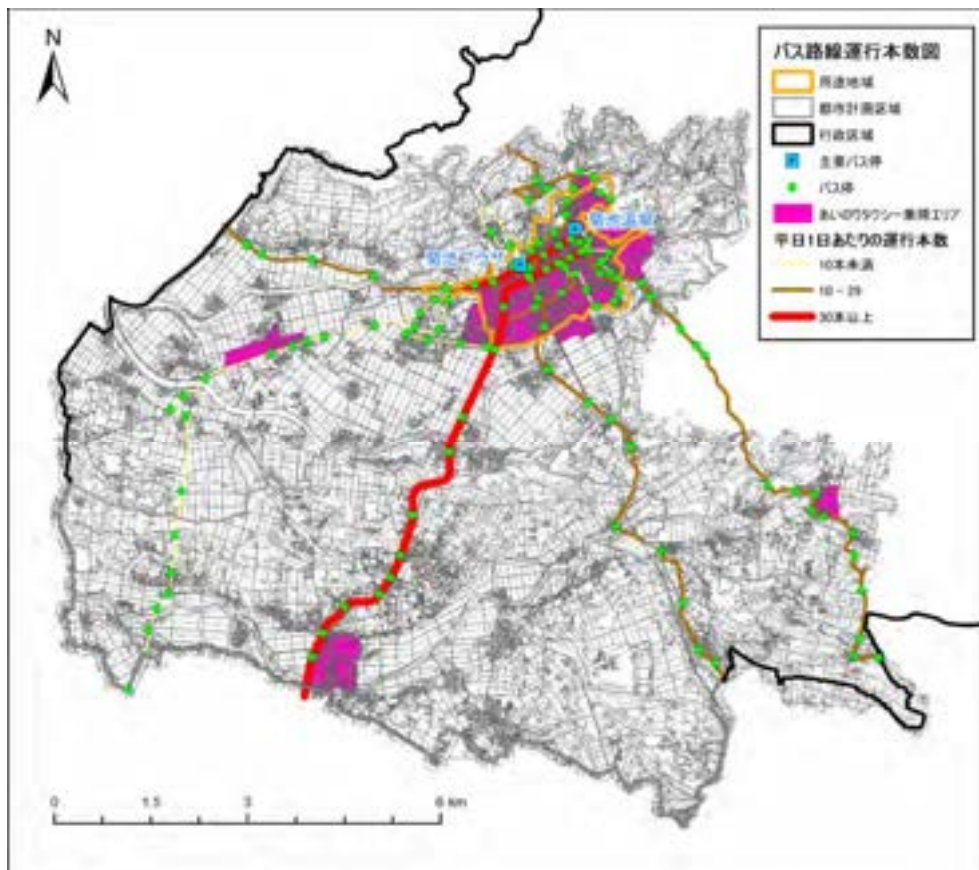


図 2-47 バス路線運行本数図

資料:R4 年 都市計画基礎調査

表 2-12 R5 バス利用状況(熊本電鉄バス)

運行会社	起点	終点	1日当たりの輸送人員
熊本電鉄	熊本駅	菊池プラザ	286
熊本電鉄	桜町バスターミナル	菊池プラザ	65
熊本電鉄	辻久保	菊池プラザ	6
熊本電鉄	桜町バスターミナル	菊池温泉	25
熊本電鉄	蓮台寺	菊池温泉	2,200
熊本電鉄	須屋西	菊池温泉	13
熊本電鉄	黒石	菊池温泉	25
熊本電鉄	御代志	菊池温泉	15
菊池市/熊本電鉄	菊池プラザ	菊池プラザ	38

資料:R5 年 4 月～R6 年 3 月 運行系統別輸送実績報告書

## (2) 土地利用

土地利用について、令和4年度（2022年度）都市計画基礎調査において調査を行った菊池地域の都市計画区域、市南部の都市計画区域外（菊池泗水中間地区）、七城地域全域、泗水地域全域及び旭志地域の山間部を除く区域を対象に、その特徴等を整理しました。

### 1) 地域地区別土地利用の特徴

全体で田畑が52%を占め、続いて山林が13%、住宅が9%、商工業地及び公共公益施設用地が6%、道路・その他が15%となっています。

地域別にみると菊池都市計画区域は住宅の割合が高く、泗水都市計画区域、七城地域は田畑の割合が高く、旭志地域は山林の割合が高くなっています。

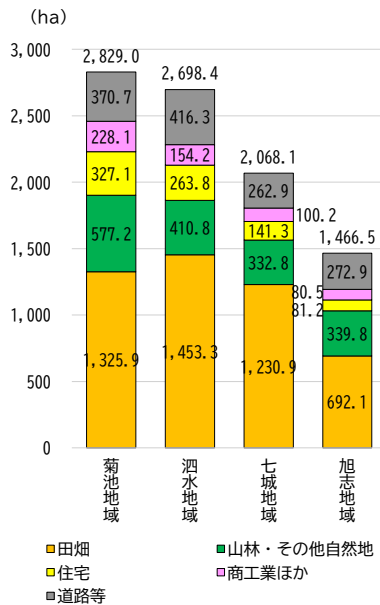


図 2-48 地域別土地利用面積

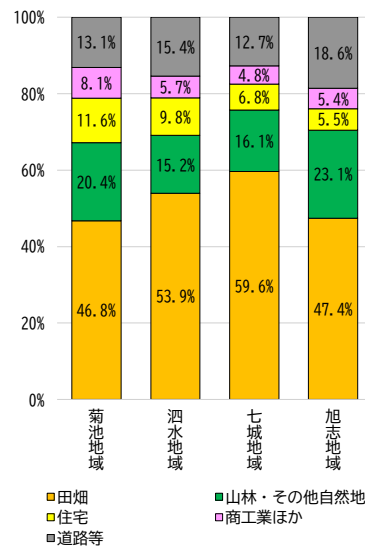


図 2-49 地域別土地利用構成比

資料：R4 年 都市計画基礎調査

表 2-13 地域別土地利用面積・構成比

	菊池地域		泗水地域		七城地域		旭志地域		合計	
	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
田	881.0	31.1%	811.6	30.1%	930.6	45.1%	215.6	14.7%	2,838.8	31.2%
畑	444.9	15.7%	641.7	23.8%	300.3	14.5%	476.5	32.7%	1,863.4	20.6%
山林	421.3	14.9%	272.6	10.1%	173.8	8.4%	278.8	19.0%	1,146.5	12.7%
水面	48.7	1.7%	40.2	1.5%	44.5	2.2%	13.6	0.9%	147.0	1.6%
その他の自然地	107.2	3.8%	98.0	3.6%	114.5	5.5%	47.4	3.2%	367.1	4.1%
住宅用地	327.1	11.6%	263.8	9.8%	141.3	6.8%	81.2	5.5%	813.4	9.0%
商業用地	83.7	3.0%	37.7	1.4%	21.5	1.0%	22.7	1.5%	165.6	1.8%
工業用地	39.1	1.4%	68.2	2.5%	43.8	2.1%	41.5	2.8%	192.6	2.1%
公共・公益施設用地	105.3	3.7%	48.3	1.8%	34.9	1.7%	16.3	1.1%	204.8	2.3%
道路	222.0	7.8%	198.0	7.3%	154.7	7.5%	102.8	7.0%	677.5	7.5%
交通施設用地	2.8	0.1%	2.2	0.1%	7.9	0.4%	1.5	0.1%	14.4	0.2%
公共空地	24.7	0.9%	16.1	0.6%	9.2	0.4%	6.8	0.5%	56.8	0.6%
その他	121.2	4.3%	200.0	7.4%	91.1	4.4%	161.8	11.0%	574.1	6.3%
総計	2,829.0	100.0%	2,698.4	100.0%	2,068.1	100.0%	1,466.5	100.0%	9,062.0	100.0%

資料：R4 年 都市計画基礎調査

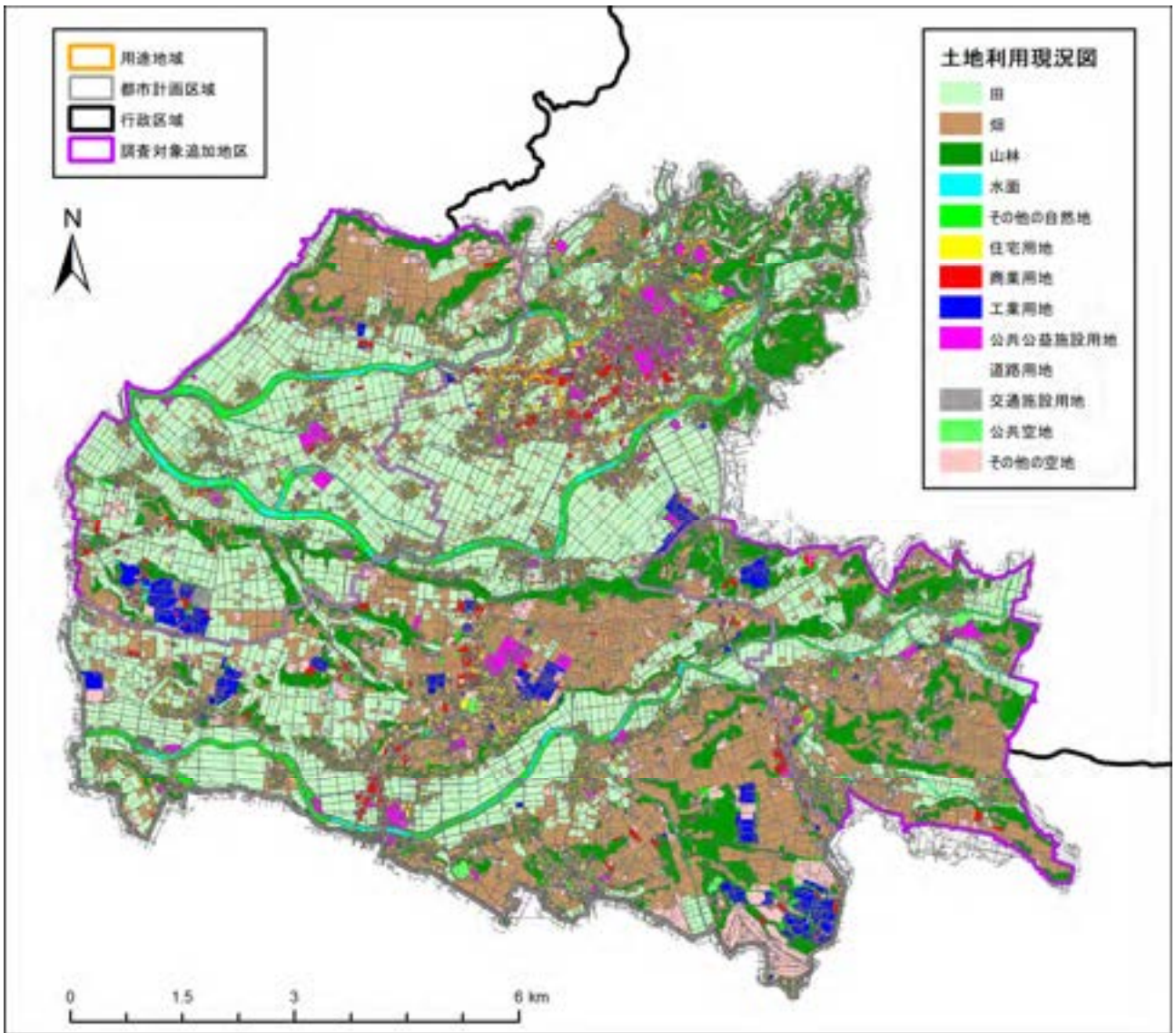


図 2-50 土地利用現況図

資料:R4 年 都市計画基礎調査

2)都市計画区域の特徴(都市計画区域・用地地域・都市計画白地・追加調査区域ごとの土地利用構成比)

都市計画区域内の用途地域（菊池地域中心部）、用途地域が指定されていない都市計画区域（都市計画白地：菊池地域の用途地域外、泗水地域全域）について、その特徴を整理します。

①都市計画区域全体

田畑が 50%、山林などの自然地が 17%、住宅、商工業、道路などの都市的土地利用が 33%と、田畑が半分以上を占め、最も多くなっています。

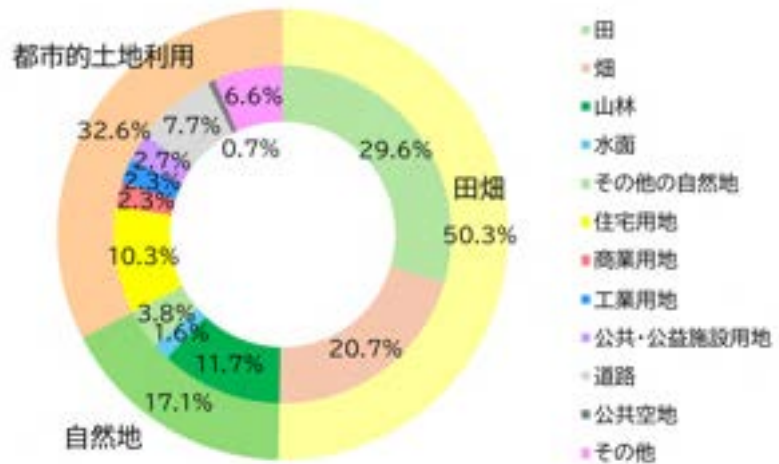


図 2-51 都市計画区域の土地利用構成比

②用途地域

都市的土地利用が 73%を占め、田畑は 17%、山林などの自然地が 5%であり、宅地化予備軍となる空閑地も比較的多くみられます。

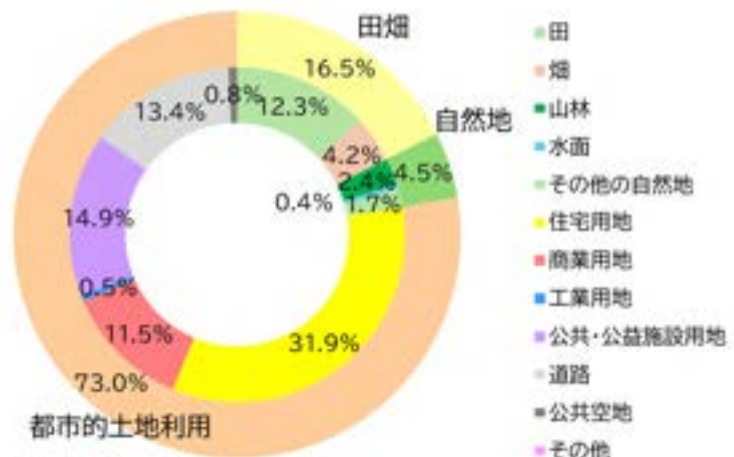


図 2-52 用途地域の土地利用構成比

資料：R4 年 都市計画基礎調査

### ③都市計画白地

田畑が 52%、山林などの自然地が 18%を占め、自然的土地利用が多くなっています。都市的土地利用は 30%となっています。

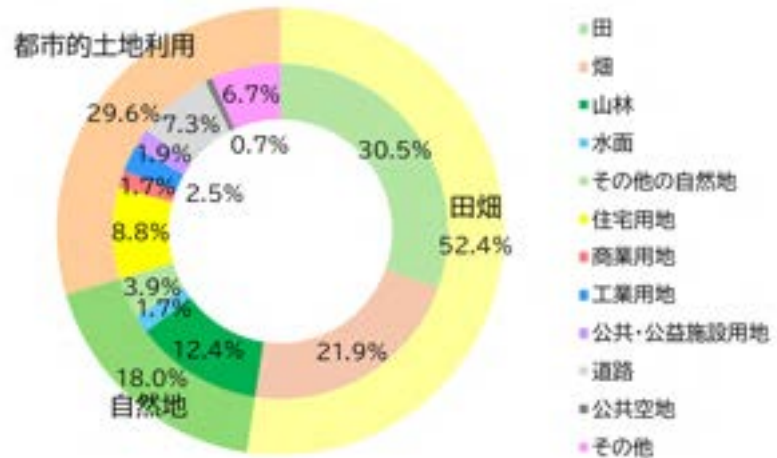


図 2-53 都市計画白地の土地利用構成比

### ④追加調査区域(七城・旭志地区)

田畑が 55%、山林などの自然地が 20%を占め、自然的土地利用が全体の 75%を占めています。都市的土地利用は 25%となっています。

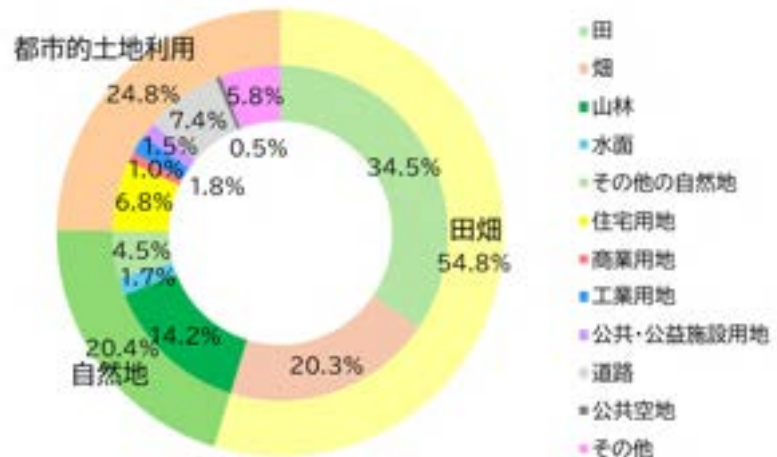


図 2-54 追加調査区域の土地利用構成比

資料: R4 年 都市計画基礎調査

### (3) 建物利用

#### 1) 地域地区別建物延床面積割合の特徴

建物利用について、土地利用と同様、令和4年度(2022年度)都市計画基礎調査において調査を行った、菊池地域の都市計画区域、市南部の都市計画区域外(菊池泗水中間地区)、七城地域全域、泗水地域全域及び旭志地域の山地部を除く区域を対象に、その特徴等を考察します。

全体で住宅が43%を占め、最も多く、続いて農林漁業用施設・その他施設が21%、工場施設が11%です。

菊池都市計画区域は商業施設、官公庁・文教厚生施設、共同住宅の割合が高く、泗水都市計画区域は併用住宅、戸建住宅、七城地域、旭志地域は農林漁業施設、工業施設の割合が高くなっています。

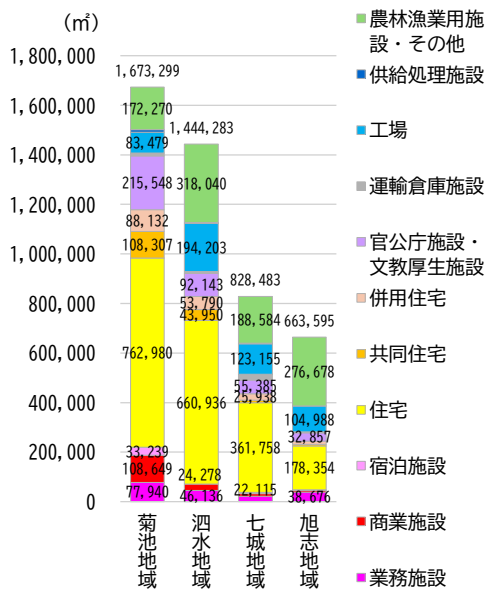


図 2-55 地域別建物用途延床面積

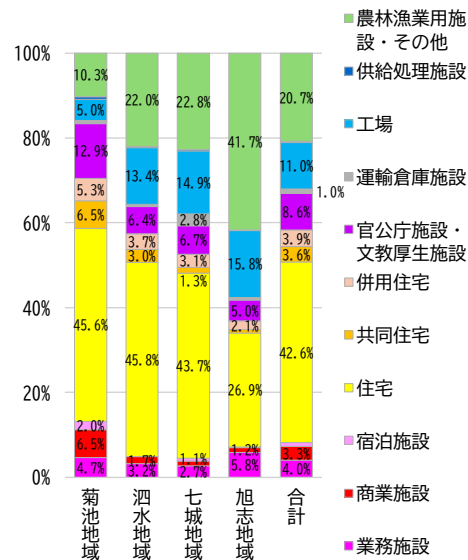


図 2-56 地域別建物用途延床面積構成比

表 2-14 地域別建物用途延床面積・構成比

	菊池地域		泗水地域		七城地域		旭志地域		合計	
	延床面積 (m <sup>2</sup> )	比率 (%)	延床面積 (m <sup>2</sup> )	比率 (%)	延床面積 (m <sup>2</sup> )	比率 (%)	延床面積 (m <sup>2</sup> )	比率 (%)	延床面積 (m <sup>2</sup> )	比率 (%)
業務施設	77,940	4.7%	46,136	3.2%	22,115	2.7%	38,676	5.8%	184,867	4.0%
商業施設	108,649	6.5%	24,278	1.7%	9,460	1.1%	7,797	1.2%	150,184	3.3%
宿泊施設	33,239	2.0%	0	0.0%	5,642	0.7%	876	0.1%	39,757	0.9%
住宅	762,980	45.6%	660,936	45.8%	361,758	43.7%	178,354	26.9%	1,964,028	42.6%
共同住宅	108,307	6.5%	43,950	3.0%	10,640	1.3%	5,189	0.8%	168,086	3.6%
併用住宅	88,132	5.3%	53,790	3.7%	25,938	3.1%	13,711	2.1%	181,571	3.9%
官公庁施設・文教厚生施設	215,548	12.9%	92,143	6.4%	55,385	6.7%	32,857	5.0%	395,933	8.6%
運輸倉庫施設	12,823	0.8%	7,656	0.5%	23,460	2.8%	3,538	0.5%	47,477	1.0%
工場	83,479	5.0%	194,203	13.4%	123,155	14.9%	104,988	15.8%	505,825	11.0%
供給処理施設	9,932	0.6%	3,151	0.2%	2,346	0.3%	931	0.1%	16,360	0.4%
農林漁業用施設・その他	172,270	10.3%	318,040	22.0%	188,584	22.8%	276,678	41.7%	955,572	20.7%
総計	1,673,299	100.0%	1,444,283	100.0%	828,483	100.0%	663,595	100.0%	4,609,660	100.0%

資料: R4 年 都市計画基礎調査

## 2)都市計画区域の特徴

都市計画区域内の用途地域（菊池地域中心部）、用途地域が指定されていない都市計画区域（都市計画白地：菊池地域の用途地域外、泗水地域全域）について、その特徴を整理します。

### ①都市計画区域全体

住居系が53%、商業系が9%、公共公益系が12%、工業系が12%となっており、住居系が占める割合が高くなっています。

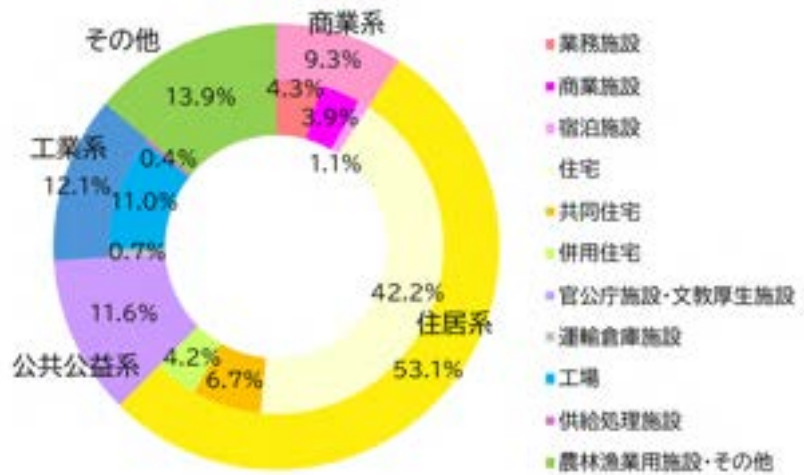


図 2-57 都市計画区域建物用途延床面積構成比

### ②用途地域

住居系が57%を占め、このうち共同住宅が12%あり、他の土地利用区分と比較して多くなっています。

公共公益系が24%、商業系が17%、工業系が1%となっており、商業系の多くは用途地域内に立地しています。

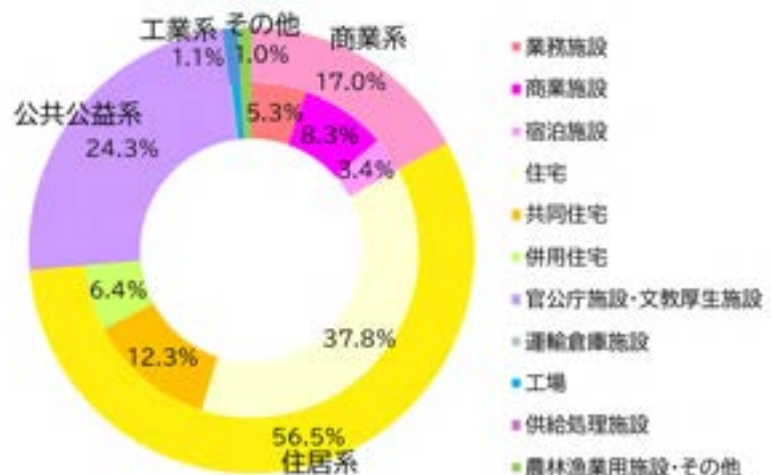


図 2-58 用途地域建物用途延床面積構成比

資料：R4年 都市計画基礎調査

### ③都市計画白地

住居系が52%を占めています。

工業系が16%と、用途地域より割合が高く、白地での立地が多くなっています。

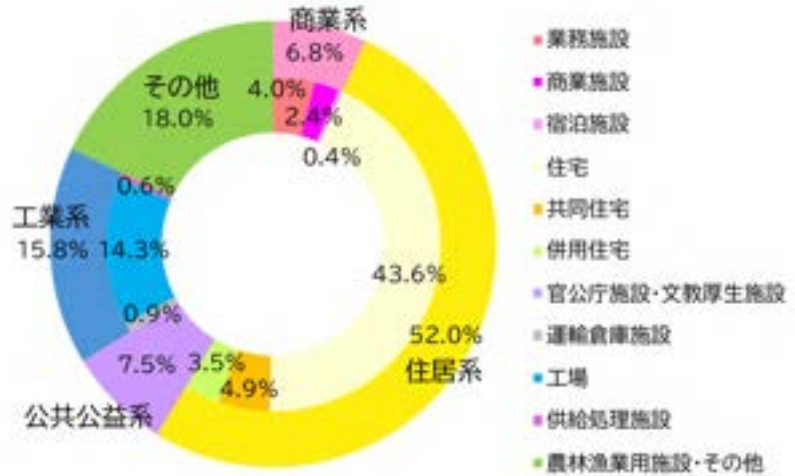


図 2-59 都市計画白地建物用途延床面積構成比

### ④追加調査対象区域(七城・旭志地区)

住居系が45%、商業系が5%、公共公益系が6%、工業系が13%を占めています。

農林漁業用施設等のその他施設が31%を占め、他の土地利用区分と比較して、最も多くなっています。

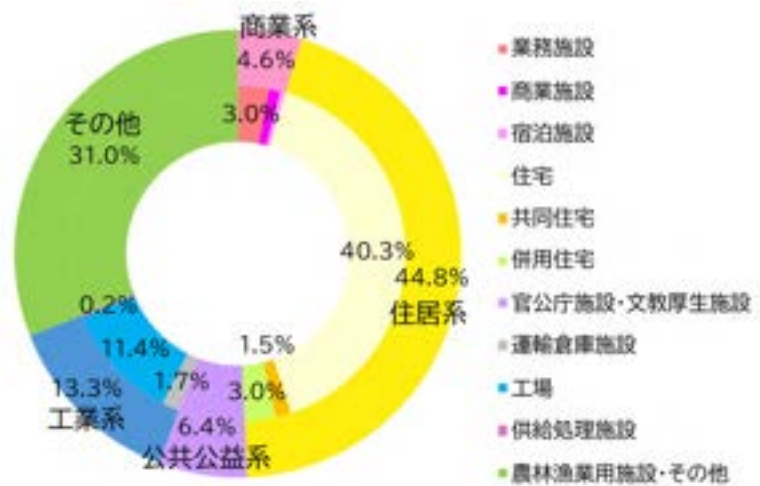


図 2-60 追加調査対象区域建物用途延床面積構成比

資料:R4年 都市計画基礎調査

### 3)平成 28 年～令和 4 年の比較

建物延床面積について、令和 4 年（2022 年）と平成 28 年（2016 年）を比較すると、基礎調査地区全体の合計は 25.9ha と減少しています。

用途地域内については、住宅およびその他建物は微増していますが、商業と工業は減少しています。用途地域外については、工業のみ微増し、住宅、商業、その他建物は減少しています。

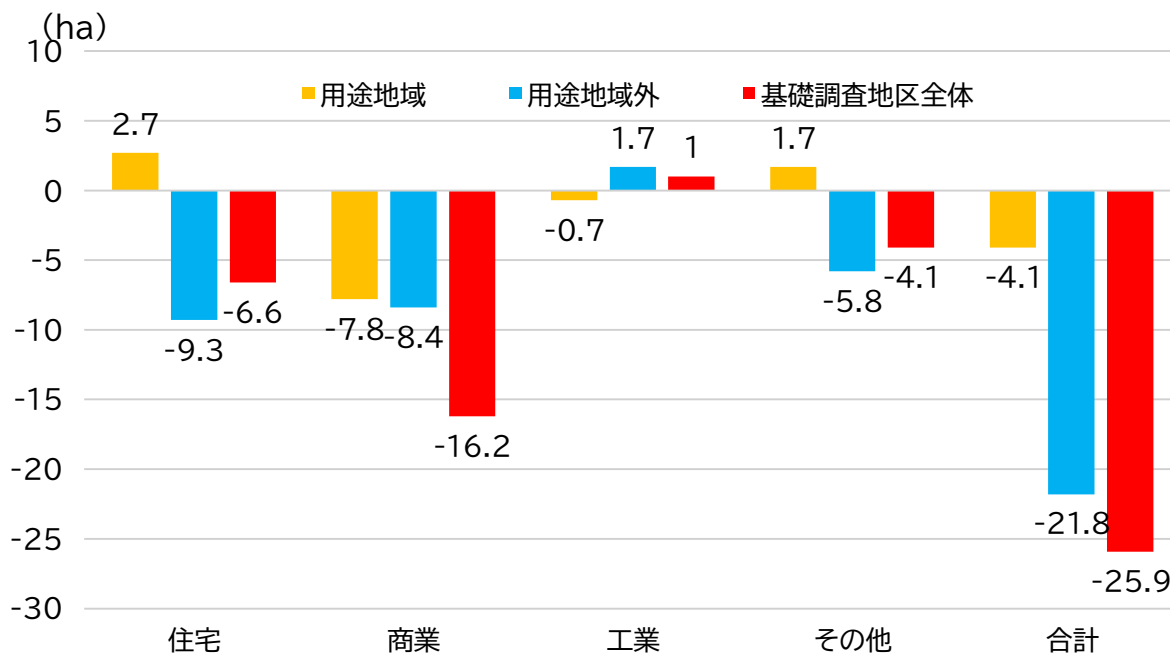


図 2-61 建物延床面積の増減(H28～R4)

資料：H28 年、R4 年 都市計画基礎調査

#### 4) 幹線道路沿道地区の特徴

幹線道路沿道は、建物の立地が活発であり、商業施設などの立地が多くみられます。

菊池地域内の立地量が特に多く、他の地域を全て上回っています。

用途地域内においても立地量は多く、そのうち、官公庁施設・文教厚生施設が30%を占め、続いて住宅が26%と多くなっています。

商業系は、菊池地域内での立地量が多い状況です。

各地域における幹線道路沿い地域別建物用途延床面積構成比では、泗水地域商業系床面積の割合が23%と高くなっています。七城地域では住宅が46%、旭志地域では農林漁業用施設が29%などが高くなっています。

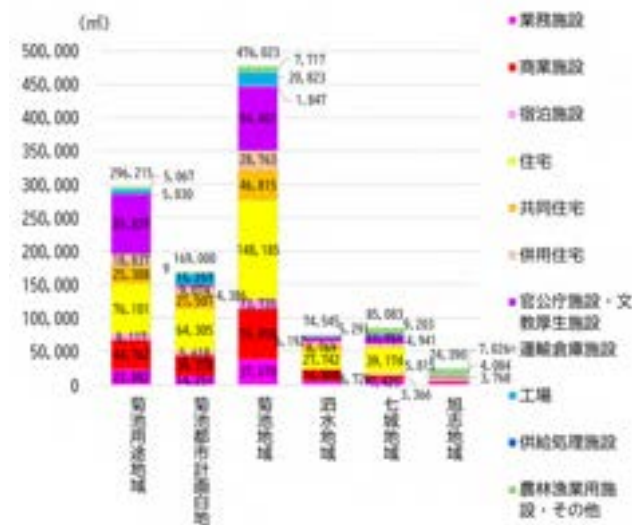


図 2-62 幹線道路沿い地域別建物用途延床面積



図 2-63 幹線道路沿い地域別建物用途延床面積構成比

資料: R4 年 都市計画基礎調査

表 2-2-15 幹線道路沿い地域別建物用途延床面積構成比

延床面積割合(%)	菊池用途地域	菊池都市計画白地	菊池地域	泗水地域	七城地域	旭志地域	合計
業務施設	7.7%	8.4%	7.9%	9.0%	8.7%	15.4%	8.4%
商業施設	15.1%	18.0%	16.0%	22.5%	6.8%	9.4%	15.3%
宿泊施設	2.7%	3.3%	2.9%	0.0%	4.0%	5.7%	2.8%
住宅	25.7%	38.1%	31.1%	37.2%	46.0%	9.8%	33.0%
共同住宅	8.5%	12.7%	9.8%	11.8%	1.5%	0.0%	8.6%
併用住宅	6.4%	5.4%	6.0%	7.1%	5.8%	1.2%	6.0%
官公庁施設・文教厚生施設	30.3%	2.6%	19.8%	8.3%	13.8%	9.1%	17.4%
運輸倉庫施設	0.1%	0.9%	0.4%	0.0%	0.0%	16.7%	0.9%
工場	1.7%	9.0%	4.4%	1.5%	2.4%	3.8%	3.8%
供給処理施設	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%
農林漁業用施設・その他	1.7%	1.6%	1.6%	2.4%	10.8%	28.8%	3.9%

全市平均に比べ割合がかなり高いもの、特徴的なもの

資料：R4 年 都市計画基礎調査



図 2-64 建物利用現況図

資料：R4 年 都市計画基礎調査

### 5)住宅総数・空家の状況

本市の住宅総数は、平成25年(2013年)には19,540戸だったものが、令和5年(2023年)には21,640戸へと増加しています。

本市の空家数については、平成25年(2013年)から平成30年(2018年)にかけて減少したものの、令和5年(2023年)には増加傾向に転じています。



図 2-65 住宅総数・空家数・空家率の推移

資料: H25年~R5年 住宅土地統計調査

#### (4) 建築着工

開発動向について、建築着工動向、宅地開発、農地転用など、その特徴等を考察します。

##### 1) 建築着工(件数ベース)

建築着工データは都市計画区域での届出が中心であるため、菊池及び泗水の都市計画区域について分析を行います。

土地利用区分別にみると、菊池都市計画区域の建築着工件数が最も多く 594 件です。

菊池都市計画区域では、用途地域より白地地区の方が多く、特に用途地域隣接部や泗水地域が多くなっています。

建物用途別に建築着工構成比みると、住宅がいずれの地域も 80%以上を占め商業が7%程度です。工業系は、菊池都市計画白地での立地が多くなっています。

また、幹線道路沿いの建築着工件数をみると、菊池地域が 149 件と最も多くなっています。建物用途別に建築着工構成比みると、幹線道路沿いは、都市計画区域全体と比較して住宅の割合が低く、商業の割合が高くなっています。

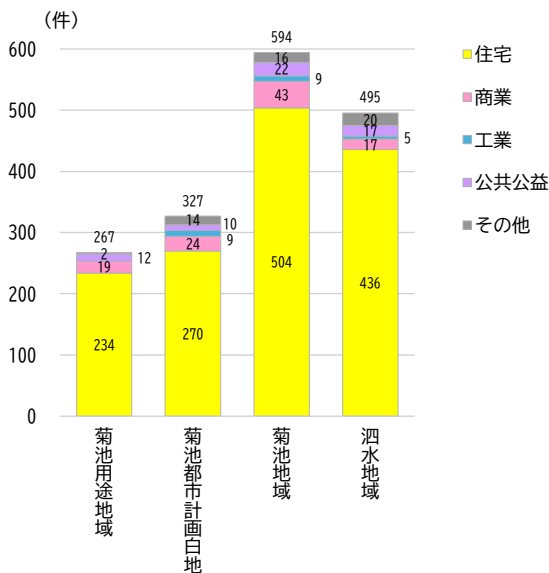


図 2-66 土地利用区分別建築着工件数

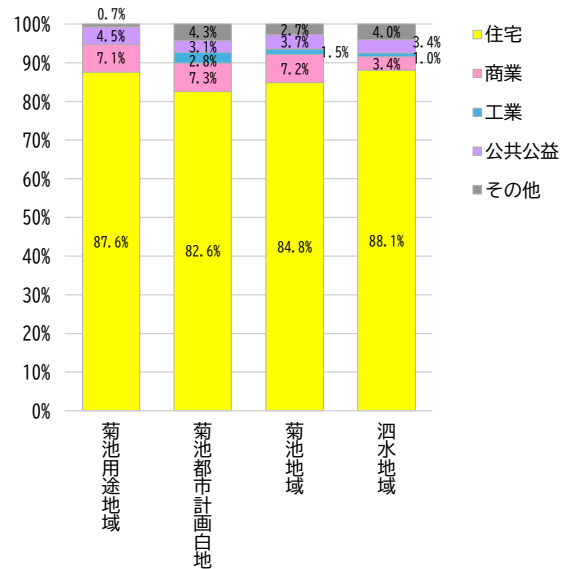


図 2-67 土地利用区分別建築着工構成比

資料: R4 年 都市計画基礎調査

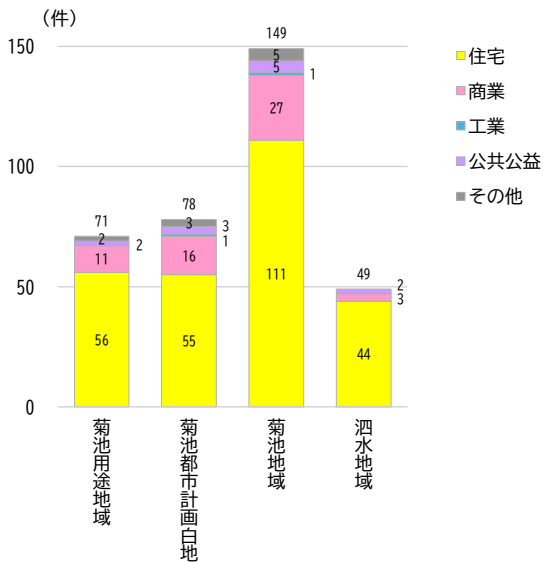


図 2-68 幹線道路沿い土地利用区別建築着工件数

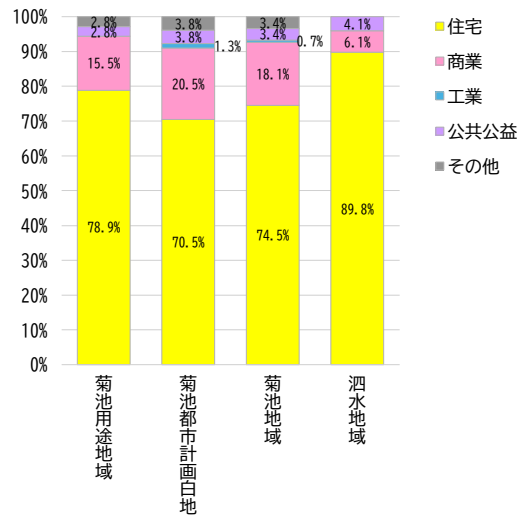


図 2-69 幹線道路沿い土地利用区別建築着工構成比

資料: R4年 都市計画基礎調査

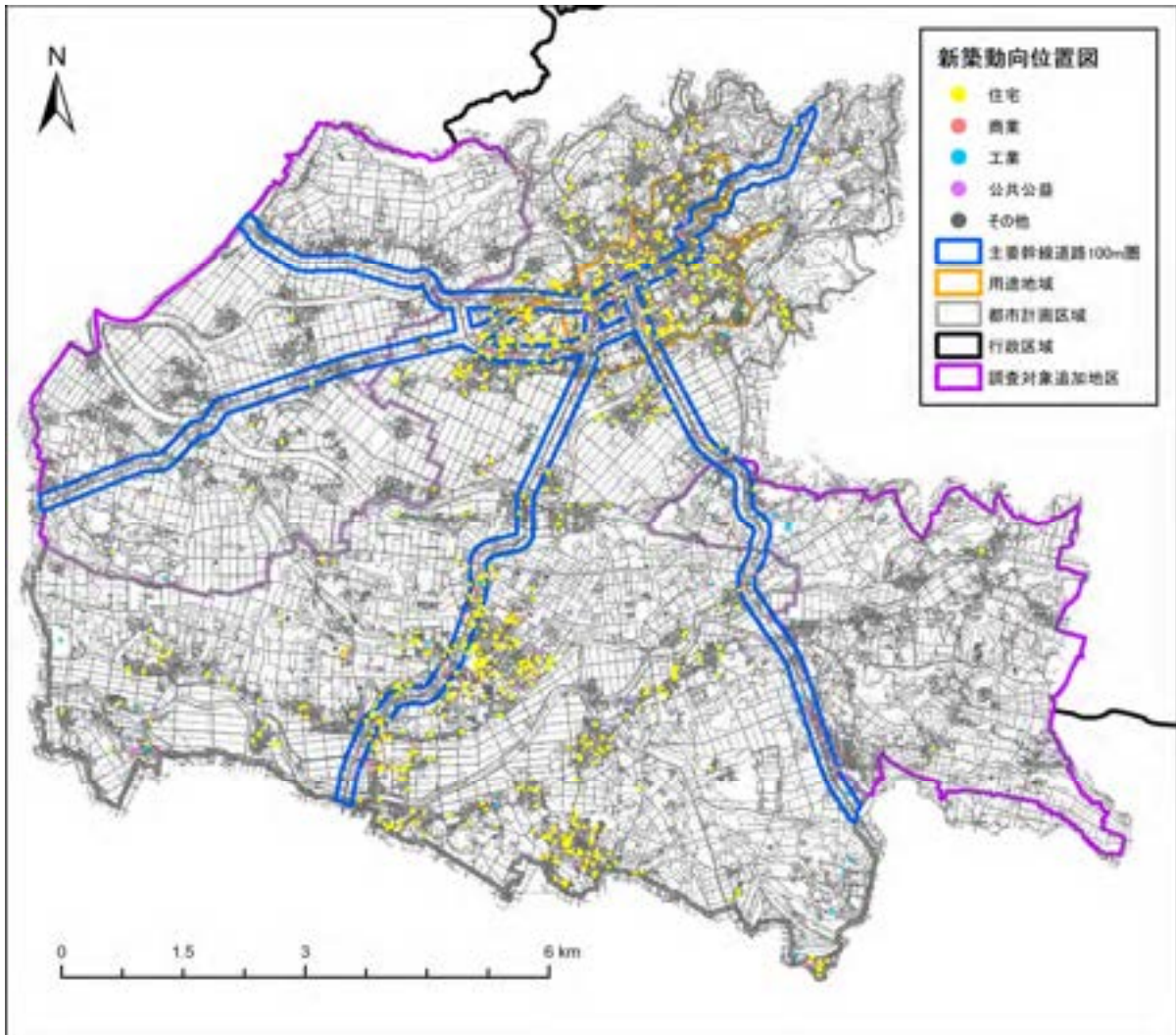


図 2-70 新築動向位置図

資料: R4年 都市計画基礎調査

## (5) 開発動向

### 1) 宅地開発動向(開発面積ベース)

宅地開発は、地域別にみると泗水地域が 5.1ha と最も多く、このうち工業系が約 69%を占めています。続いて、菊池地域は 4.5ha と多く、旭志地域が 3.3ha となっており、七城地域では開発は行われていない状況です。

全体でみると、工業施設の開発面積が 5.0ha と最も多くなっています。

各地域における宅地開発面積の構成比をみると、菊池地域では商業施設が最も多く、泗水地域では工業施設、旭志地域ではその他が最も多く占めています。

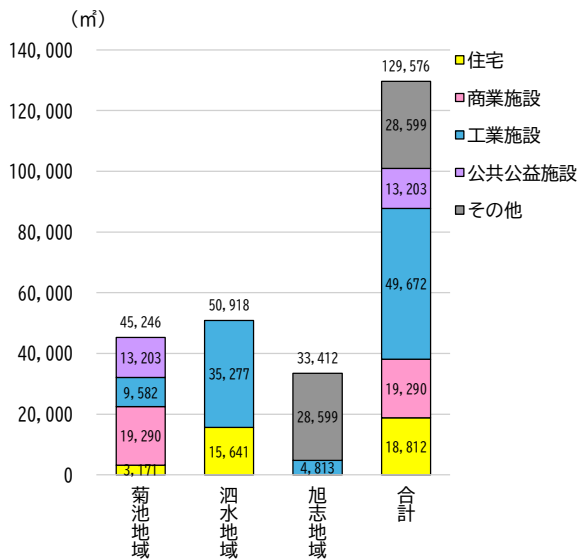


図 2-71 地域別宅地開発面積

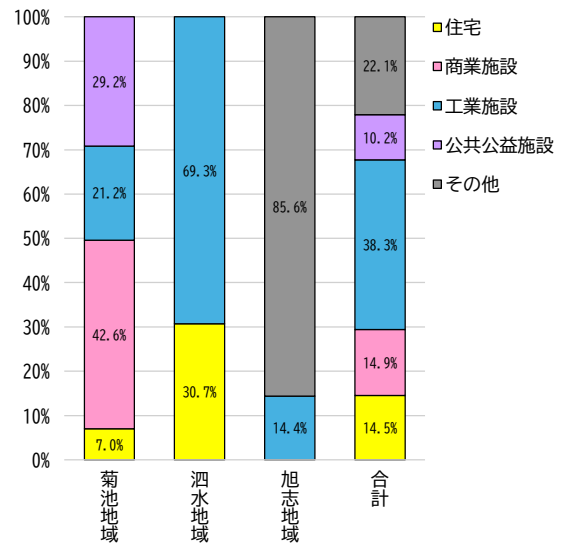


図 2-72 地域別宅地開発面積構成比

資料: R4年 都市計画基礎調査

## 2) 農地転用動向

農地転用動向は、地域別にみると菊池地域が559件と最も多く、続いて泗水地域が271件、七城地域122件、旭志地域86件となっており、都市計画区域外においても農地転用がみられます。

農地転用面積の構成比をみると、その他の転用を除いて、各地域とも住宅が最も多くなっています。

農地転用の分布をみると、用途地域内とその縁辺部、国道387号周辺、既存集落周辺等で多くみられます。

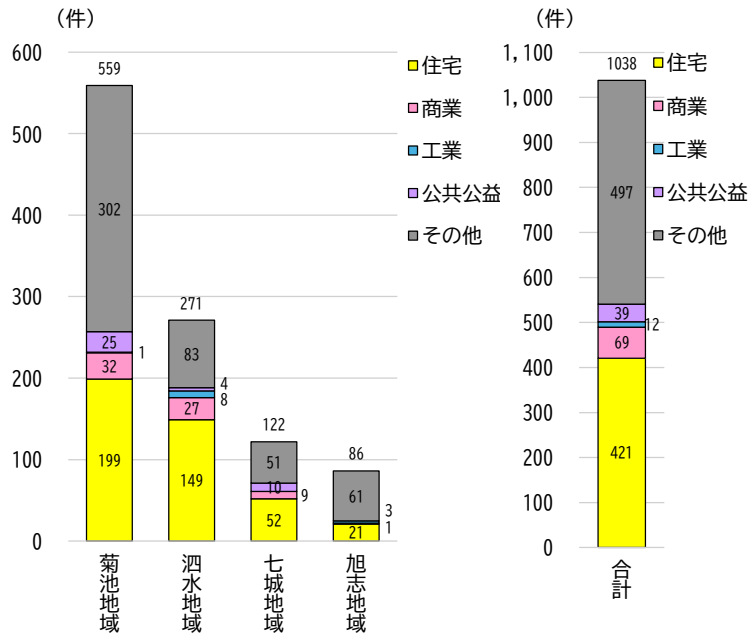


図 2-73 地域別農地転用面積

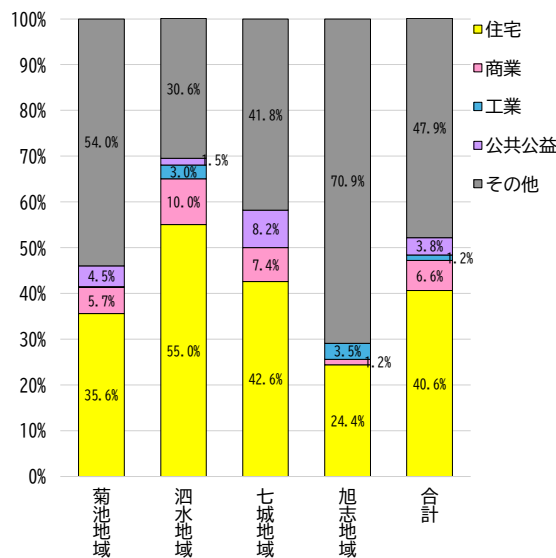


図 2-74 地域別農地転用面積構成比

資料: R4年 都市計画基礎調査

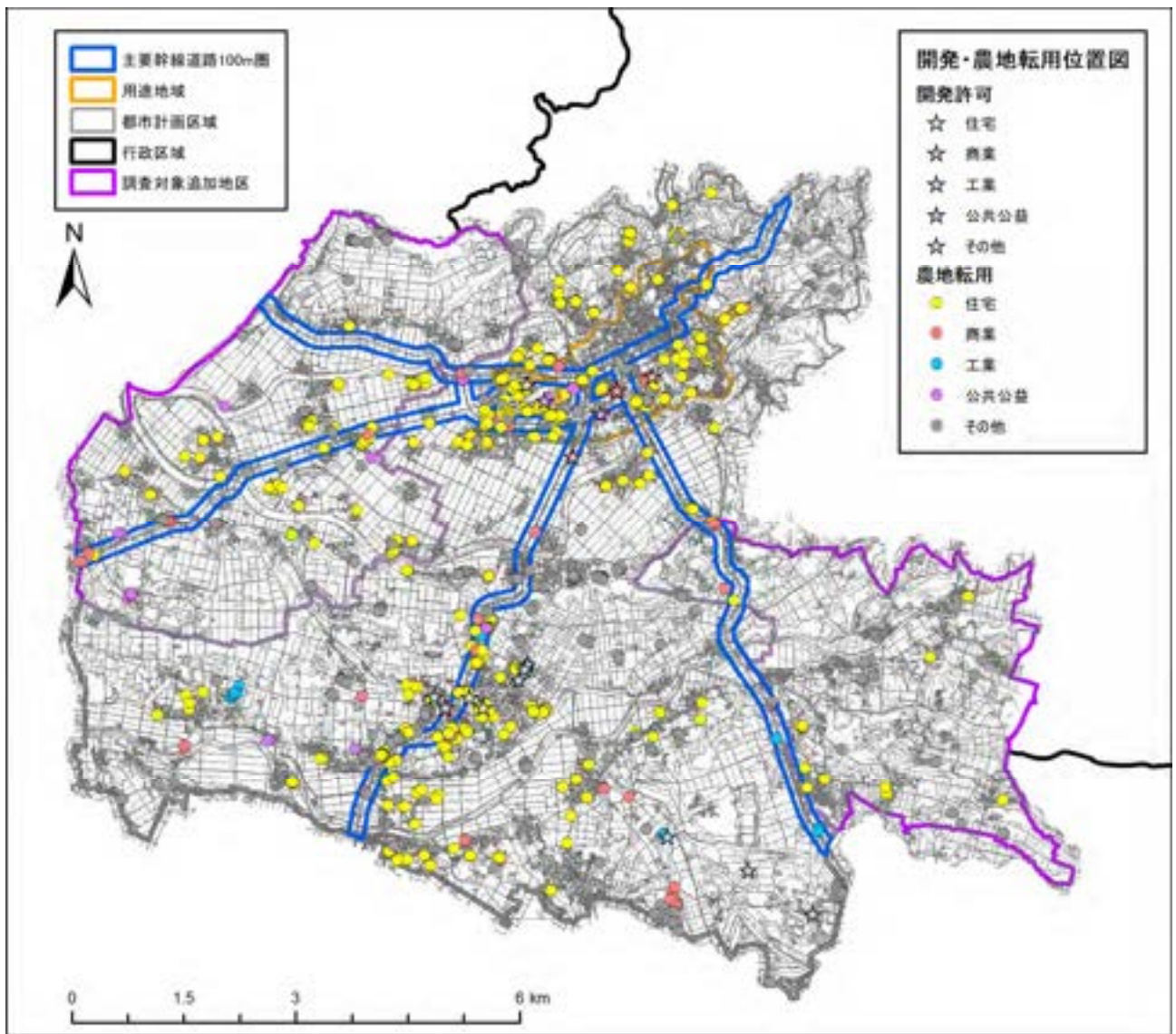


図 2-75 開発・農地転用位置図

資料：R4年 都市計画基礎調査

## (6) 地価動向

地価（公示地価、県調査地価）についてみると、令和5年（2023年）では、用途地域内は商業系28,800円/㎡、住居系は25,667円/㎡となっています。

都市計画区域内の用途地域外では、商業系24,250円/㎡、住居系は12,257円/㎡となっており、用途地域と比較して、商業系は84%、住居系は48%の水準となっています。

平成31年（2019年）を1としたときの令和7年（2025年）までの地価の推移をみると、都市計画白地の住居系の地価は、1.279となっており、7年間で27%上昇していますが、その他の地域地区の地価は、横ばいからやや減少傾向にあります。

なお、県全体の平均地価は、7%の上昇ですが、本市の都市計画区域外は、令和5年度から県の地価調査による調査地点の廃止や追加などが行われていることもあり、平均地価が高い結果となっています。

表 2-16 菊池市の地域地区用途別平均地価の推移

地域地区	用途区分	平均地価(円/㎡)						
		H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
用途地域	商業系	28,900	28,850	28,850	28,800	28,800	28,800	28,900
	住居系	25,500	25,467	25,467	25,433	25,667	25,833	26,100
都市計画白地	商業系	24,800	24,400	24,250	24,150	24,250	24,300	24,450
	住居系	11,114	11,143	11,157	11,543	12,257	13,157	14,214
都市計画区域外		4,700	4,700	4,700	4,700	7,833 <sup>※1</sup>	9,750 <sup>※2</sup>	11,600 <sup>※3</sup>
(参考)県全体の平均価格		53,800	55,200	55,400	55,900	57,600	59,600	62,100

※1 県地価調査において菊池市七城町甲佐町字釘原の調査地点が追加

※2 県地価調査において菊池市旭志麓字西請の調査地点が廃止

※3 県地価調査において菊池市旭志川辺字下西原の調査地点が追加

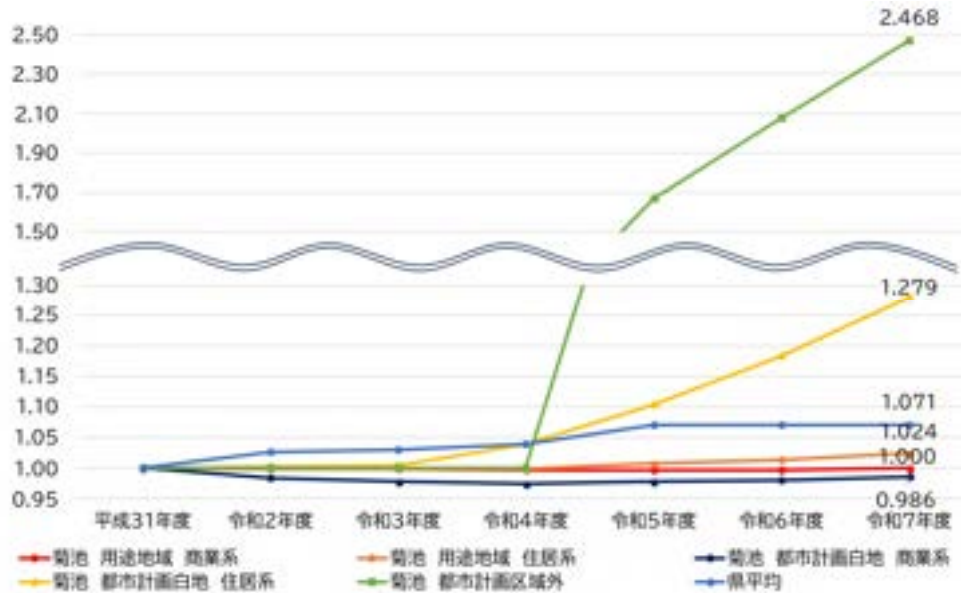


図 2-76 H31 年度を 1 とした菊池市の地域地区用途別平均地価の推移

資料：H31 年度～R7 年度 地価公示、県地価調査

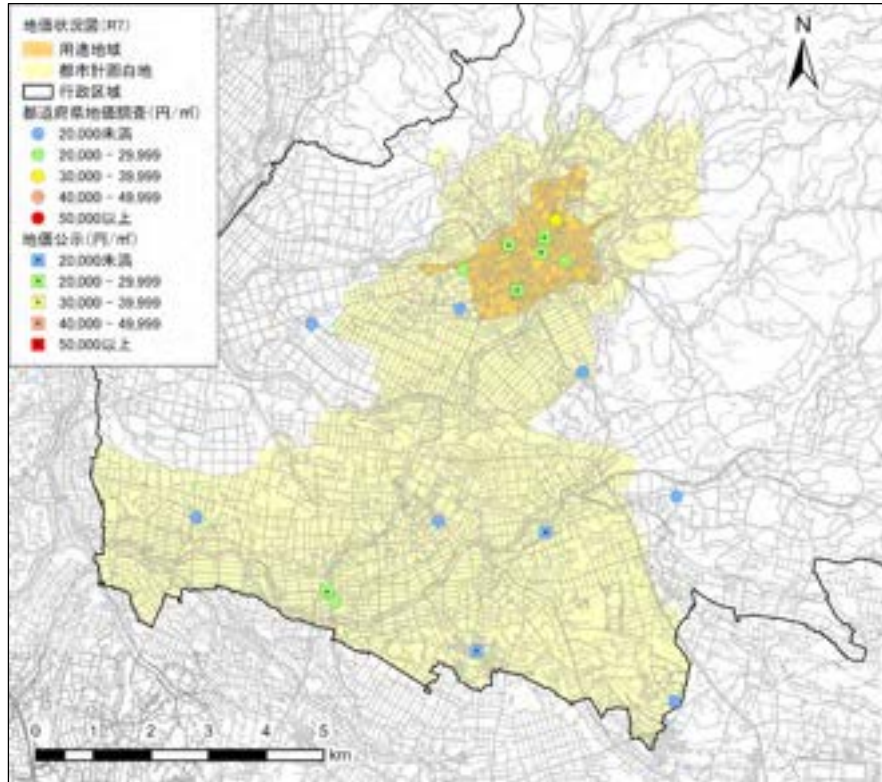


図 2-77 菊池市の地価現況図

資料：H31～R7 年度地価公示、県地価調査

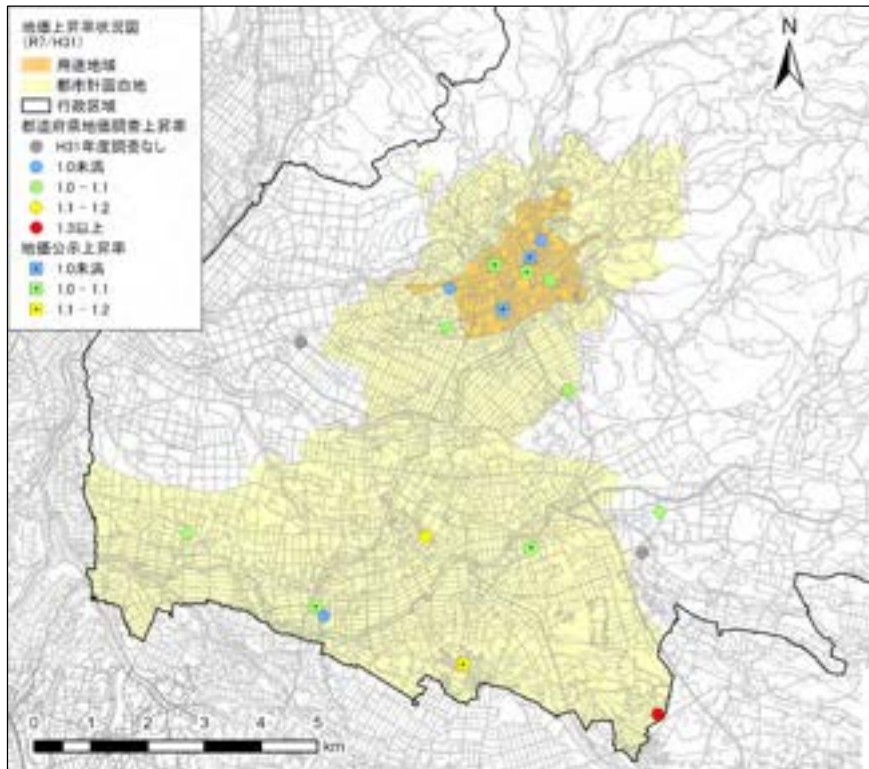


図 2-78 菊池市の地価上昇率現況図(H31年度～R7 年度)

資料：H31～R7 年度地価公示、県地価調査

(7) 災害リスク

1) 河川浸水想定区域

菊池川水系の浸水想定区域は広く、河川が合流する七城地域では居住地のほとんどが浸水区域に含まれています。泗水地域においても地域の中心部が浸水想定区域に含まれています。

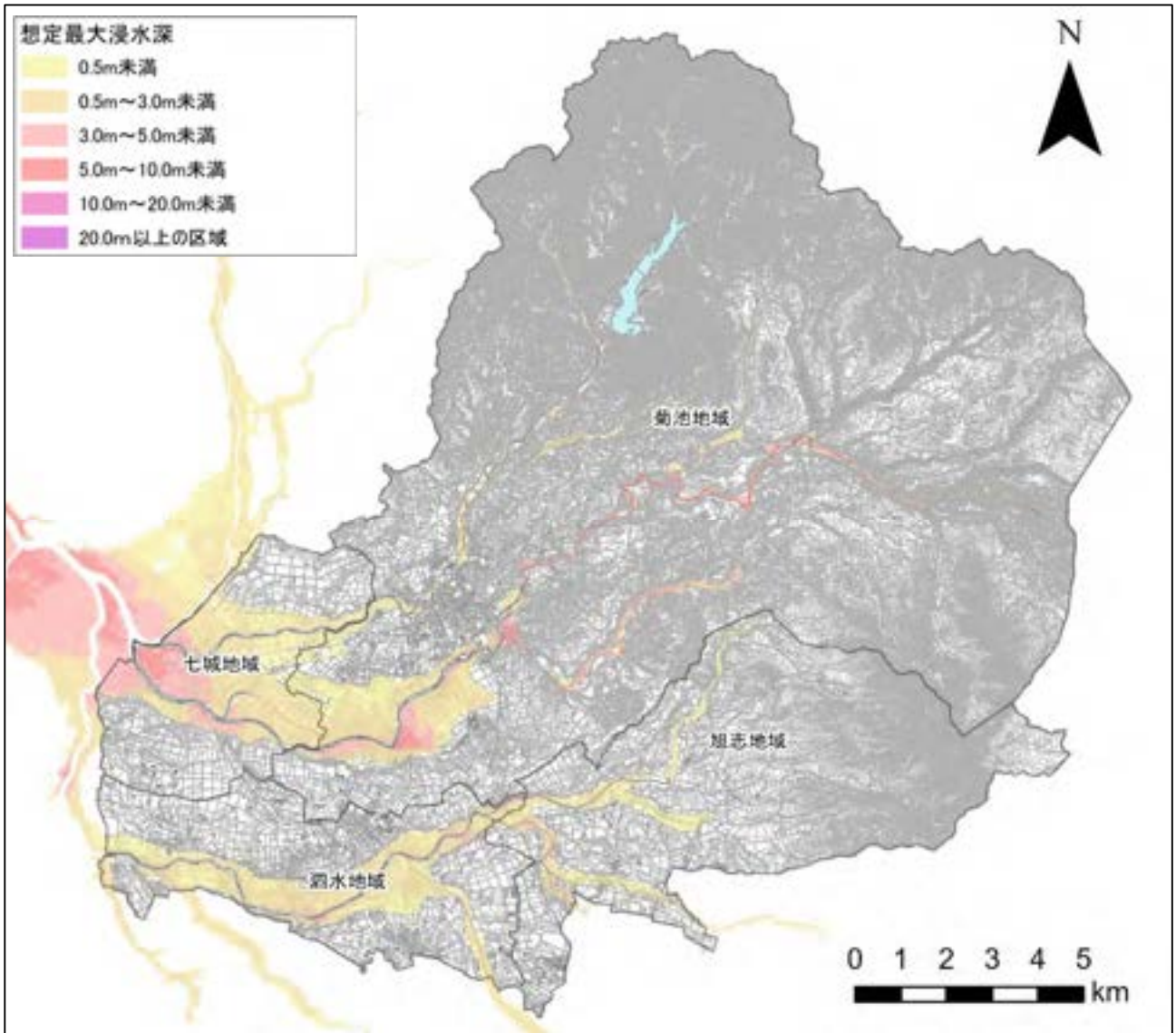


図 2-79 河川浸水想定(想定最大)分布図

資料: 国土交通省 熊本県浸水想定区域資料

## 2)土砂災害警戒区域

菊池地域の山間部に土砂災害警戒区域（土石流、地すべり、急傾斜地の崩壊）が集中しています。菊池地域のまちなか付近や菊池と泗水地域の間広がる花房台地のへりの部分が土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）、旭志地域の中央部が土砂災害警戒区域（土石流）に含まれています。

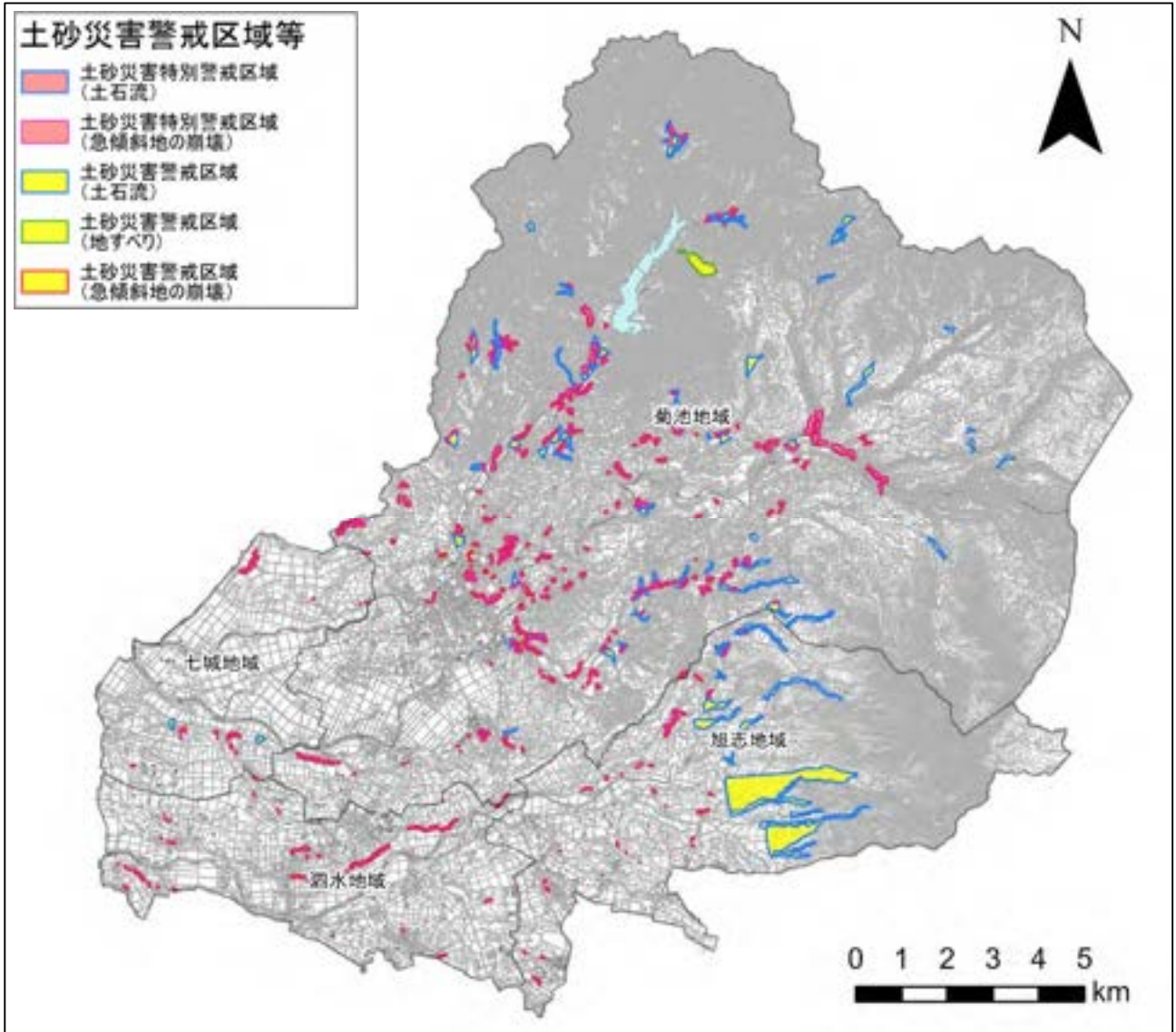


図 2-80 土砂災害警戒区域等分布図

資料:熊本県 土砂災害警戒区域等指定状況資料

### 3) 避難場所、避難所と災害ハザードエリアの重ね合わせ

本市の避難所・避難場所の分布と災害ハザードエリアを重ねると、七城地域や泗水地域に浸水想定区域に含まれる避難所・避難場所が存在しています。

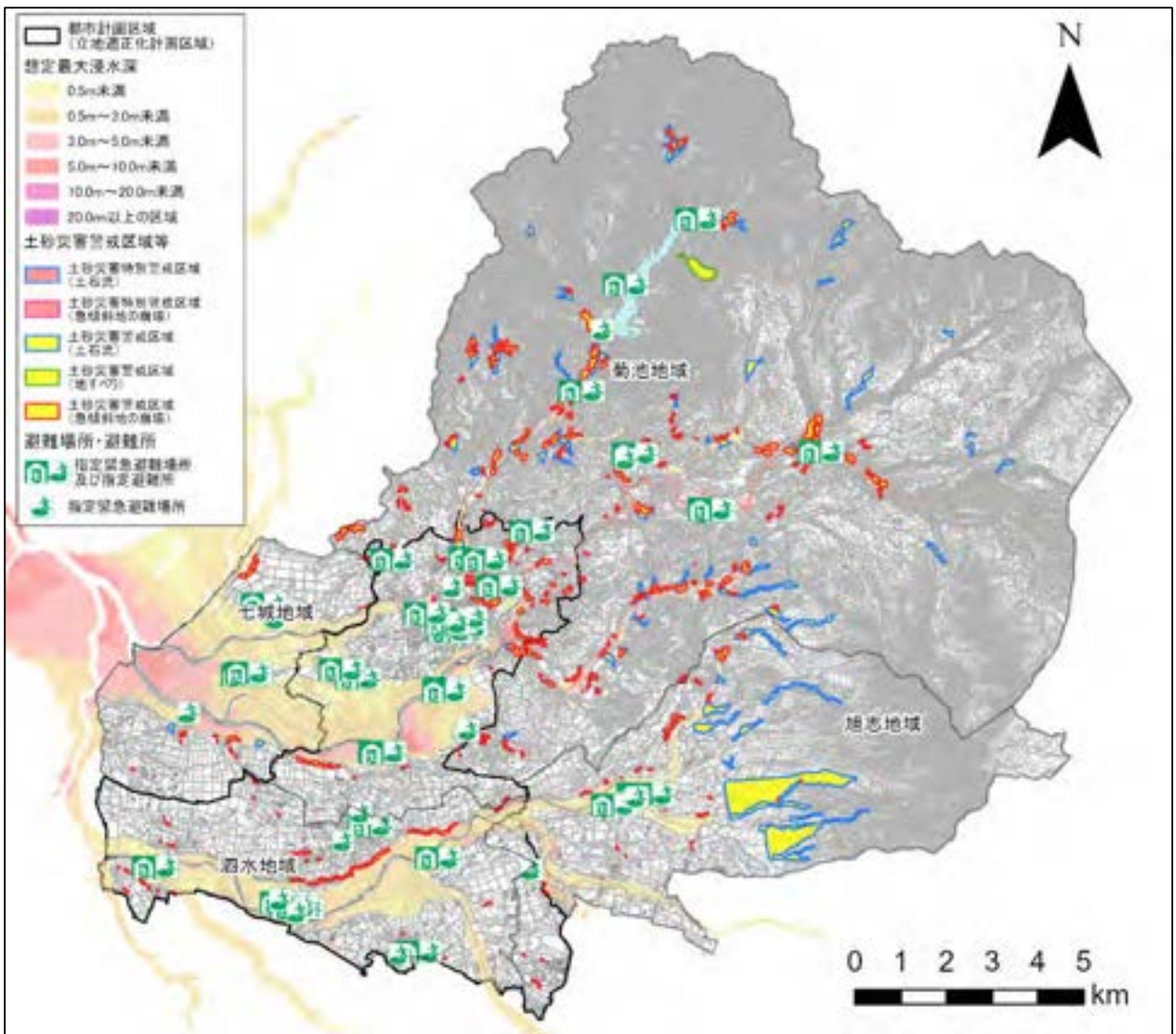


図 2-81 避難場所、避難所と災害ハザードエリアの重ね合わせ

資料: 菊池市地域防災計画、国土交通省 熊本県浸水想定区域資料、熊本県 土砂災害警戒区域等指定状況資料

#### 4)道路幅員 4m 未満道路と災害ハザードエリアの重ね合わせ

本市の幅員 4m 未満の道路（平野部）は、農地に多く分布しており、災害ハザードエリアと重ね合わせた場合、七城地域の国道 325 号以南に多くみられます。

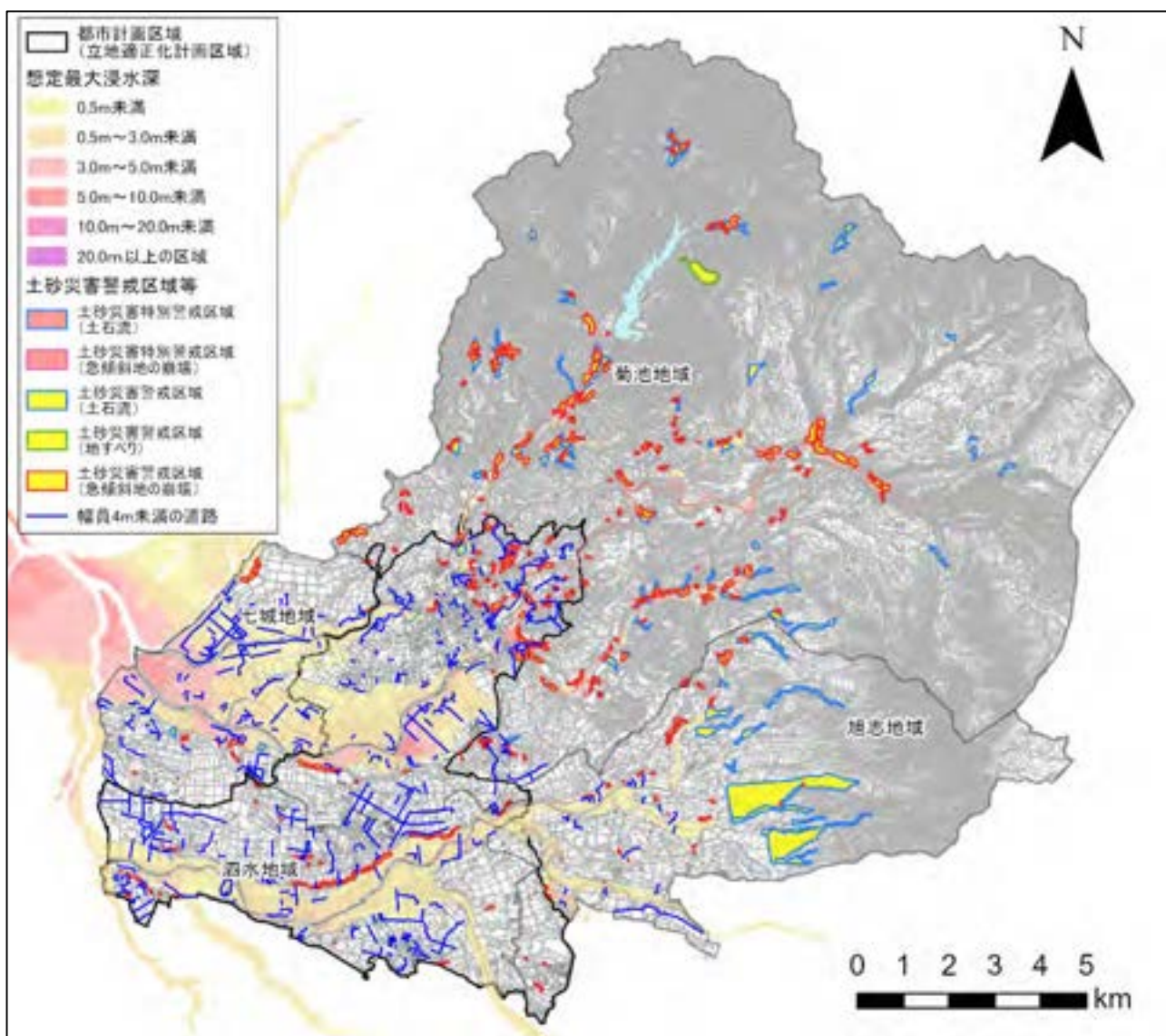


図 2-82 道路幅員 4m 未満道路と災害ハザードエリアの重ね合わせ

資料:R4 年 都市計画基礎調査、国土交通省 熊本県浸水想定区域資料、熊本県 土砂災害警戒区域等指定状況資料  
 ※都市計画基礎調査の調査対象範囲は、都市計画区域及び七城地域と旭志地域の一部である。

## (8) 公共公益施設の分布

### 1) 市役所、公民館等

市役所、支所、公民館・集会施設の分布についてみると、市役所や各支所を中心にした施設立地がみられます。

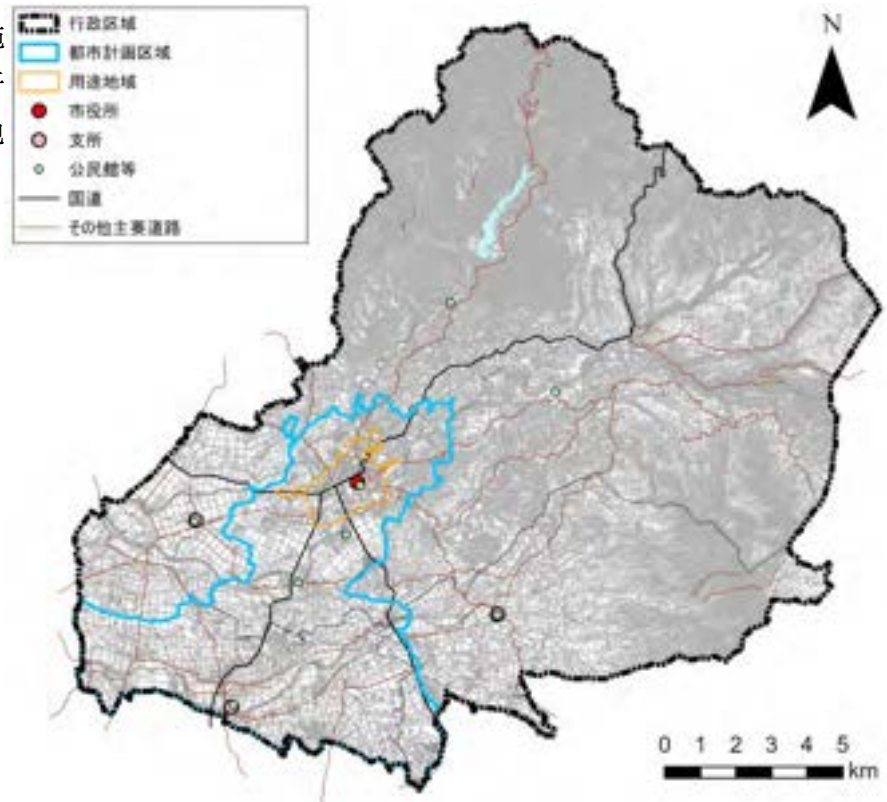


図 2-83 市役所・公民館等の分布

### 2) 文化施設等

文化・教育施設、スポーツ施設の分布についてみると、市役所、公民館等と同様、全体的に各地域の中心部を中心にした施設立地がみられます。

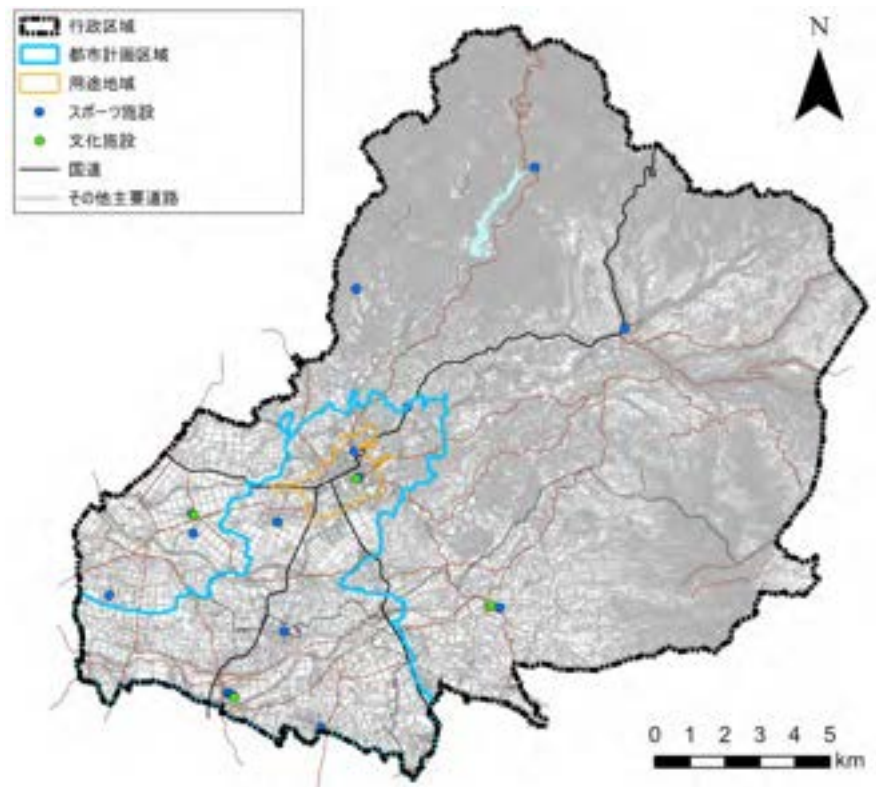


図 2-84 文化施設等の分布

資料: 国土数値情報

### 3)医療機関

病院、診療所の医療機関の分布についてみると、菊池中心市街地の立地が非常に多く、また、泗水地域の国道387号沿道にも集中して立地がみられます。

病院は、七城地域、旭志地域における立地はなく、その他医院の立地も少なくなっています。

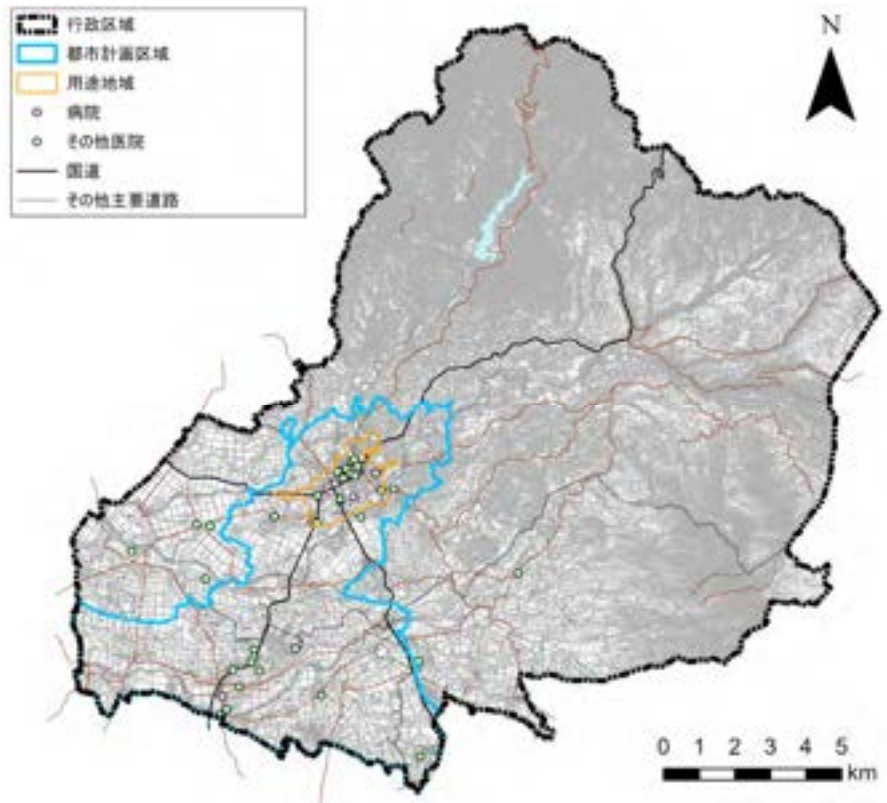


図 2-85 医療機関の分布

### 4)福祉施設

幼稚園、保育所、高齢者福祉施設、その他福祉施設の立地状況についてみると、用途地域周辺や泗水地域中心部において、多く立地しています。

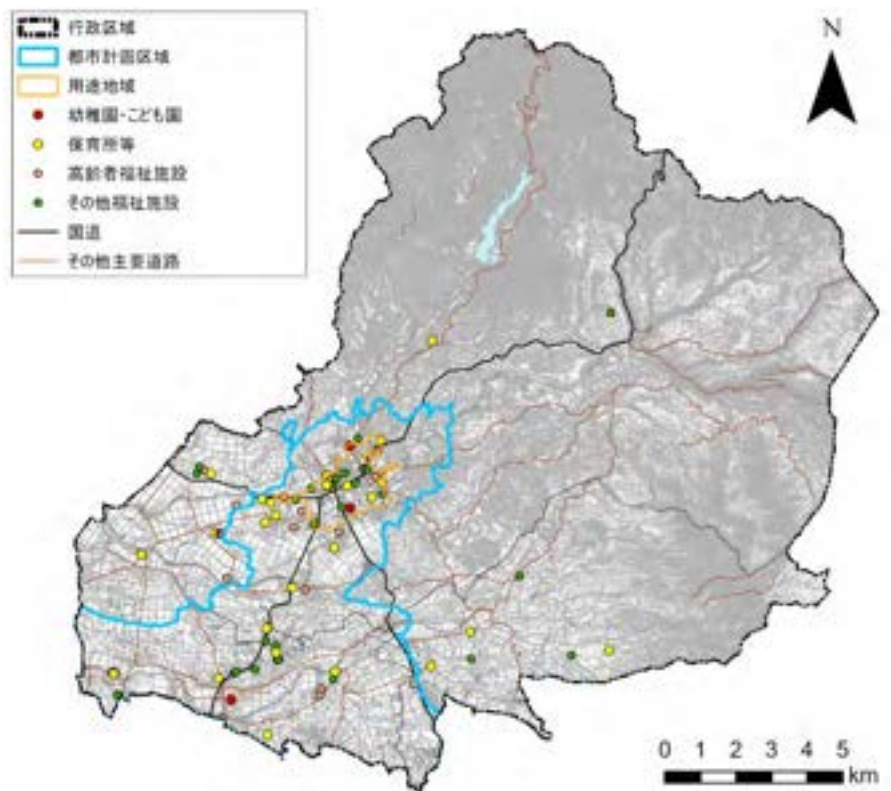


図 2-86 福祉施設の分布

資料:国土数値情報、保育所は google map による

## 5)教育施設

小学校は、菊池地域と泗水地域に各4校、旭志地域と七城地域に各1校あります。

中学校は、菊池中心市街地に2校、各支所周辺に1校、計5校がみられます。

高校は3校立地し、うち2校は菊池中心市街地にあり、専修学校も菊池中心市街地に1校あります。

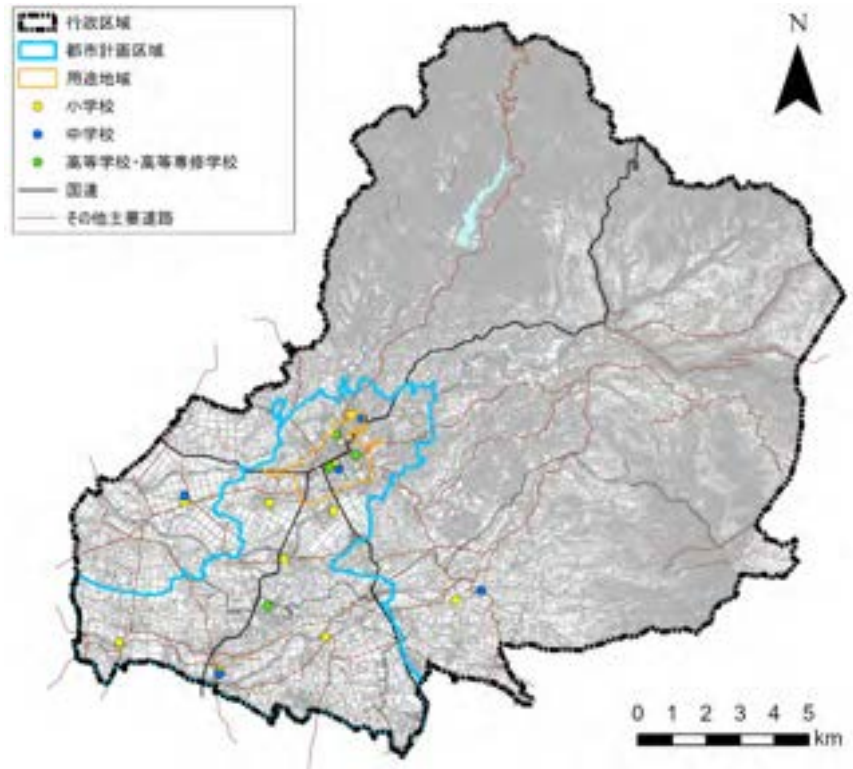


図 2-87 教育施設の分布  
資料:国土数値情報

## 2-3 市民アンケート調査

### (1) 調査概要

#### ●調査目的

本計画及び都市計画マスタープランの改定に向け、市民の意向を把握することを目的として、市民アンケートを実施しました。

#### ●調査項目

調査項目は、以下のとおりとしました。

表 2-17 市民アンケート調査項目

設問の主題	設問の狙い
1.回答者の属性	属性による意向把握
2.日常の行動範囲	人の動きや利用頻度が高い交通手段の把握など
3.お住まいの地区について	優先すべき項目(重要度が高く、満足度が低い)の把握
	お住いの地区の将来像、土地利用、優先して整備すべき施設の把握
4.菊池市全体について	活かしたい点の把握
	課題点の把握
	各項目の整備方針についての市民の意見の把握
5.自由意見	—

#### ●調査対象

調査対象は、以下のとおりとしました。

18歳以上の菊池市民 2,000名(※令和6年(2024年)6月末日現在の住民基本台帳人口より無作為抽出)

#### ●調査方法

調査方法は、調査票を郵送にて送付し、郵送による返送又は、WEBアンケートフォームからの回答としました。

配布回収:郵送配布・郵送回収調査法, WEBアンケートフォーム(Logo フォーム)  
調査期間:令和6年(2024年)8月9日(金)~8月23日(金)(期間後、郵送にて返送があった回答も集計)

#### ●回答結果

回答結果は、以下のとおりです。回答数 665件、回収率 33%となりました。

表 2-18 市民アンケート回答結果

回答数	665件
うち、郵送回答	583件
うち、WEB回答	82件

(2) 調査結果

●日常の行動範囲

問 2.あなたは、通勤や買い物、通院など外出する場合、どのくらいの頻度で、どこの地区に、どのような交通手段を使って行くことが最も多いですか。

回答者の各行動の頻度は、「ほとんど毎日」の回答割合が高いことがわかります。「食料品日用品の買い物」については、「週に1~2回」との回答割合が高く、「通院」や「外食、娯楽など」については、「月に1~2回」の割合が高いことがわかります。「軽スポーツ・レクリエーション」に関しては、「ほとんどいかない」との回答が多くみられます。

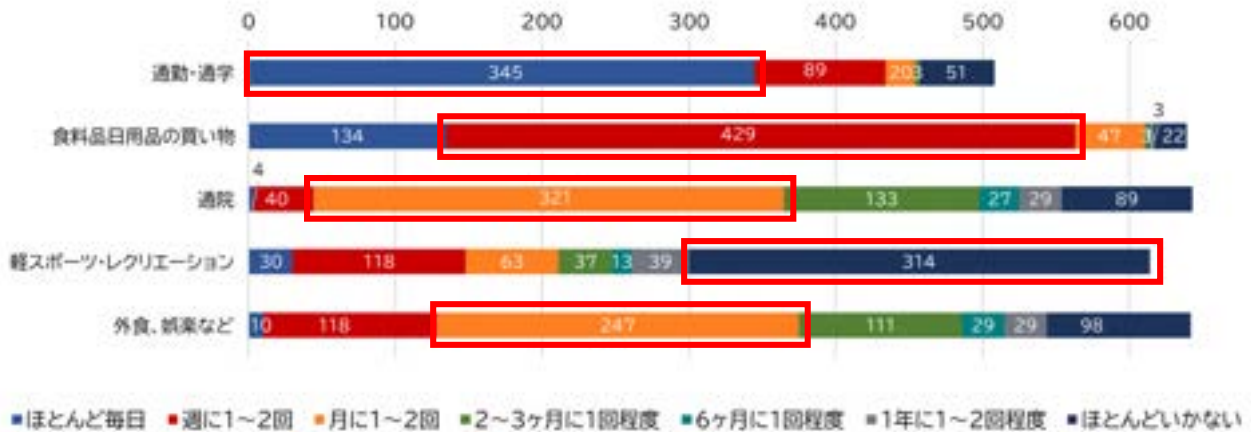


図 2-88 日常の行動範囲(頻度)

回答者の各行動の行き先は、市内が中心となっています。菊池中心部や泗水支所周辺は、「日用品・食料品の買い物」、「通院」などの来訪が多く、目的別では、「通院」に「熊本市」へ、「外食・娯楽など」は、「熊本市」に加え、「郊外の国道沿道等」も多くみられます。



図 2-89 日常の行動範囲(行き先)

回答者の各行動の移動手段は、すべての目的において「自動車」が最も多くみられます。

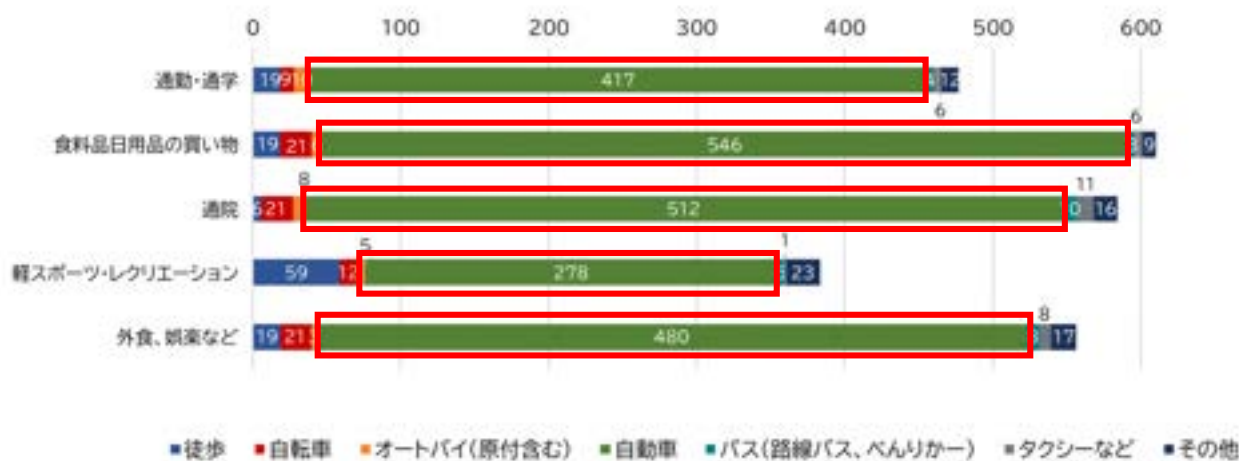


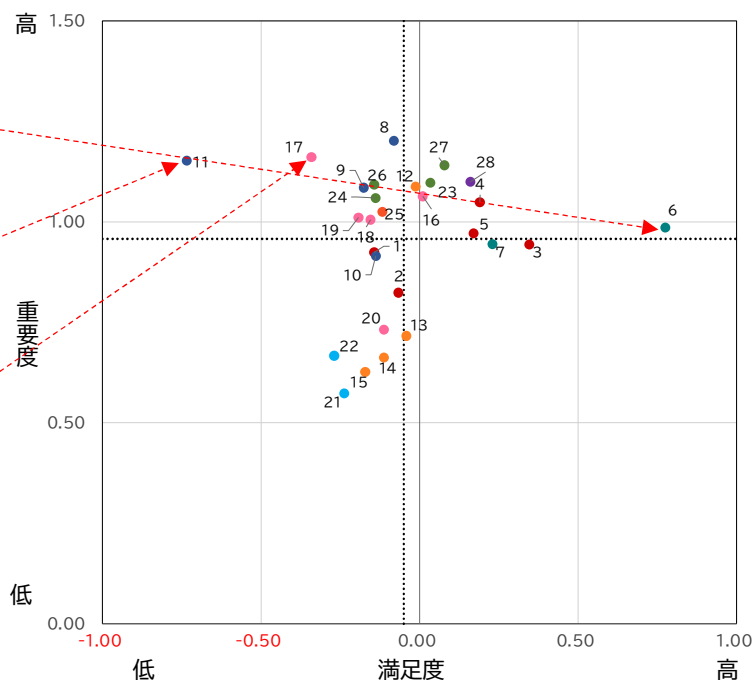
図 2-90 日常の行動範囲(移動手段)

●暮らしやすさの満足度・重要度

問 3-1. 現在、あなたが住んでいる地区の暮らしやすさについて、各項目についてどの程度満足し、また、これからはどの程度重要だと思いますか。(5段階評価から1つ選択)

「豊かな自然」に対する市民の満足度・重要度がともに高く、「高齢者や障がい者の暮らしやすさ」・「公共交通の利便性の低さ」などが優先度が高い事項として認識されていると考えられます。

生活環境	1. 就業の場・機会の充実度
	2. 公園・広場などの憩いの場
	3. 下水・排水などの処理施設
	4. 車(道路)の利用のしやすさ
	5. 騒音・振動・悪臭などの公害
景観	6. 豊かな自然
	7. 美しい景観やまち並み
利便性	8. 買い物の便利さ
	9. 通院・通学の利便性
	11. 公共交通機関の利用のしやすさ
施設の立地	12. 病院・診療所などの施設の立地場所
	13. 文化・教養活動の機会・施設の立地場所
	14. 運動場などのスポーツ施設の立地場所
	15. レクリエーション空間・施設の立地場所
生活基盤	16. 子育てしやすい環境
	17. 高齢者や障がい者の暮らしやすさ
	18. 道路の整備状況(幹線道路)
	19. 道路の整備状況(生活道路)
地域社会	20. 公園の整備状況
	21. 様々な賑わいやイベントの充実度
	22. 地域のまちづくり活動の充実度
防災	23. 大雨・豪雨時の浸水対策
	24. 木造住宅などの火災・地震対策
	25. 避難経路の整備
	26. 避難所・避難場所の整備
	27. 災害時の情報発信
全般	28. 全般的な暮らしやすさ



満足度	重要度	評価点
満足	重要	+2点
どちらかといえば満足	どちらかといえば重要	+1点
普通	普通	0点
どちらかといえば不満	どちらかといえば不要	-1点
不満	不要	-2点

※重要度・満足度をそれぞれ5段階評価(-2~+2)として点数化し、それぞれの総回答者数によって平均値を算出したものを散布図として表示

図 2-91 暮らしやすさの満足度・重要度

●地区の将来の姿

問 3-2.あなたが住んでいる地区は、将来どのような地区になればよいと思いますか。(2 つまで選択)

地区の将来の姿については、「日常的な買物が便利な店舗や小規模な医療福祉施設等が身近にある地区」の回答が最も多くみられます。

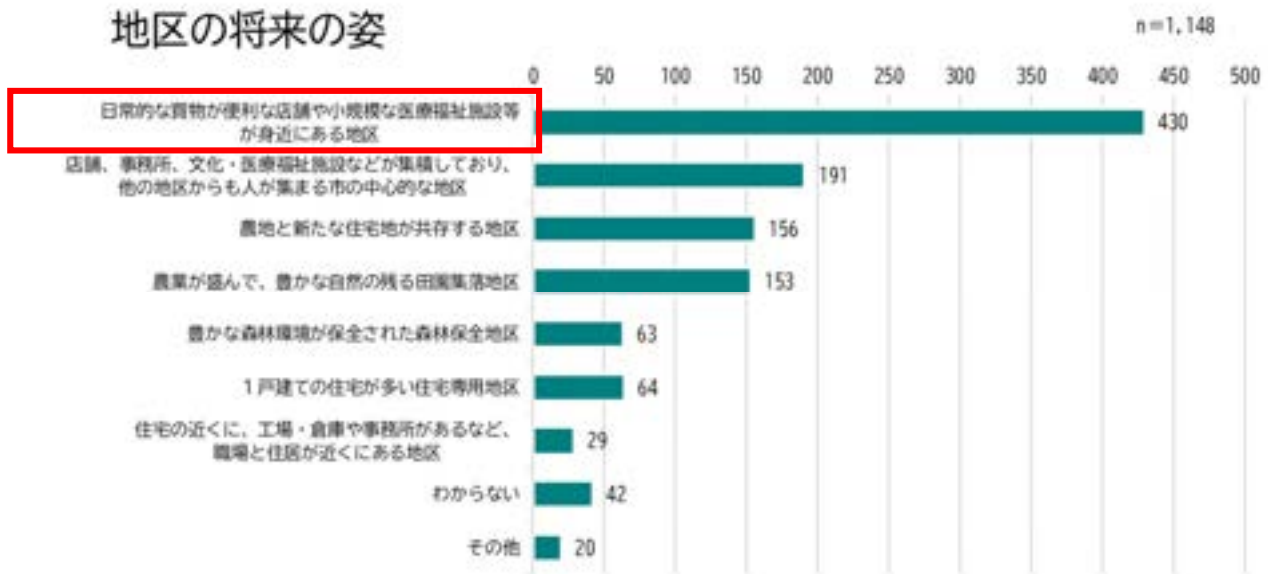


図 2-92 地区の将来の姿

●地区のこれからの土地利用

問 3-3.今後、地区の将来の姿を実現するために、どのような取り組みや方法が必要だと思いますか。(2 つまで選択)

地区のこれからの土地利用については、「都市と自然のバランスを取りながら保全と開発を進める。」の回答が最も多くみられます。



図 2-93 地区のこれからの土地利用

●優先して整備すべき施設

問 3-4.あなたが住んでいる地区で、今後、優先して整備すべき施設は何だと思えますか。(2 つまで選択)

優先して整備すべき施設については、「バスや鉄道などの公共交通」の回答が最も多くみられ、続いて「身近な商業施設（商店街）」や「生活道路」の回答が多くみられます。



図 2-94 優先して整備すべき施設

●菊池市全体の誇りや自慢

問 4-1.あなたは、菊池市全体の誇りや自慢はどのようなことだと思えますか。(3 つまで選択)

菊池市全体の誇りや自慢について、「水や緑などの自然が豊かである」の回答が最も多く、続いて「温泉、水源、その他多様な観光施設が多い」や「歴史があり、文化財なども多い」の回答が多くみられます。

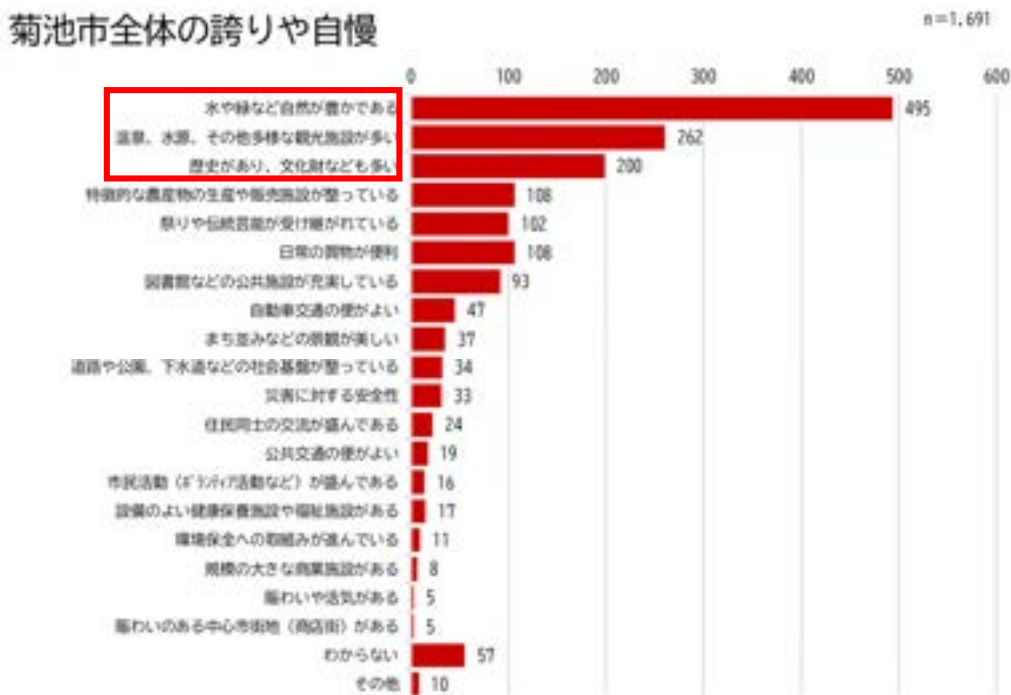


図 2-95 菊池市全体の誇りや自慢

●市全体のまちづくり課題

問 4-2.あなたは、菊池市のまちづくりにおいて最も重要な課題は、どのようなことだと思いますか。(3つまで選択)

市全体のまちづくりの課題については、「高齢者を含め、全ての人がいきいきと暮らせるまちづくりを進める。」の回答が最も多く、続いて「災害に強く、安心して暮らせるまちづくりを進める。」や「中心市街地の活力や賑わいを高める。」の回答が多くみられます。



図 2-96 市全体のまちづくり課題

●各拠点の方向性

問 4-3.「コンパクトな都市づくり」の実現のため、菊池市において、どのように取り組んでいくのがよいと思いますか。(3つ選択)

コンパクトな都市づくりについては、「各拠点において身近な商業施設や、病院や福祉施設、子育て支援施設などを充実させる。」の回答が最も多く、続いて「公共交通の充実や歩行者空間の整備により拠点間の連携を強化し、自動車交通に依存しない、高齢者や子どもにもやさしい都市づくりを進める。」の回答が多くみられます。

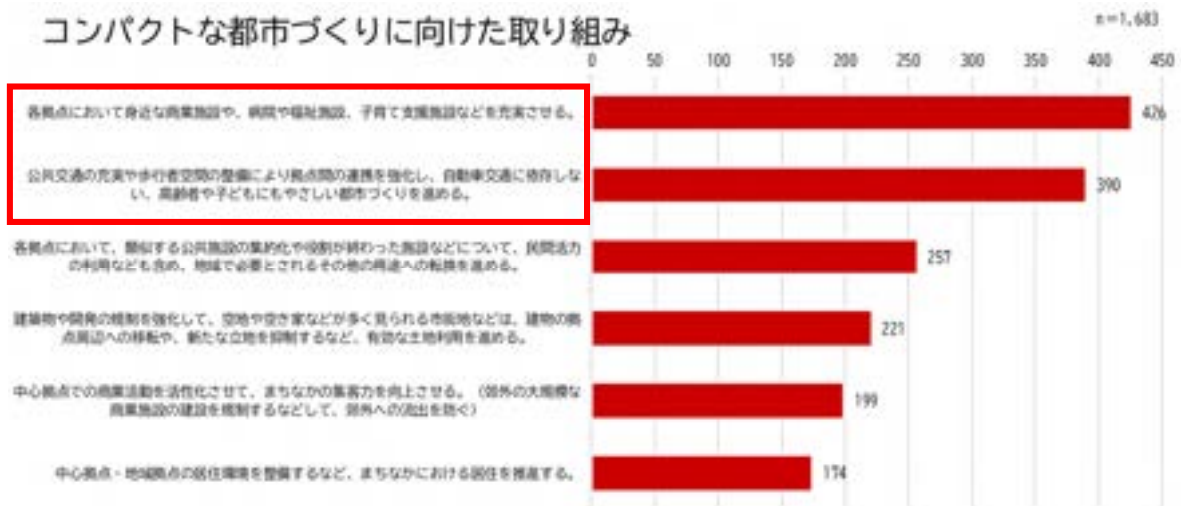


図 2-97 コンパクトな都市づくりに向けた取り組み

●各拠点の方向性

問 4-4.各拠点の方向性について、あなたの考えに近いものはどれですか。(1 つ選択)

各拠点の方向性については、「中心拠点だけではなく地域・生活拠点にもいろいろな施設（店舗、病院等）を立地させるべきである。」の回答が最も多く、続いて「中心拠点と地域・生活拠点の役割を明確にして、必要に応じた施設を立地させるべきである」の回答が多くみられます。

各拠点の方向性



図 2-98 各拠点の方向性

●市街地周辺の開発

問 4-5.郊外における住宅地などの各種開発について、あなたの考えに近いものはどれですか。(1 つ選択)

市街地周辺の開発については、「規制すべき」及び「どちらかといえば規制すべき」の回答が半数以上あり、特に商業施設については、「規制すべき」の回答が多くみられます。一方、工業団地については、「積極的に進めるべき」及び「どちらかといえば進めるべき」の回答が他の開発と比較して多くみられます。

市街地周辺の開発

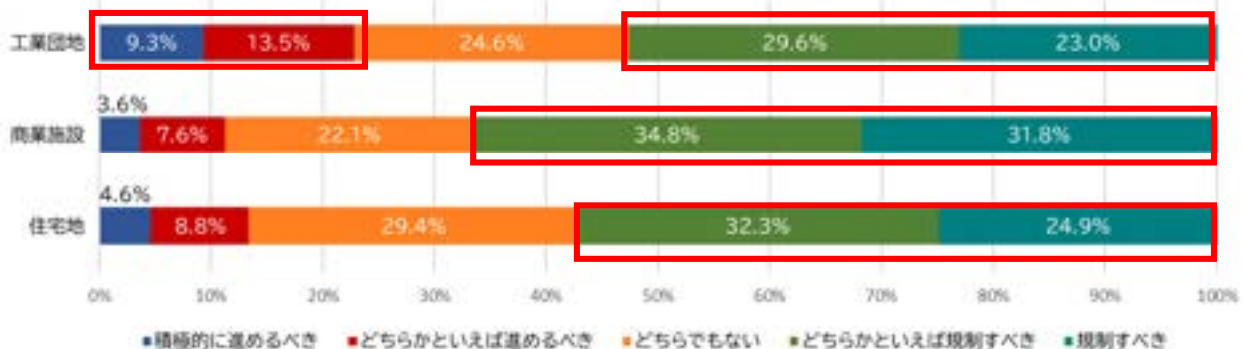


図 2-99 市街地周辺の開発

●河川

問 4-8.河川の利用について、あなたの考えに近いものはどれですか。(1つ選択)

河川については、「防災・減災対策を優先して整備・利活用すべきである。」の回答が最も多く半数近くみられます。続いて「憩いの空間やレクリエーション機能を持った空間として整備すべきである。」、「できるだけ自然なまま保全すべきである。」の回答が多くみられます。

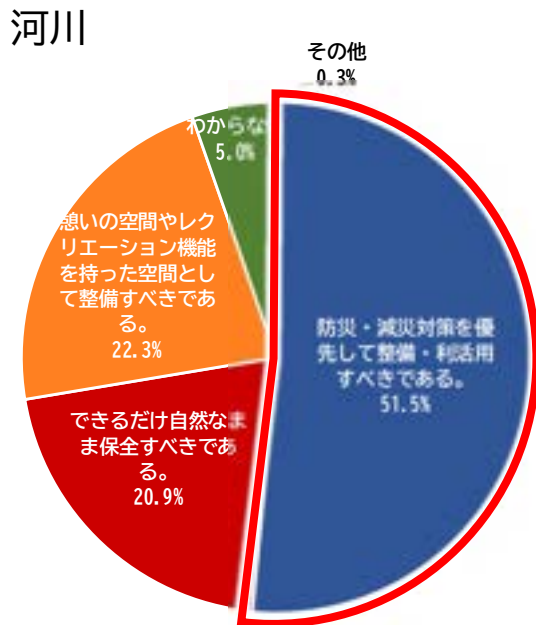


図 2-100 河川

●湖沼・ため池

問 4-9.湖沼・ため池の利用について、あなたの考えに近いものはどれですか。(1つ選択)

湖沼・ため池については、「防災・減災対策を優先して整備・利活用すべきである。」の回答が最も多くみられます。続いて「農業や水利等の利用を優先すべきである。」、「生態系などの自然を保全すべきである。」の回答が多くみられます。

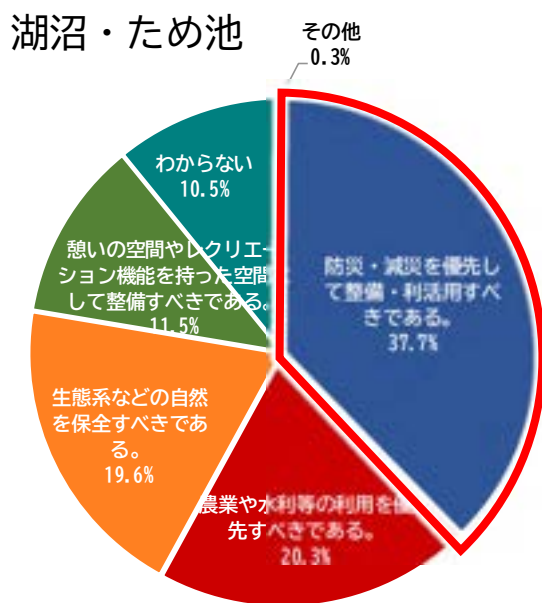


図 2-101 湖沼・ため池

●公園・緑地広場等

問 4-10.公園や緑地広場等の整備について、あなたの考えに近いものはどれですか。(1つ選択)

公園・緑地広場等については、「今ある公園を再整備するなど、もっと有効活用すべきである。」の回答が最も多く半数近くみられます。続いて「今後も今ある公園を維持管理する程度でよい」の回答が多くみられます。

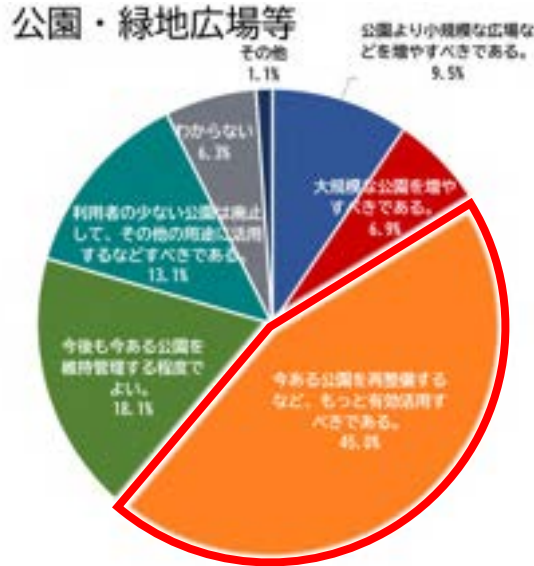


図 2-102 公園・緑地広場等

●道路・交通

問 4-11.道路・交通ネットワークの整備について、あなたの考えに近いものはどれですか。(2つ選択)

道路・交通ネットワークの整備については、「日常生活の安全性を高めるため、地域の生活道路を整備すべきである。」の回答が最も多く、続いて「バスなどの公共交通機関を利用しやすくするため、バス停や路線網を整備すべきである。」の回答が多くみられます。



図 2-103 道路・交通

●公共施設整備

問 4-12.公共的な施設(道路や公園、下水道など)の整備について、あなたの考えに近いものはどれですか。(1つ選択)

公共施設整備については、「予算(支出)が増えても、身近なところに様々な公共施設を整備すべきである。」の回答が最も多く、続いて「予算(支出)を抑えるために、いずれかの施設にしぼって重点的に整備したほうがよい。」や「今後は、公共施設整備への投資は極力行わず、公共施設の維持管理のみを行うべきである。」の回答が多くみられます。

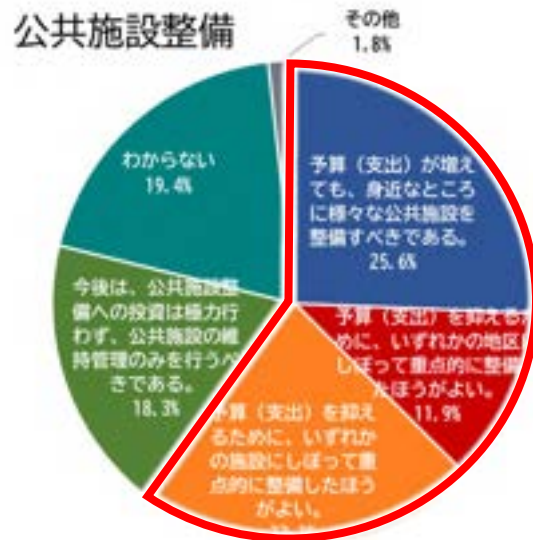


図 2-104 公共施設整備

●防災

問 4-13.防災に関して優先すべき取組について、あなたの考えに近いものはどれですか。(3つ選択)

防災については、「大雨時の洪水などを防ぐ河川の改修整備」の回答が最も多く、続いて「災害時の電力、通信施設、上下水道、ガスなどの復旧計画の策定」や「幅員の狭い道路等、生活道路の整備」の回答が多くみられます。



図 2-105 防災

●公害

問 4-14.あなたが普段生活するうえで、公害と感じるものはどれですか。(3 つまで選択)

公害については、「水質汚濁」の回答が最も多く、続いて「土壌汚染」や「大気汚染」の回答がみられます。一方で、「公害と感じるものは特にない」の回答も多くみられます。



図 2-106 公害

## 2-4 都市構造の特性分析

### (1) 公共公益施設等の立地分析

#### 1) 主要拠点 1km 圏における公共公益施設等の立地特性

本計画において旧 4 市町村の中心地区（以下、「主要拠点」）の 1 km 圏について、公共公益施設等の立地状況についてみると以下のような特徴がみられます。

主要公共公益施設として、①市役所・公民館等、②文化施設等、③医療機関、④福祉施設、⑤商業施設、⑥教育施設の 6 分類とします。

主要拠点 1 km 圏への立地割合が高い施設は、文化施設（集積率 100%）、病院（集積率 80%）、中学校（集積率 80%）、幼稚園・こども園（集積率 75%）などです。

一方、拠点外へ立地が多い施設は、その他福祉施設（拠点外集積率 73%）、高齢者福祉施設（拠点外集積率 71.4%）、保育所等（拠点外集積率 69.1%）、小学校（拠点外集積率 60%）などです。

商業施設（3,000 m<sup>2</sup>以上）の 60%、商業施設（3,000 m<sup>2</sup>未満）の 50%が拠点内に立地しており、それぞれ残りのおよそ半数が拠点外に立地している状況です。また、商業用地面積の 72.4%が拠点外となっています。

市役所 1 km 圏へ立地が多い施設は、高等学校・高等専修学校（集積率 75%）、病院（集積率 60%）、その他医院（集積率 50%）となっています。

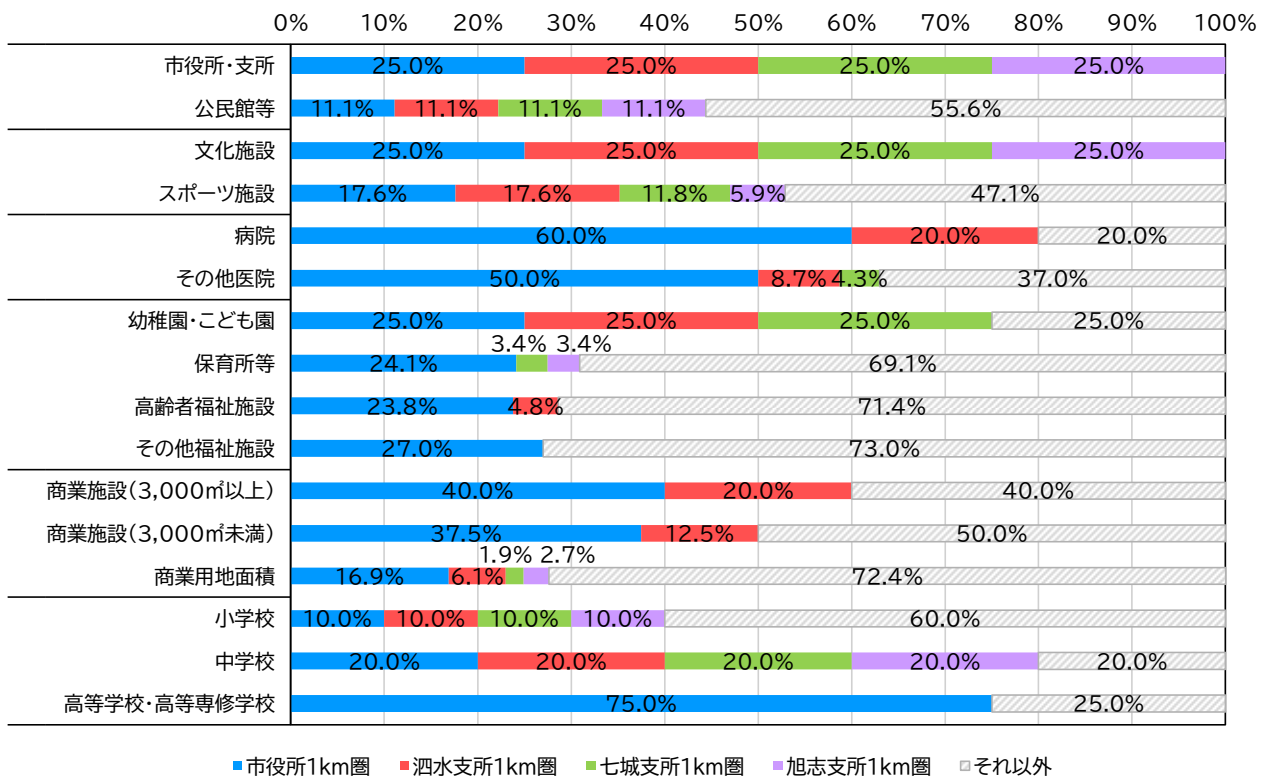


図 2-107 主要拠点1km 圏における公共公益施設等立地割合

資料：国土数値情報、大規模小売店舗立地法届出一覧、菊池市 HP

表 2-19 主要拠点1km 圏における公共公益施設等立地数

項目	市役所 1km圏	泗水支所 1km圏	七城支所 1km圏	旭志支所 1km圏	拠点合計	それ以外	計
市町村役場・公的集会施設(箇所)	2	2	2	2	8	5	13
市役所・支所(箇所)	1	1	1	1	4	0	4
公民館等(箇所)	1	1	1	1	4	5	9
文化施設等(箇所)	4	4	3	2	13	8	21
文化施設(箇所)	1	1	1	1	4	0	4
スポーツ施設(箇所)	3	3	2	1	9	8	17
医療機関(箇所)	26	5	2	0	33	18	51
病院(箇所)	3	1	0	0	4	1	5
その他医院(箇所)	23	4	2	0	29	17	46
福祉施設(箇所)	23	2	2	1	28	63	91
幼稚園・こども園(箇所)	1	1	1	0	3	1	4
保育所等(箇所)	7	0	1	1	9	20	29
高齢者福祉施設(箇所)	5	1	0	0	6	15	21
その他福祉施設(箇所)	10	0	0	0	10	27	37
商業施設(箇所)	5	2	0	0	7	6	13
商業施設(3,000㎡以上)(箇所)	2	1	0	0	3	2	5
商業施設(3,000㎡未満)(箇所)	3	1	0	0	4	4	8
商業用地面積(ha)	27.8	10.1	3.1	4.4	45.4	119.2	164.6
教育施設(箇所)	5	2	2	2	11	8	19
小学校(箇所)	1	1	1	1	4	6	10
中学校(箇所)	1	1	1	1	4	1	5
高等学校・高等専修学校(箇所)	3	0	0	0	3	1	4

表 2-20 主要拠点1km 圏における公共公益施設等立地割合

項目	市役所 1km圏	泗水支所 1km圏	七城支所 1km圏	旭志支所 1km圏	拠点合計	それ以外	計
市町村役場・公的集会施設	15.4%	15.4%	15.4%	15.4%	61.6%	38.4%	100.0%
市役所・支所	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100.0%	0.0%	100.0%
公民館等	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	44.4%	55.6%	100.0%
文化施設等	19.0%	19.0%	14.3%	9.5%	61.8%	38.2%	100.0%
文化施設	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100.0%	0.0%	100.0%
スポーツ施設	17.6%	17.6%	11.8%	5.9%	52.9%	47.1%	100.0%
医療機関	51.0%	9.8%	3.9%	0.0%	64.7%	35.3%	100.0%
病院	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	80.0%	20.0%	100.0%
その他医院	50.0%	8.7%	4.3%	0.0%	63.0%	37.0%	100.0%
福祉施設	25.3%	2.2%	2.2%	1.1%	30.8%	69.2%	100.0%
幼稚園・こども園	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	75.0%	25.0%	100.0%
保育所等	24.1%	0.0%	3.4%	3.4%	30.9%	69.1%	100.0%
高齢者福祉施設	23.8%	4.8%	0.0%	0.0%	28.6%	71.4%	100.0%
その他福祉施設	27.0%	0.0%	0.0%	0.0%	27.0%	73.0%	100.0%
商業施設	38.5%	15.4%	0.0%	0.0%	53.9%	46.1%	100.0%
商業施設(3,000㎡以上)	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	60.0%	40.0%	100.0%
商業施設(3,000㎡未満)	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%
商業用地面積	16.9%	6.1%	1.9%	2.7%	27.6%	72.4%	100.0%
教育施設	26.3%	10.5%	10.5%	10.5%	57.8%	42.2%	100.0%
小学校	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	40.0%	60.0%	100.0%
中学校	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	80.0%	20.0%	100.0%
高等学校・高等専修学校	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%	100.0%

資料：国土数値情報、大規模小売店舗立地法届出一覧、菊池市 HP

## 2)バス停 300m圏における公共公益施設等の立地特性

主要拠点と同様、公共交通軸となるバス停 300m 圏について、公共公益施設等の立地状況をみると以下のような特徴がみられます。

1日運行本数の区分として、①平日片道 30 本/日以上（菊池中心市街地、及び国道 387 号沿道）、②同 10～29 本/日（主に国道 325 号沿道、県道 23 号沿道）、③同 10 本/日未満の 3 分類とします。

平日片道 30 本/日以上の公共交通の利便性が高いエリアにおいて集積が高い施設は、病院（集積率 60%）、高等学校・高等専修学校（集積率 50%）となっています。特に病院は、平日片道 10 本/日以上のエリアに全て含まれています。

一方、バス停 300m 圏外である公共交通利便性の悪いエリアへの立地状況をみると、スポーツ施設（64.7%）、高齢者福祉施設（57.1%）となっています。

バス停圏 300m の商業施設の状況をみると、3,000 m<sup>2</sup>以上は 80%、3,000 m<sup>2</sup>未満は約 90%が立地していますが、商業用地面積をみると 50%強にとどまり、およそ半数がバス停 300m 圏外となっています。このことから、商業施設はバスの利便性とは関係なく立地していることがわかります。

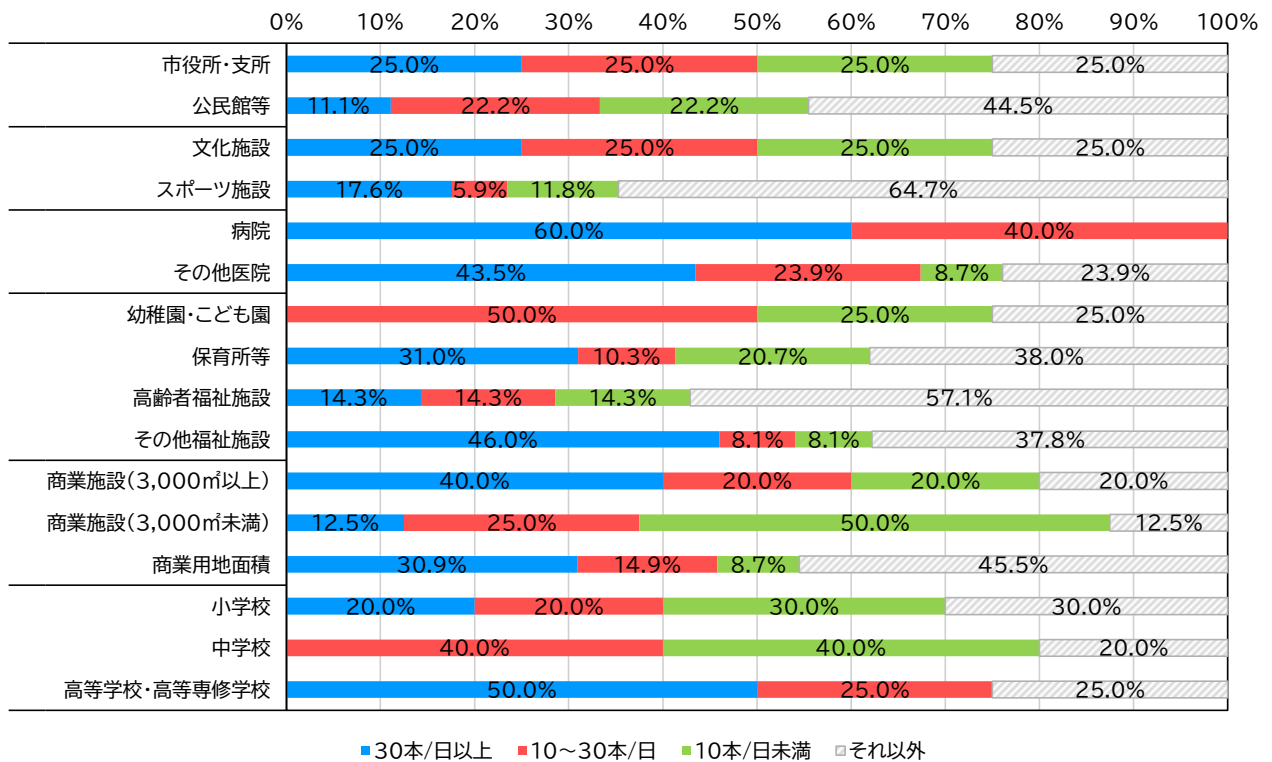


図 2-108 バス停 300m 圏における公共公益施設等立地割合

資料：国土数値情報、大規模小売店舗立地法届出一覧、菊池市 HP

表 2-21 バス停 300m 公共公益施設等立地数

項目	30本/日 以上	10~30本 /日	10本/日 未滿	それ以外	計
市町村役場・公的集会施設(箇所)	2	3	3	5	13
市役所・支所(箇所)	1	1	1	1	4
公民館等(箇所)	1	2	2	4	9
文化施設等(箇所)	4	2	3	12	21
文化施設(箇所)	1	1	1	1	4
スポーツ施設(箇所)	3	1	2	11	17
医療機関(箇所)	23	13	4	11	51
病院(箇所)	3	2	0	0	5
その他医院(箇所)	20	11	4	11	46
福祉施設(箇所)	29	11	13	38	91
幼稚園・こども園(箇所)	0	2	1	1	4
保育所等(箇所)	9	3	6	11	29
高齢者福祉施設(箇所)	3	3	3	12	21
その他福祉施設(箇所)	17	3	3	14	37
商業施設(箇所)	3	3	5	2	13
商業施設(3,000㎡以上)(箇所)	2	1	1	1	5
商業施設(3,000㎡未滿)(箇所)	1	2	4	1	8
商業用地面積(ha)	50.9	24.6	14.4	74.7	164.6
教育施設(箇所)	4	5	5	5	19
小学校(箇所)	2	2	3	3	10
中学校(箇所)	0	2	2	1	5
高等学校・高等専修学校(箇所)	2	1	0	1	4

表 2-22 バス停 300m 公共公益施設等立地割合

項目	30本/日 以上	10~30本 /日	10本/日 未滿	それ以外	計
市町村役場・公的集会施設	15.4%	23.1%	23.1%	38.4%	100.0%
市役所・支所	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100.0%
公民館等	11.1%	22.2%	22.2%	44.5%	100.0%
文化施設等	19.0%	9.5%	14.3%	57.2%	100.0%
文化施設	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100.0%
スポーツ施設	17.6%	5.9%	11.8%	64.7%	100.0%
医療機関	45.1%	25.5%	7.8%	21.6%	100.0%
病院	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%
その他医院	43.5%	23.9%	8.7%	23.9%	100.0%
福祉施設	31.9%	12.1%	14.3%	41.7%	100.0%
幼稚園・こども園	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	100.0%
保育所等	31.0%	10.3%	20.7%	38.0%	100.0%
高齢者福祉施設	14.3%	14.3%	14.3%	57.1%	100.0%
その他福祉施設	46.0%	8.1%	8.1%	37.8%	100.0%
商業施設	23.1%	23.1%	38.4%	15.4%	100.0%
商業施設(3,000㎡以上)	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	100.0%
商業施設(3,000㎡未滿)	12.5%	25.0%	50.0%	12.5%	100.0%
商業用地面積	30.9%	14.9%	8.7%	45.5%	100.0%
教育施設	21.1%	26.3%	26.3%	26.3%	100.0%
小学校	20.0%	20.0%	30.0%	30.0%	100.0%
中学校	0.0%	40.0%	40.0%	20.0%	100.0%
高等学校・高等専修学校	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	100.0%

資料：国土数値情報、大規模小売店舗立地法届出一覧、菊池市 HP

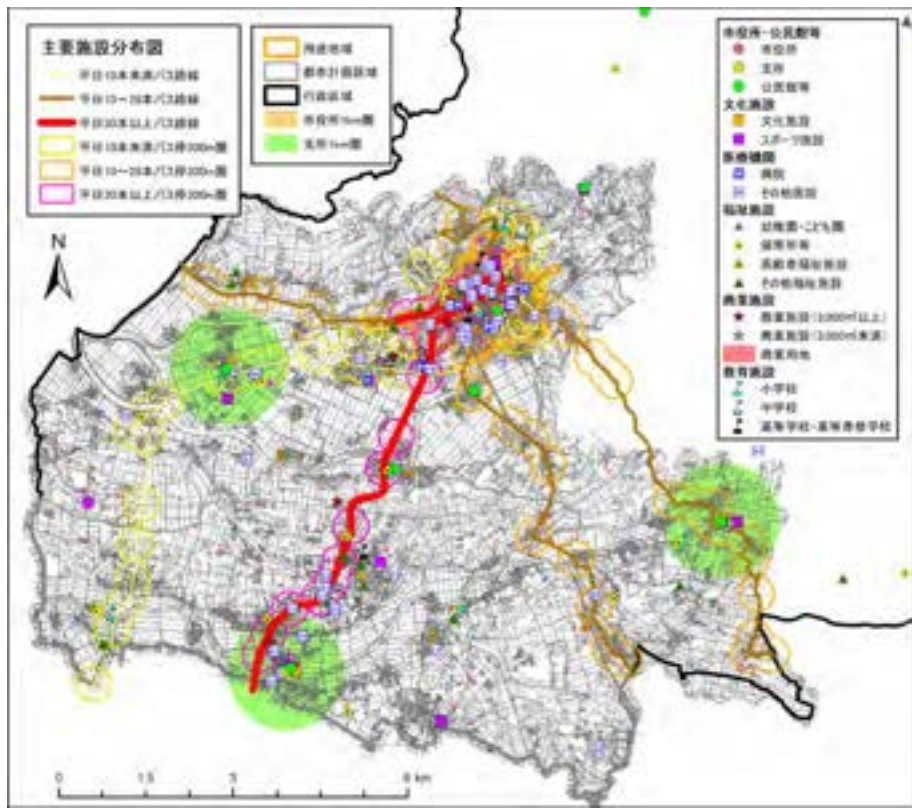


図 2-109 主要施設分布図

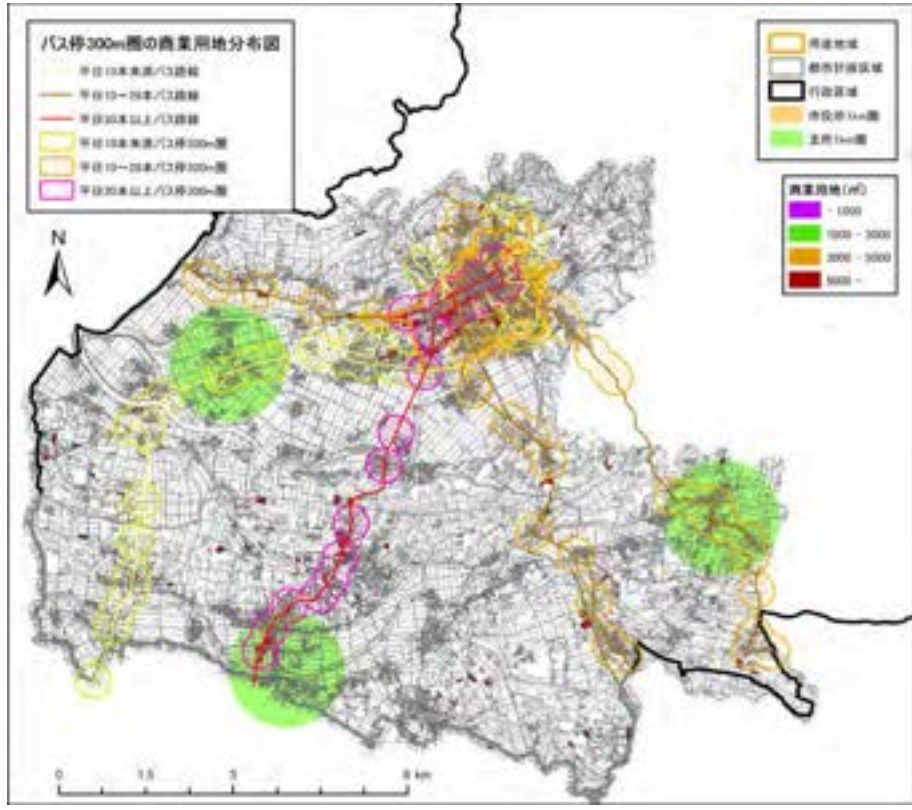


図 2-110 バス停 300m 圏の商業用地分布図

資料：国土数値情報、大規模小売店舗立地法届出一覧、菊池市 HP

市役所1km圏(隈府地区周辺)の立地割合が高い主要施設は、医療機関、福祉施設などです。特に、病院は1km圏内に3箇所立地しており、その他医院についても多数立地していることがわかります。商業施設については、1km圏内に大規模店舗が複数立地しており、郊外にかけて国道や県道沿いにも多くみられます。



図 2-111 市役所1km圏の主要施設分布図

七城支所1km圏の主要施設立地状況を見ると、その他医院やスポーツ施設、子育て支援施設がみられる一方、高齢者福祉施設が立地しておらず、商業用地面積の割合も低くなっています。

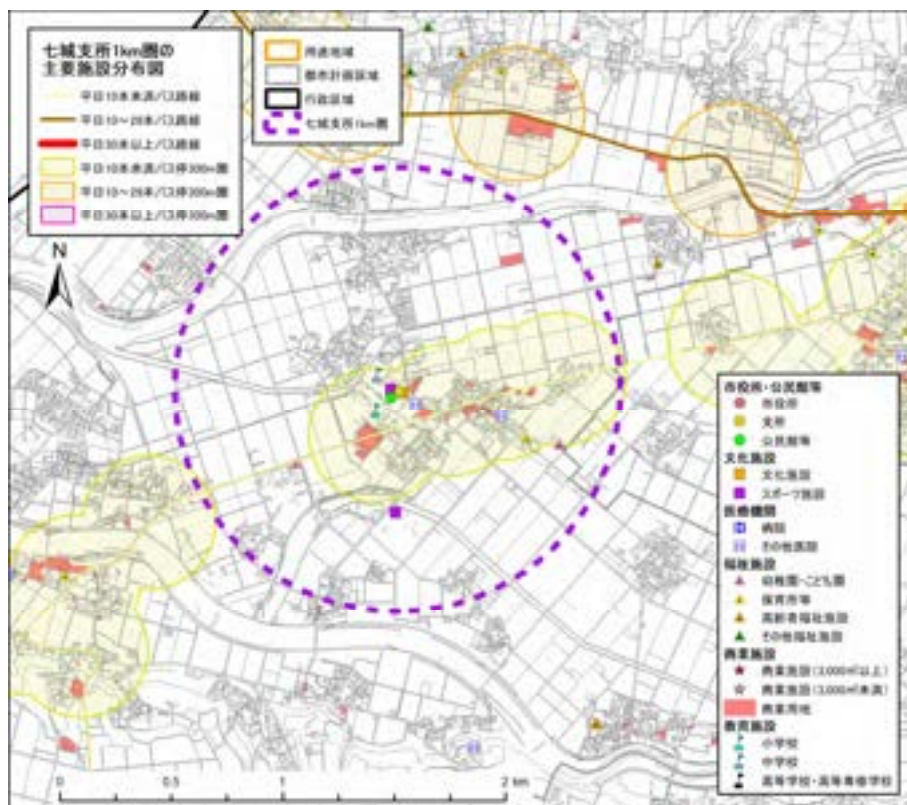


図 2-112 七城支所1km圏の主要施設分布図

資料:国土数値情報、大規模小売店舗立地法届出一覧、菊池市HP

旭志支所 1km 圏の主要施設立地状況をみると、医療機関や高齢者福祉施設の立地がなく、商業用地面積の割合も低くなっています。

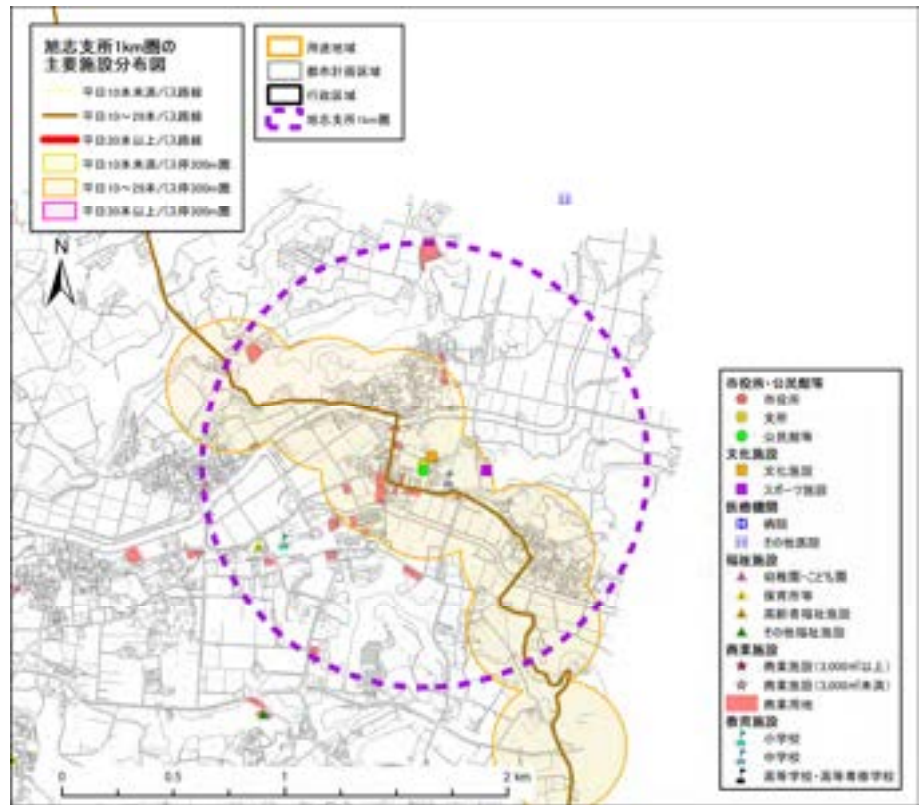


図 2-113 旭志支所 1km 圏の主要施設分布図

泗水支所 1km 圏の主要施設の立地状況をみると、医療機関や文化施設が多数立地しており、大規模商業施設もみられます。商業用地についても、国道 387 号線沿いに多く集積していることがわかります。

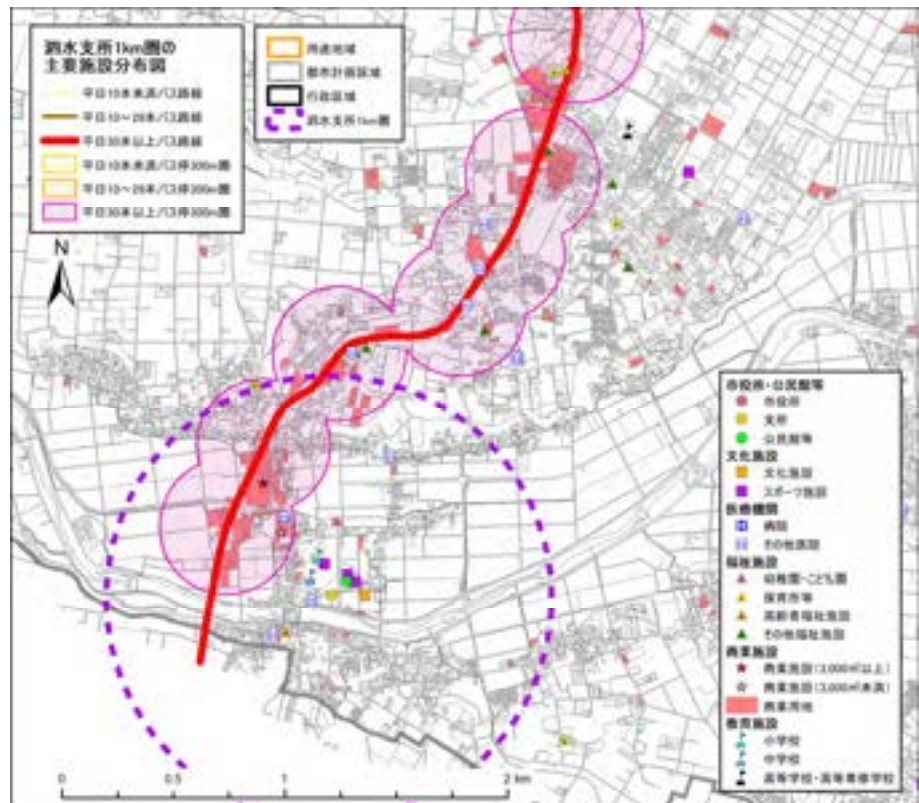


図 2-114 泗水支所 1km 圏の主要施設分布図

資料：国土数値情報、大規模小売店舗立地法届出一覧、菊池市 HP

(2) 現況人口分布

1)市役所・支所 1 km圏

市役所・支所 1km 圏人口については、菊池市役所 1km 圏が最も多く 7,803 人、全市の 17%の人口が集積しています。

泗水地域は、支所よりも北部に人口集積地（支所 1 km圏外）があるため、泗水支所 1km 圏人口は 2,322 人（5%）程度となっています。その他、七城支所 1 km圏は 1,461 人（3%）、旭志支所 1 km圏は 746 人（2%）となっています。

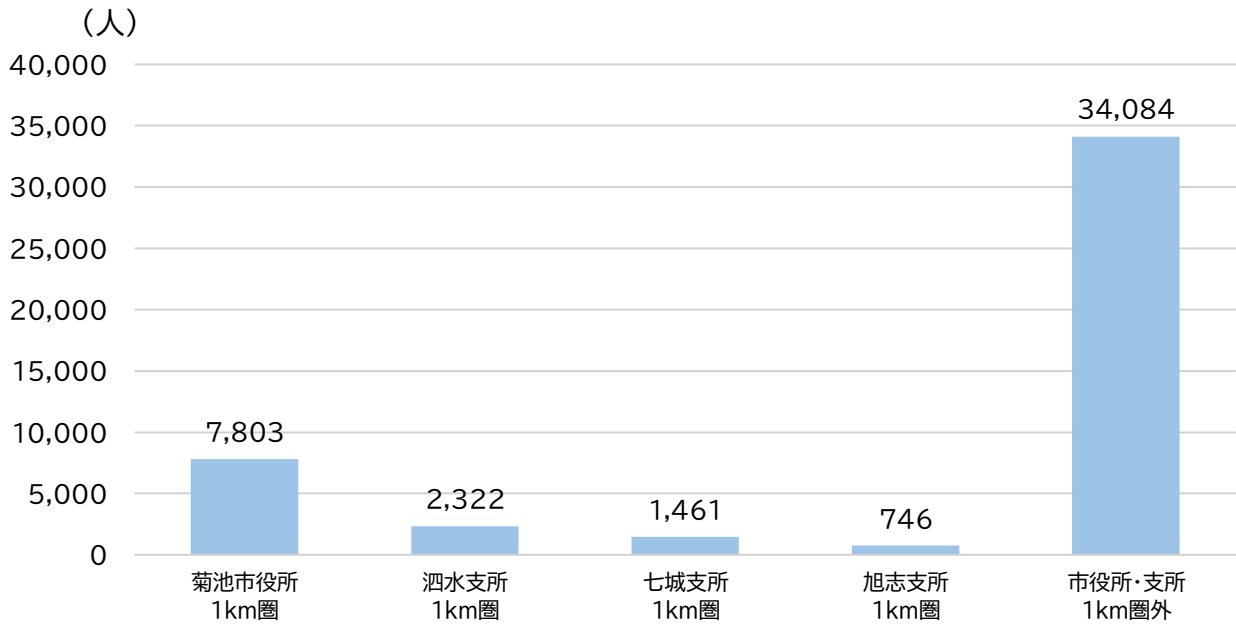


図 2-115 市役所・支所 1km 圏人口(令和 2 年)

表 2-23 市役所・支所 1km 圏人口(令和 2 年)

	菊池市役所 1km圏	泗水支所 1km圏	七城支所 1km圏	旭志支所 1km圏	市役所・支所 1km圏外	全市
人口(R2)	7,803	2,322	1,461	746	34,084	46,416
構成比	16.8%	5.0%	3.1%	1.6%	73.4%	100.0%

資料：R2年 国勢調査

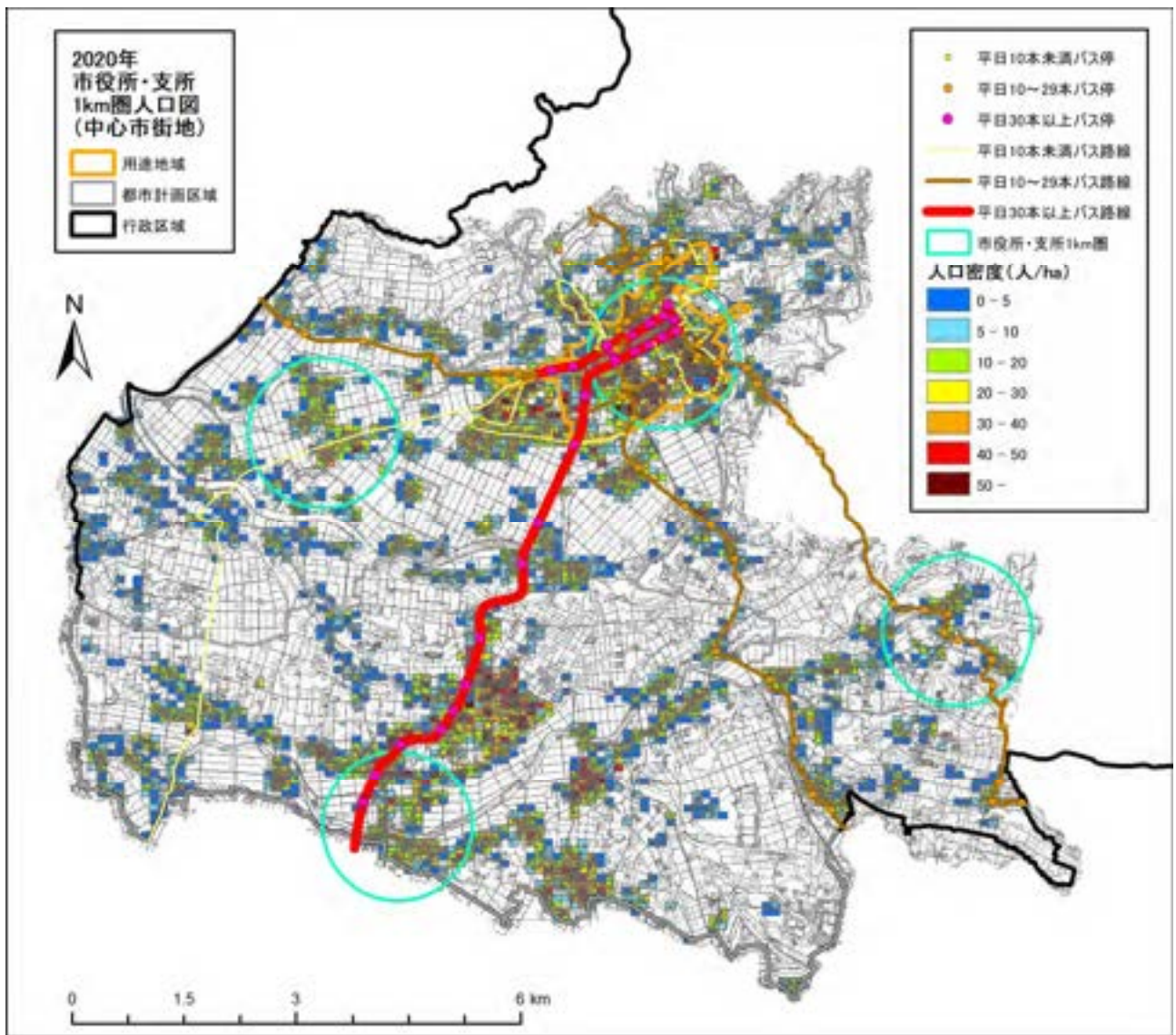


図 2-116 市役所・支所 1km 圏人口図(令和 2 年)

資料:R2年 国勢調査

## 2)バス停 300m圏

バス停 300m 圏外が 24,674 人 (53%) となっており、人口の半数以上の方がバス停 300m 圏外に居住していることがわかります。

バス停 300m 圏の人口では、30 本/日以上路線では 7,984 人 (17%)、10~29 本/日の路線では 8,288 人 (18%)、10 本/日未満の路線では 5,470 人 (12%) となっています。

バス路線及びバス停 300m 圏と人口分布をみると、用途地域内や主要幹線道路沿線ではバス停圏内にありますが、泗水地域南部や西部の集落地等ではバス停 300m 圏外にあることがわかります。

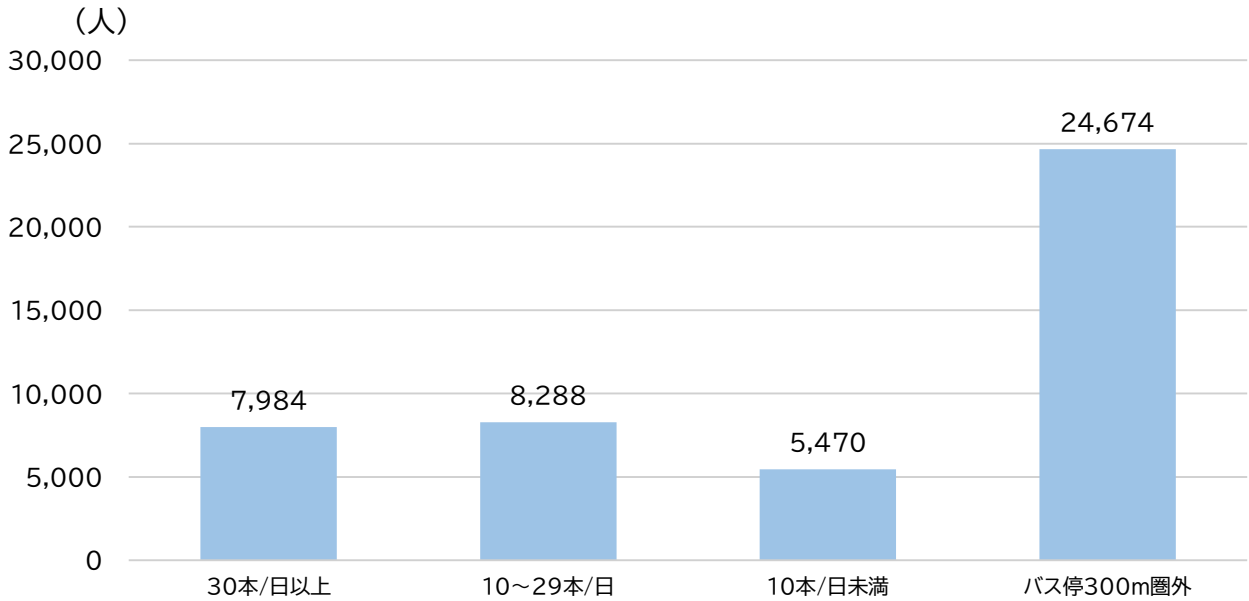


図 2-117 バス停 300m 圏人口(令和 2 年)

表 2-24 バス停 300m 圏人口(令和 2 年)

	30本/日以上	10~29本/日	10本/日未満	バス停300m圏外	全市
人口(R2)	7,984	8,288	5,470	24,674	46,416
構成比	17.2%	17.9%	11.8%	53.2%	100.0%
構成比累計	17.2%	35.1%	46.8%	100.0%	

資料:R2年 国勢調査

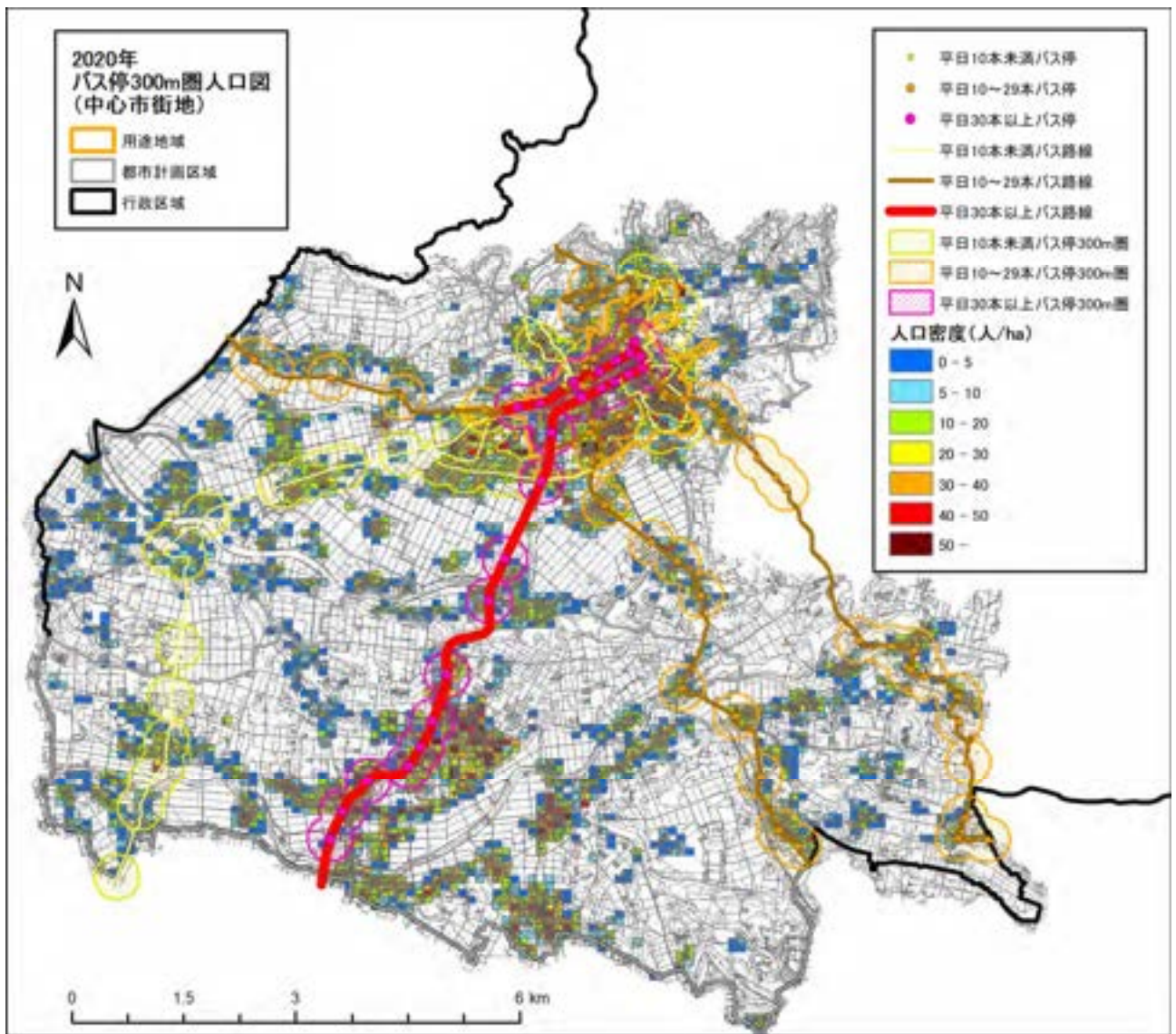


図 2-118 バス停 300m 圏人口図(令和 2 年)

資料:R2年 国勢調査

### 3)中心拠点までのバスによる到達時間別人口

中心拠点までのバスによる到達時間別人口をみると、バス利用圏外が最も多く 21,577 人 (47%) となっており、半数近くの人がバス利用圏外に居住していることがわかります。

中心拠点の徒歩圏 (500m) に居住している人は 5,549 人 (12%) です。

バス利用圏内では、中心拠点バス停まで 60 分以上かかる人が 13,214 人 (54%) と最も多くなっています。

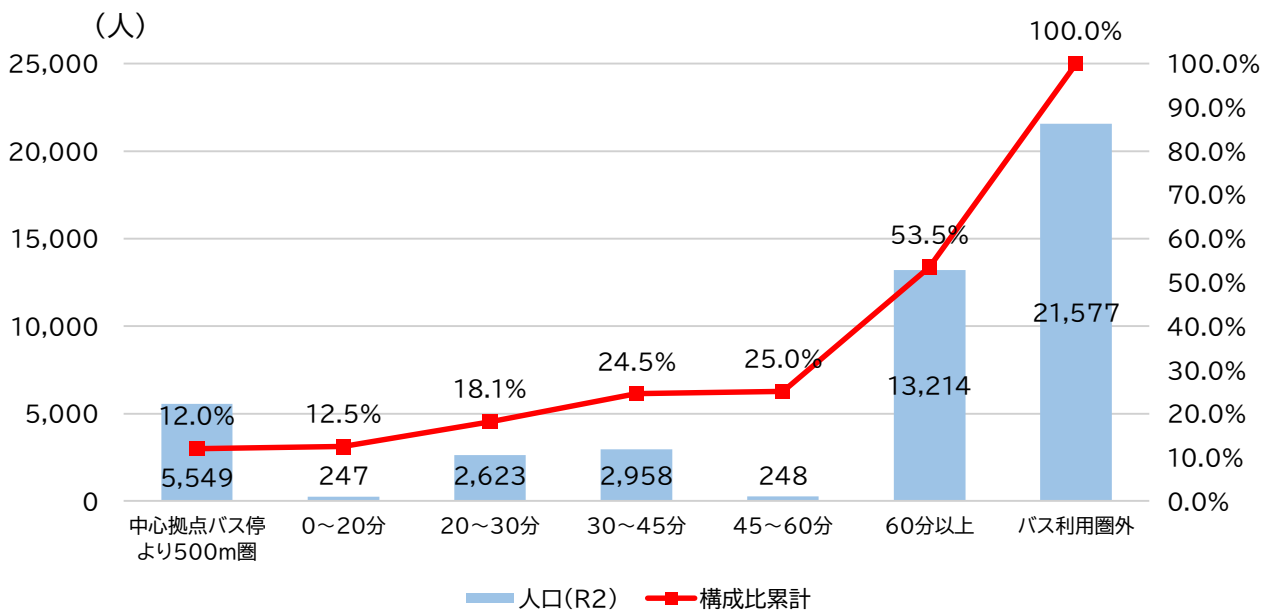


図 2-119 中心拠点までのバスによる到達時間別人口(令和 2 年)

表 2-25 中心拠点までのバスによる到達時間別人口(令和 2 年)

	中心拠点バス停より500m圏	中心拠点バス停まで					バス利用圏外	全市
		0~20分	20~30分	30~45分	45~60分	60分以上		
人口(R2)	5,549	247	2,623	2,958	248	13,214	21,577	46,416
構成比	12.0%	0.5%	5.7%	6.4%	0.5%	28.5%	46.5%	215.1%
構成比累計	12.0%	12.5%	18.1%	24.5%	25.0%	53.5%	100.0%	

資料: R2年 各交通事業者資料

#### ■算出方法

- ・中心拠点バス停の定義は、1日30本以上のバス停かつ DID 内のバス停と設定
- ・バス停より 500m 圏外はバス利用圏外と設定
- ・アクセシビリティ指標活用の手引きを参考に、10:00~16:00 の 360 分間の運行本数のみを考慮
- ・上記以外の時間のみの路線沿線はバス利用圏外とした
- ・待ち時間期待値は、360 分/(運行本数/2)/2 の値とした
- ・徒歩は分速 50m とした
- ・中心部までのバス運行時間(走行時間)はバス時刻表による

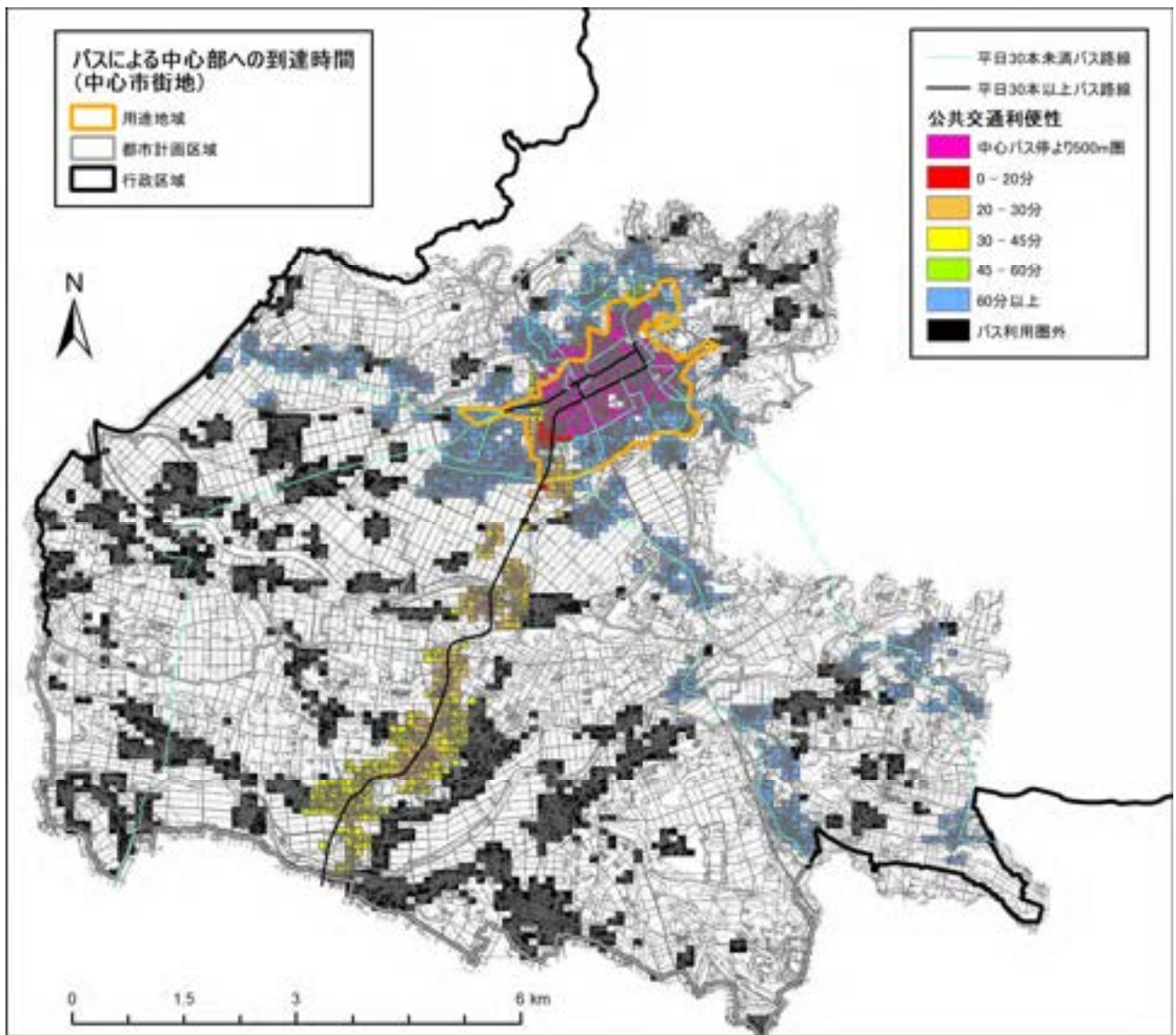


図 2-120 バスによる中心部への到達時間(令和 2 年)

資料:R2年 各交通事業者資料

### (3) 年齢別将来人口分布

#### 1) 市役所・支所 1 km圏

##### ① 主要拠点 1 km圏の年齢別人口構成比の特徴

主要拠点 1km 圏の年齢別人口を令和 2 年（2020 年）と令和 32 年（2050 年）で比較してみると、令和 2 年（2020 年）時点では菊池市役所 1 km圏において 15～64 歳人口が 4,152 人と最も多くなっています。

令和 32 年（2050 年）には、15～64 歳人口が 2,611 人まで減少することが予想されています。一方で、65 歳以上人口も減少すると予想されているものの、15～64 歳人口の減少幅が大きいため、65 歳以上人口の割合は令和 32 年（2050 年）には、42%まで増加することになります。

他の圏域でも人口の減少と高齢化率の増加が見込まれます。

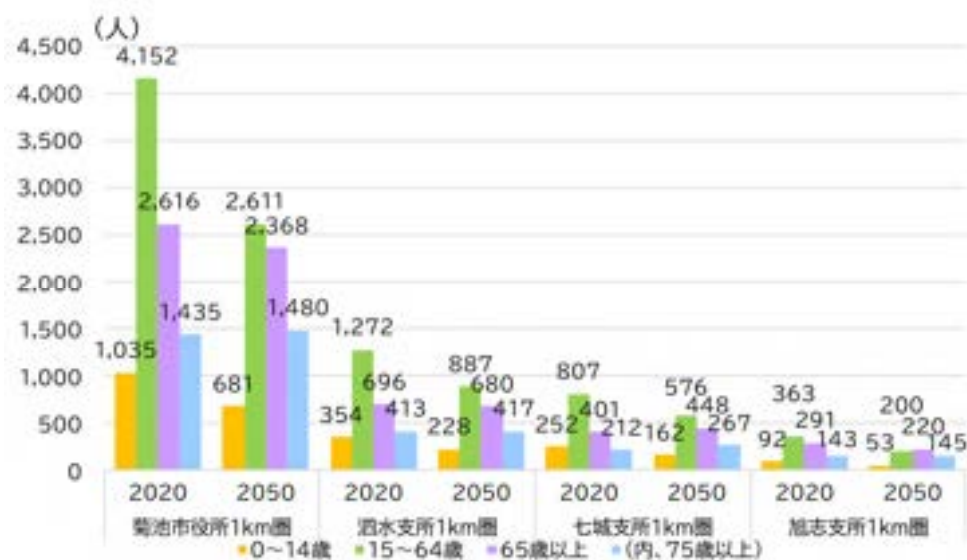


図 2-121 主要拠点の年齢別人口の比較(令和 2 年～令和 32 年)



図 2-122 主要拠点の年齢別人口構成比の比較(令和 2 年～令和 32 年)

資料: R2年 国勢調査、R32年 国立社会保障・人口問題研究所

## ②主要拠点 1 km圏の年齢別人口増減の特徴

主要拠点 1km 圏の年齢別人口増減では、全ての拠点において 0～14 歳、15～64 歳の減少が見込まれています。

七城支所 1km 圏では 65 歳以上人口の増加が見込まれていますが、その他の拠点においては、65 歳以上人口も減少する傾向にあります。



図 2-123 主要拠点別人口増加率(令和 2 年～令和 32 年)

資料:R2年 国勢調査、R32年 国立社会保障・人口問題研究所

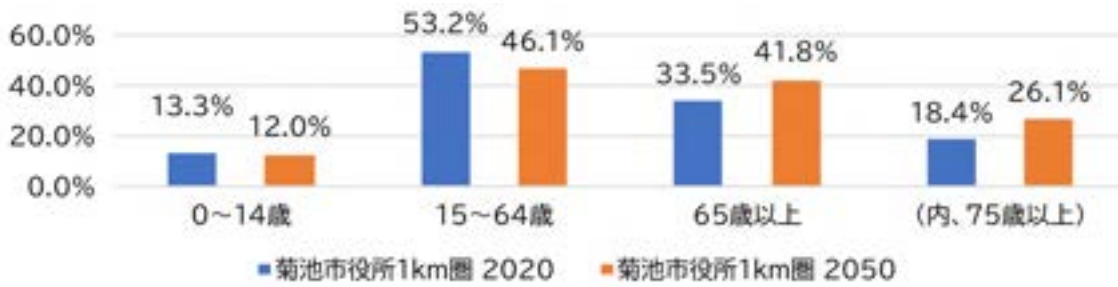


図 2-124 菊池市役所 1km 圏の年齢別人口構成比(令和 2 年～令和 32 年)

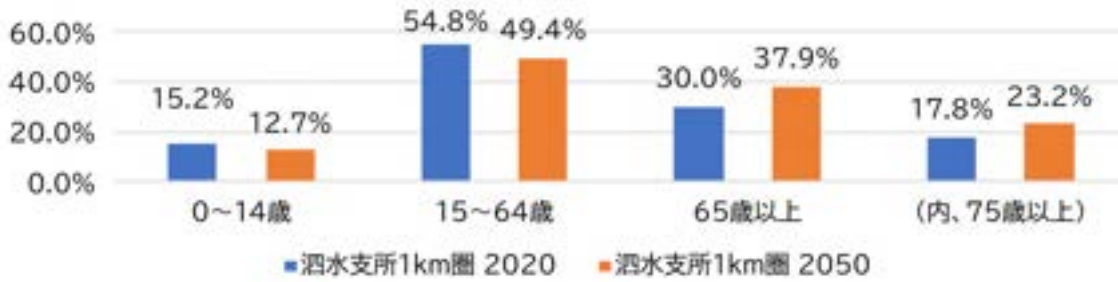


図 2-125 泗水支所 1km 圏の年齢別人口構成比(令和 2 年～令和 32 年)

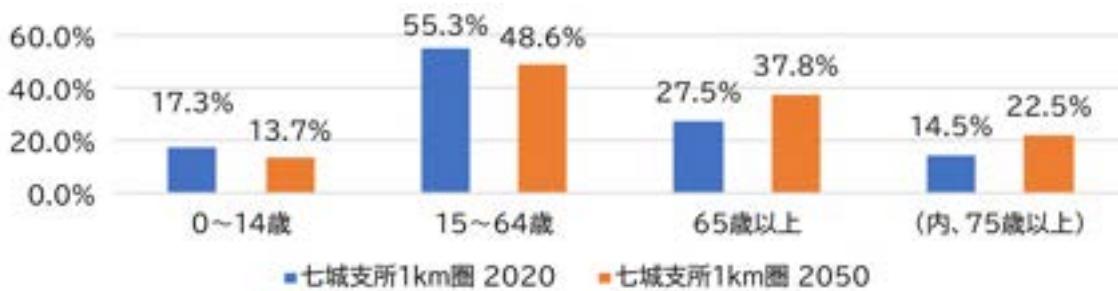


図 2-126 七城支所 1km 圏の年齢別人口構成比(令和 2 年～令和 32 年)

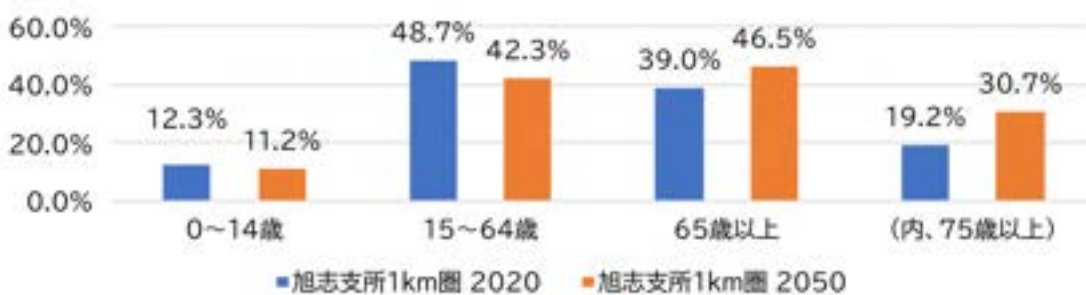


図 2-127 旭志支所 1km 圏の年齢別人口構成比(令和 2 年～令和 32 年)



図 2-128 市役所・支所 1km 圏外の年齢別人口構成比(令和 2 年～令和 32 年)

資料:R2年 国勢調査、R32年 国立社会保障・人口問題研究所

## 2)バス停 300m圏

### ①バス停 300m圏の年齢別人口構成比の特徴

バス停 300m 圏の年齢別人口をみると令和 2 年 (2020 年) から令和 32 年 (2050 年) にかけて多くの年齢層で減少することが予測されています。

75 歳以上の後期高齢者は増加すると予測されています。

バス停 300m 圏内と圏外の人口を比較すると、バス停 300m 圏外は圏内に比べて人口が多くなっています。

構成比については、圏内外とも少子高齢化が進む予測となっていますが、バス停 300m 圏外については、よりその傾向が強くみられます。

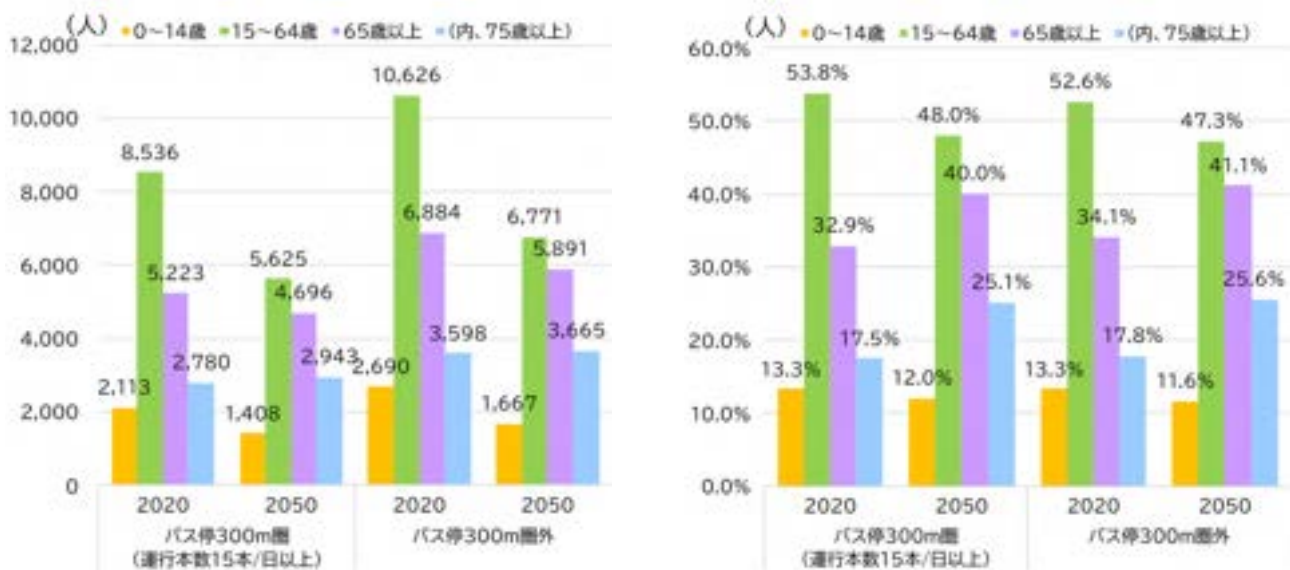


図 2-129 バス停 300 圏外の年齢別人口・構成比の比較(令和 2 年～令和 32 年)

資料:R2年 国勢調査、R32年 国立社会保障・人口問題研究所

## ②バス停 300m圏の年齢別人口増減の特徴

令和2年（2020年）から令和32年（2050年）にかけてバス停300m圏の年齢別人口増減をみると75歳以上の人口を除き全て減少すると予測されています。特に0～14歳、15～64歳の年代は減少率が大きく、バス停300m圏外になるとさらに減少率が高くなる傾向にあります。

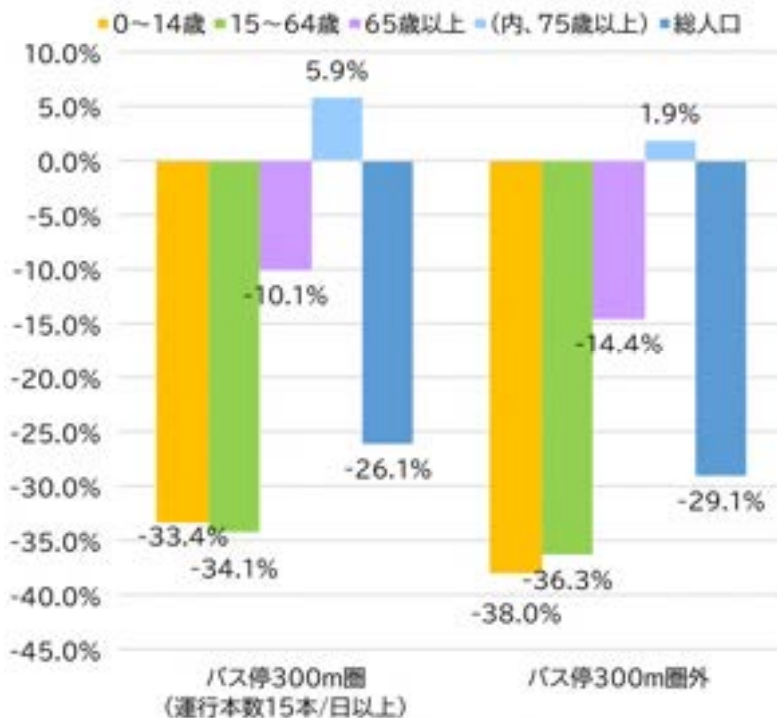


図 2-130 主要拠点別人口増加率(令和2年～令和32年)

資料:R2年 国勢調査、R32年 国立社会保障・人口問題研究所

圏域別にみると、多くの圏域で 65 歳以上の人口を含めた年齢層が減少すると予測されている中、七城支所 1km 圏では 65 歳以上、中でも 75 歳以上の人口が 26%増加すると予測されています。

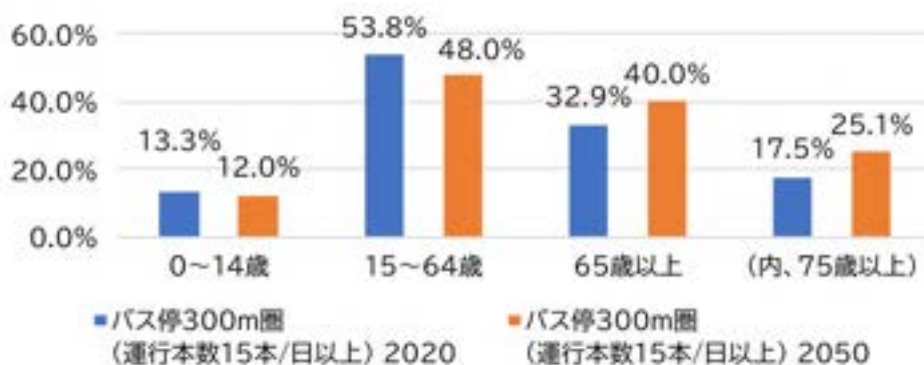


図 2-131 バス停 300m 圏の年齢別人口構成比(令和 2 年～令和 32 年)

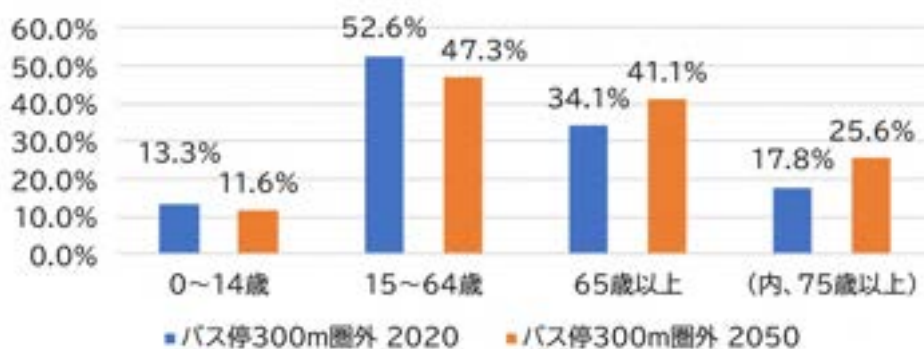


図 2-132 バス停 300m 圏外年齢の別人口構成比(令和 2 年～令和 32 年)

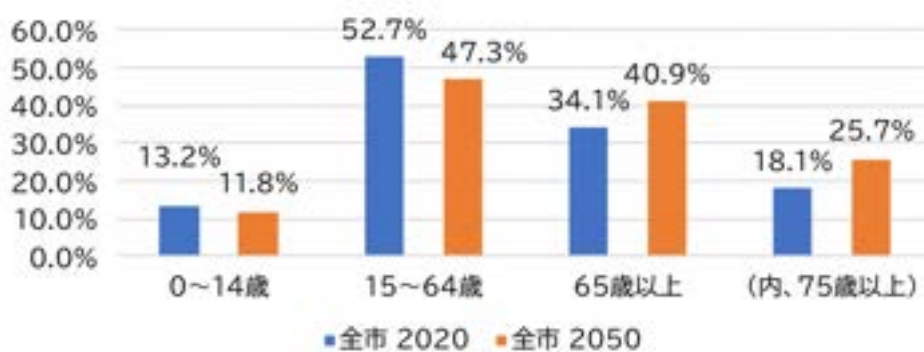


図 2-133 全市の年齢別人口構成比(令和 2 年～令和 32 年)

資料:R2年 国勢調査、R32年 国立社会保障・人口問題研究所

表 2-26 バス停 300m 圏、主要拠点 1km 圏の年齢別人口の比較(令和 2 年、令和 32 年)

実数(人)		0~14歳	15~64歳	65歳以上	(内、75歳以上)	総人口	全市割合
バス停300m圏 (運行本数15本/日以上)	2020	2,113	8,536	5,223	2,780	15,872	34.2%
	2050	1,408	5,625	4,696	2,943	11,729	35.7%
バス停300m圏外	2020	2,690	10,626	6,884	3,598	20,200	43.5%
	2050	1,667	6,771	5,891	3,665	14,329	43.6%
菊池市役所1km圏	2020	1,035	4,152	2,616	1,435	7,803	16.8%
	2050	681	2,611	2,368	1,480	5,660	17.2%
泗水支所1km圏	2020	354	1,272	696	413	2,322	5.0%
	2050	228	887	680	417	1,795	5.5%
七城支所1km圏	2020	252	807	401	212	1,460	3.1%
	2050	162	576	448	267	1,186	3.6%
旭志支所1km圏	2020	92	363	291	143	746	1.6%
	2050	53	200	220	145	473	1.4%
市役所・支所1km圏外	2020	4,376	17,880	11,829	6,179	34,085	73.4%
	2050	2,742	11,293	9,745	6,140	23,780	72.3%
全市	2020	6,109	24,474	15,833	8,382	46,416	100.0%
	2050	3,866	15,567	13,461	8,449	32,894	100.0%

表 2-27 バス停 300m 圏、主要拠点 1km 圏の年齢別人口構成比の比較(令和 2 年、令和 32 年)

構成比(人)		0~14歳	15~64歳	65歳以上	(内、75歳以上)	総人口
バス停300m圏 (運行本数15本/日以上)	2020	13.3%	53.8%	32.9%	17.5%	100.0%
	2050	12.0%	48.0%	40.0%	25.1%	100.0%
バス停300m圏外	2020	13.3%	52.6%	34.1%	17.8%	100.0%
	2050	11.6%	47.3%	41.1%	25.6%	100.0%
菊池市役所1km圏	2020	13.3%	53.2%	33.5%	18.4%	100.0%
	2050	12.0%	46.1%	41.8%	26.1%	100.0%
泗水支所1km圏	2020	15.2%	54.8%	30.0%	17.8%	100.0%
	2050	12.7%	49.4%	37.9%	23.2%	100.0%
七城支所1km圏	2020	17.3%	55.3%	27.5%	14.5%	100.0%
	2050	13.7%	48.6%	37.8%	22.5%	100.0%
旭志支所1km圏	2020	12.3%	48.7%	39.0%	19.2%	100.0%
	2050	11.2%	42.3%	46.5%	30.7%	100.0%
市役所・支所1km圏外	2020	12.8%	52.5%	34.7%	18.1%	100.0%
	2050	11.5%	47.5%	41.0%	25.8%	100.0%
全市	2020	13.2%	52.7%	34.1%	18.1%	100.0%
	2050	11.8%	47.3%	40.9%	25.7%	100.0%

資料：R2年 国勢調査、R32年 国立社会保障・人口問題研究所

表 2-28 バス停 300m 圏、主要拠点 1km 圏の人口増加率の比較(令和 2 年～令和 32 年)

構成比(人)		0～14歳	15～64歳	65歳以上	(内、75歳以上)	総人口
バス停300m圏 (運行本数15本/日以上)	2050/2020	-33.4%	-34.1%	-10.1%	5.9%	-26.1%
バス停300m圏外	2050/2020	-38.0%	-36.3%	-14.4%	1.9%	-29.1%
菊池市役所1km圏	2050/2020	-34.2%	-37.1%	-9.5%	3.1%	-27.5%
泗水支所1km圏	2050/2020	-35.6%	-30.3%	-2.3%	1.0%	-22.7%
七城支所1km圏	2050/2020	-35.7%	-28.6%	11.7%	25.9%	-18.8%
旭志支所1km圏	2050/2020	-42.4%	-44.9%	-24.4%	1.4%	-36.6%
市役所・支所1km圏外	2050/2020	-37.3%	-36.8%	-17.6%	-0.6%	-30.2%
全市	2050/2020	-36.7%	-36.4%	-15.0%	0.8%	-29.1%

資料:R2年 国勢調査、R32年 国立社会保障・人口問題研究所

### 3)メッシュ別将来人口分布

100mメッシュの年齢別人口の将来予測について、現状と比較しながら、その特徴を整理すると、以下のとおりです。

#### ①人口(全年齢)

令和32年(2050年)の人口は現状より減少する傾向がみられます。

令和2年(2020年)は菊池中心市街地周辺や、泗水地区に人口40人/ha以上のメッシュが集中していますが、令和32年(2050年)では減少しており、特に菊池中心市街地周辺の人口減少が大きくなると予測されます。

#### ②0~14歳人口

令和32年(2050年)の年少人口はほとんどのメッシュで10人/ha未満となっており、1人/ha未満のメッシュが多くみられます。

令和2年(2020年)は菊池中心市街地周辺、泗水地区、七城地区に10人/ha以上のメッシュがみられますが、令和32年(2050年)では菊池中心市街地周辺、泗水地区の一部の地区に限定されることが予測されます。

#### ③15~64歳人口

令和32年(2050年)の生産年齢人口はほとんどのメッシュで20人/ha未満となっており、5人/ha未満のメッシュが多くみられます。

令和2年(2020年)は菊池中心市街地周辺、泗水地区の一部に40人/ha以上のメッシュがみられますが、令和32年(2050年)では泗水地区の一部に40人/ha以上のメッシュがみられるほかは、40人/ha未満になることが予測されます。

#### ④65歳以上人口

令和32年(2050年)の老年人口は中心部では増加、それ以外では横ばいか減少する傾向がみられません。

令和2年(2020年)は5人/ha以上のメッシュが広くみられ、特に菊池中心市街地周辺、泗水地区では15人/ha以上のメッシュもみられますが、2050年では中心部で15人/ha以上のメッシュが拡大する一方、西部や南東部では2.5人/ha未満のメッシュが拡大しており、減少することが予測されます。

#### ⑤75歳以上人口

令和32年(2050年)の75歳以上人口は現状より増加する傾向がみられます。

令和2年(2020年)は菊池中心市街地周辺、泗水地区に10人/ha以上のメッシュがみられますが、令和32年(2050年)では10人/ha以上のメッシュが拡大し、増加することが予測されます。

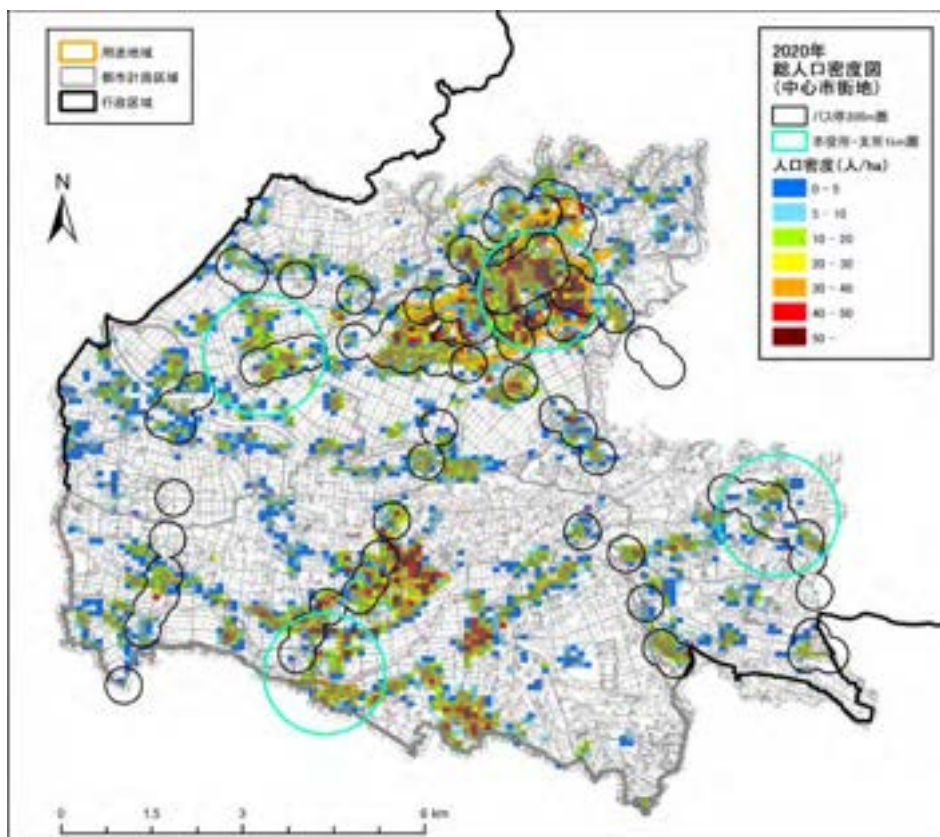


図 2-134 2020年総人口密度図(100mメッシュ)

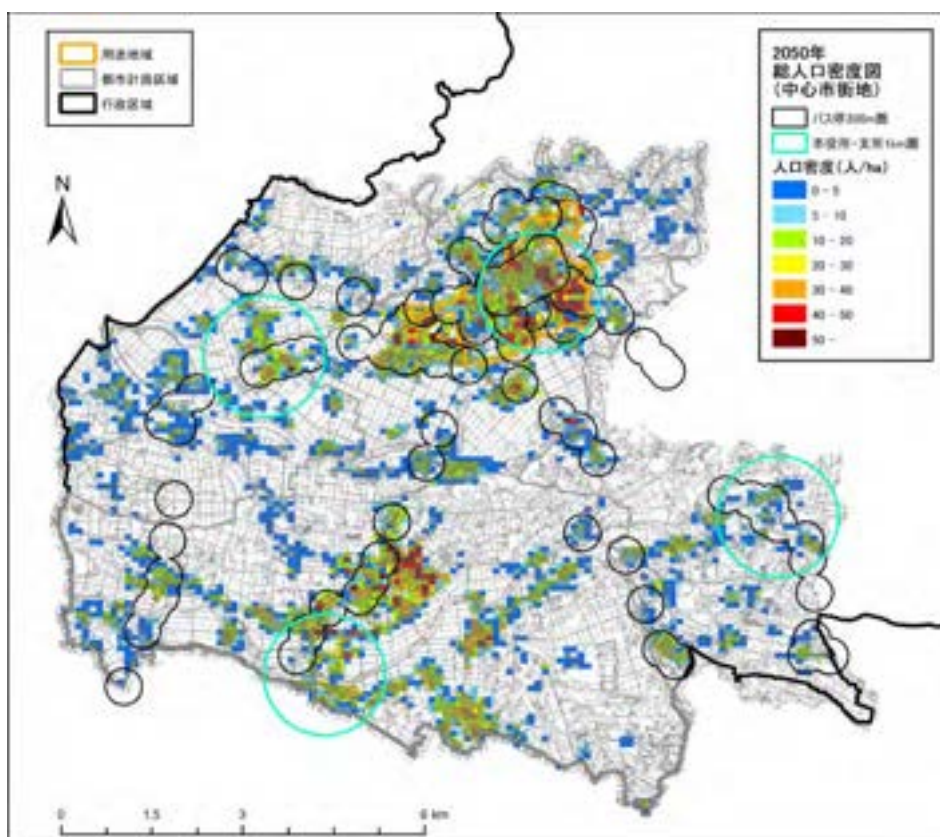


図 2-135 2050年 総人口密度図(100mメッシュ)

資料:R2年 国勢調査、R32年 国立社会保障・人口問題研究所

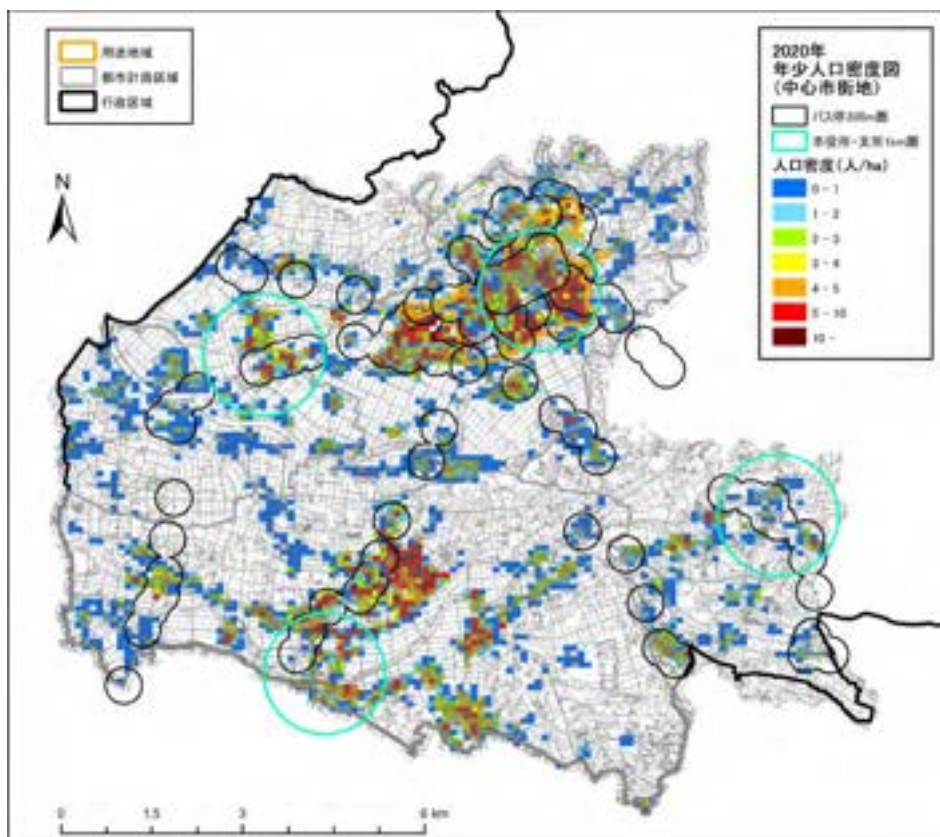


図 2-136 2020年 年少人口密度図(100mメッシュ)

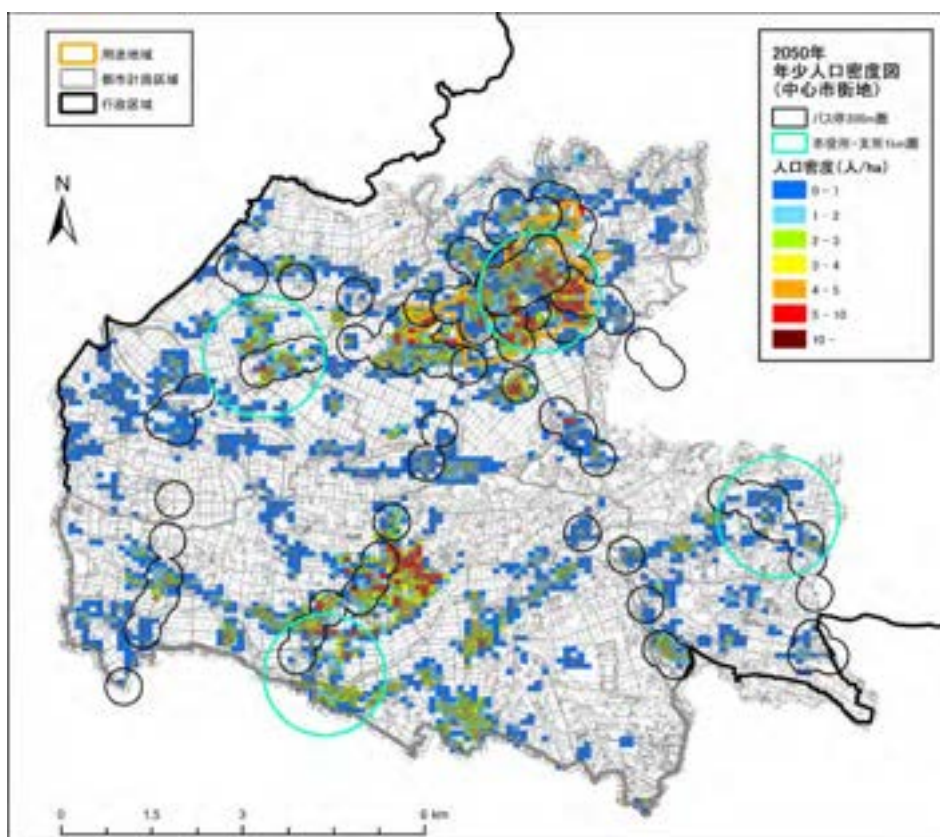


図 2-137 2050年 年少人口密度図(100mメッシュ)

資料:R2年 国勢調査、R32年 国立社会保障・人口問題研究所

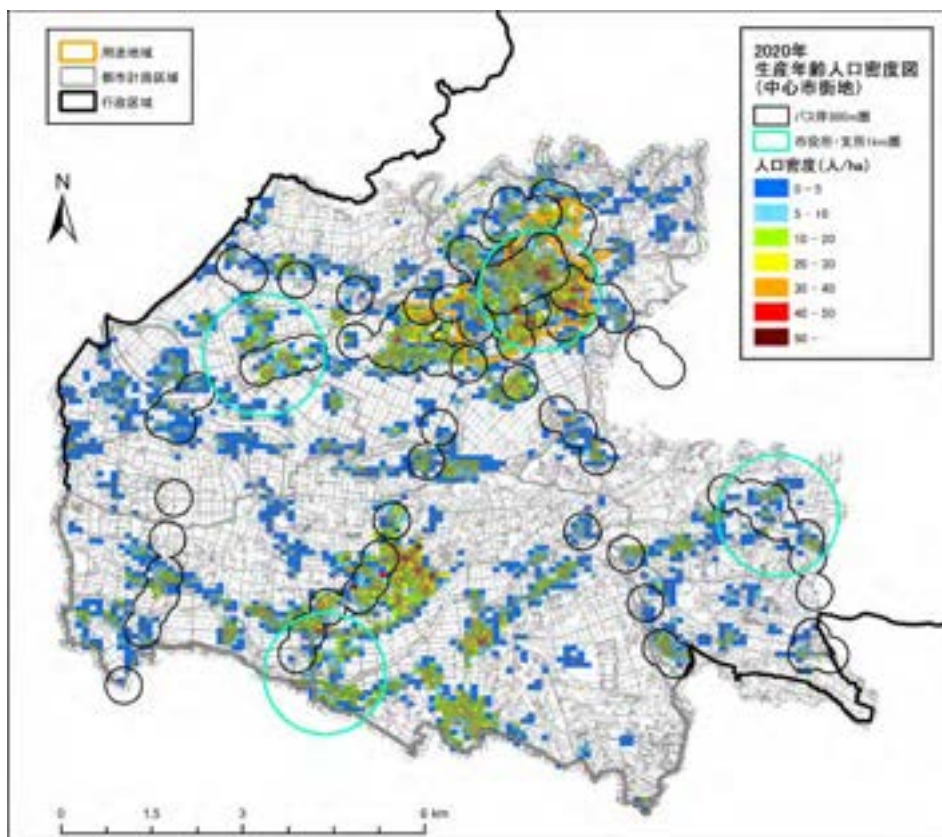


図 2-138 2020年生産年齢人口密度図(100mメッシュ)

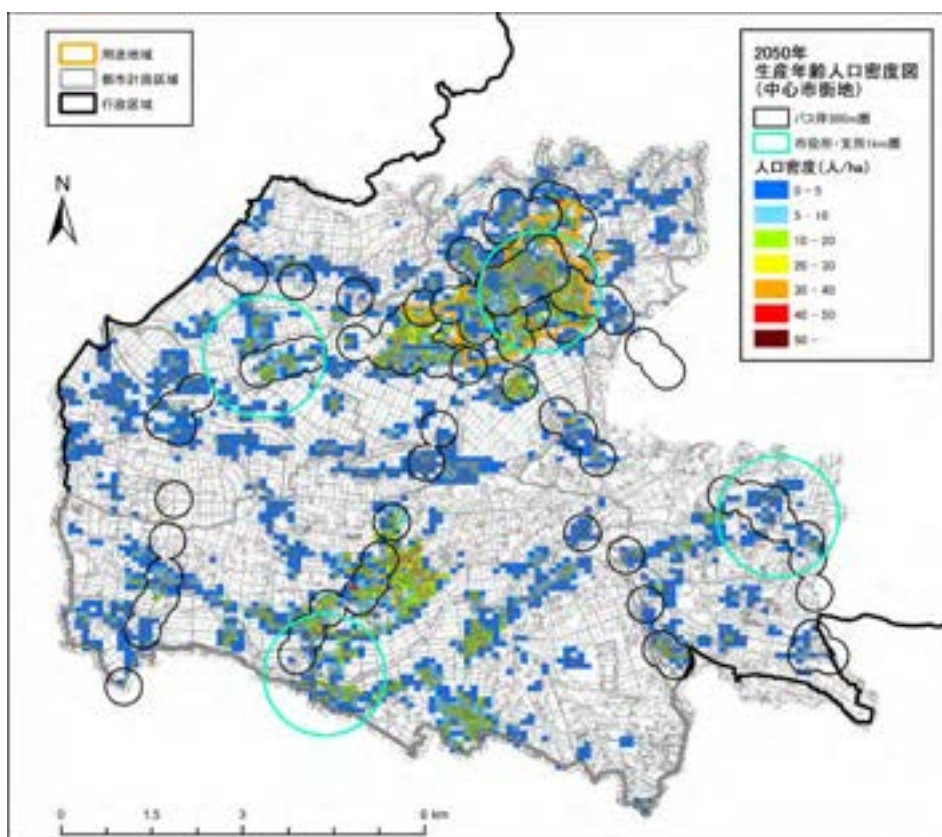


図 2-139 2050年 生産年齢人口密度図(100mメッシュ)

資料:R2年 国勢調査、R32年 国立社会保障・人口問題研究所

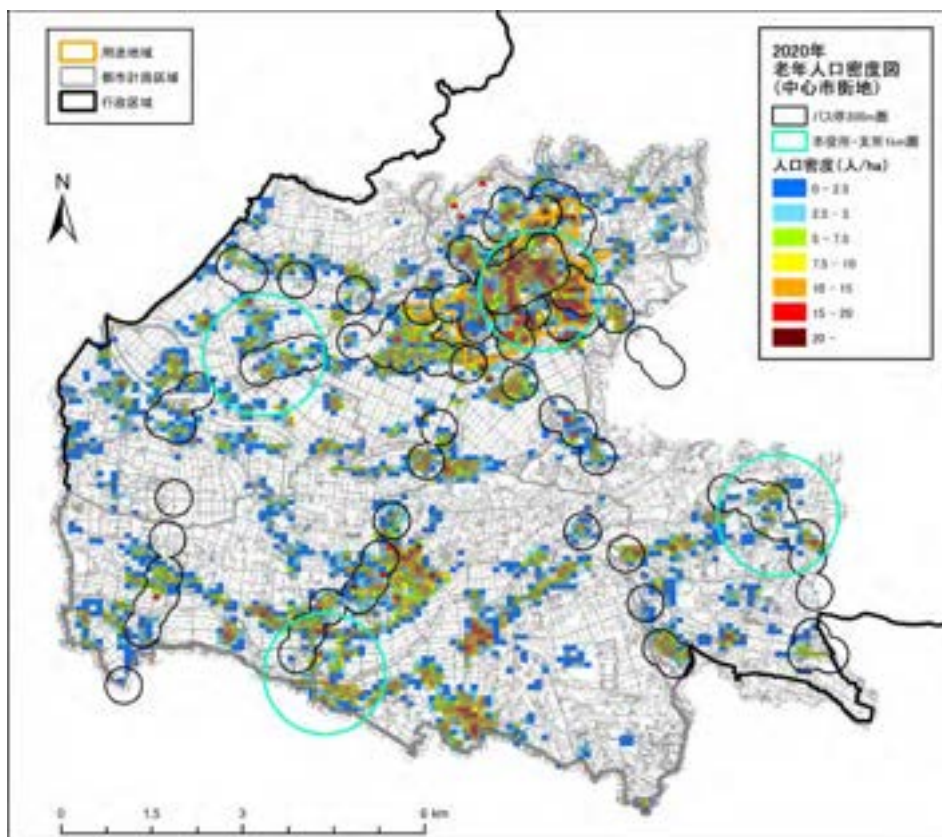


図 2-140 2020年 老年人口密度図(100mメッシュ)

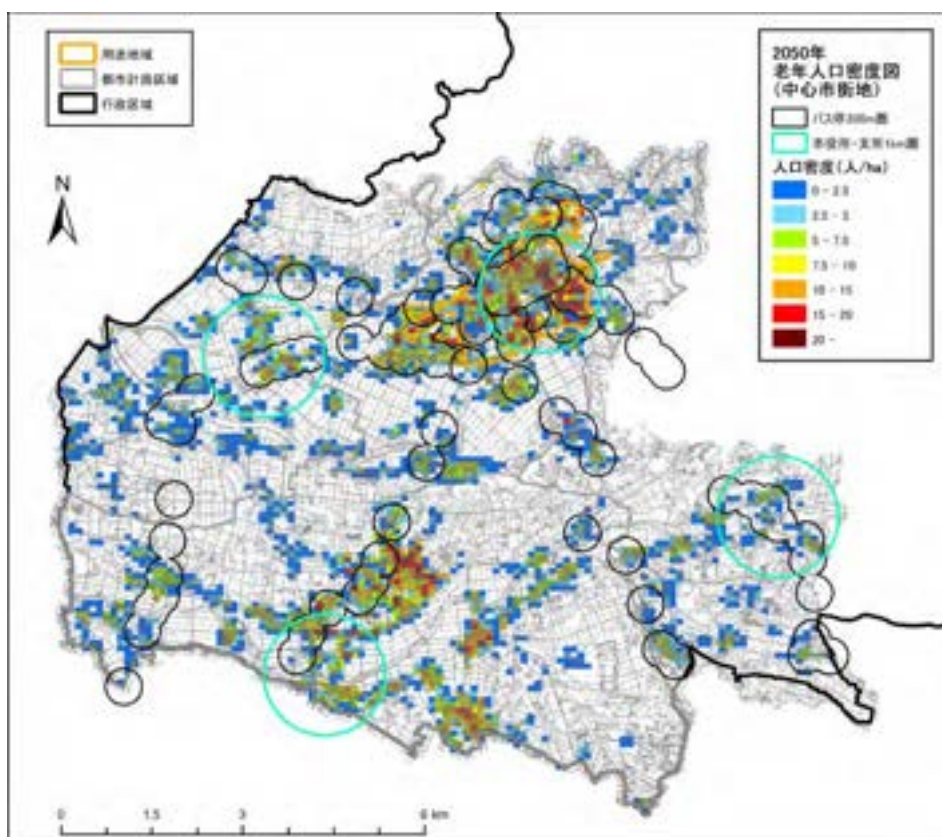


図 2-141 2050年 老年人口密度図(100mメッシュ)

資料:R2年 国勢調査、R32年 国立社会保障・人口問題研究所

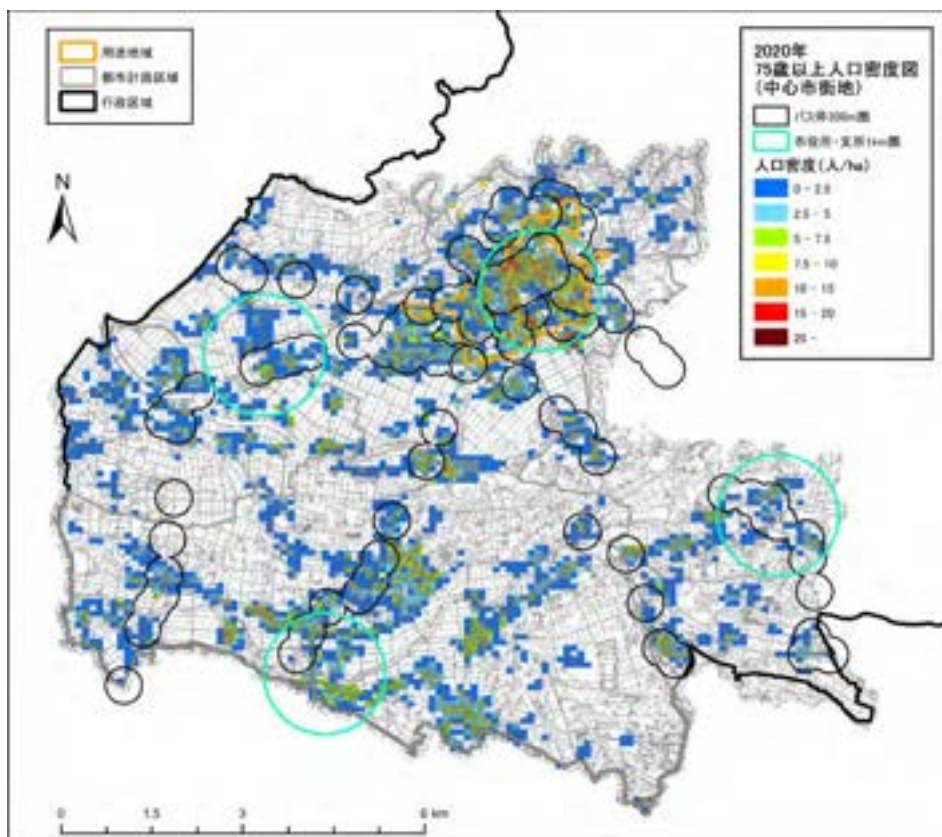


図 2-142 2020年 75 歳以上人口密度図(100mメッシュ)

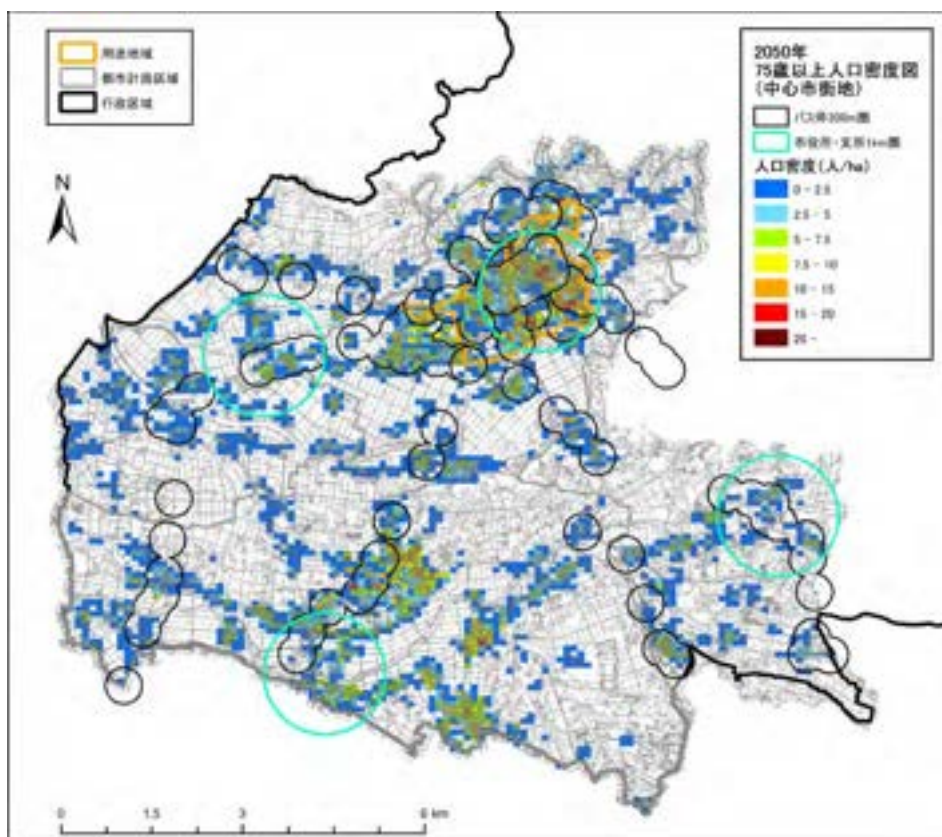


図 2-143 2050年 75 歳以上人口密度図(100mメッシュ)

資料:R2年 国勢調査、R32年 国立社会保障・人口問題研究所

## 2-5 上位計画、関連計画

### (1) 上位計画等

#### 1) 第3次菊池市総合計画(令和8年(2026年)4月)

「第3次菊池市総合計画」は、本市の最上位の計画であり、まちづくりを進めていく上での指針となる考え方を示した計画です。本市の将来像を「人と自然が調和し 希望と活力に満ちた『癒しの里』きくち」としています。

また、まちづくりのための3つの柱として、「人 市民協働と人財育成」、「自然 自然環境の保全と再生」、「経済 地域資源を生かした経済活性化」を掲げています。

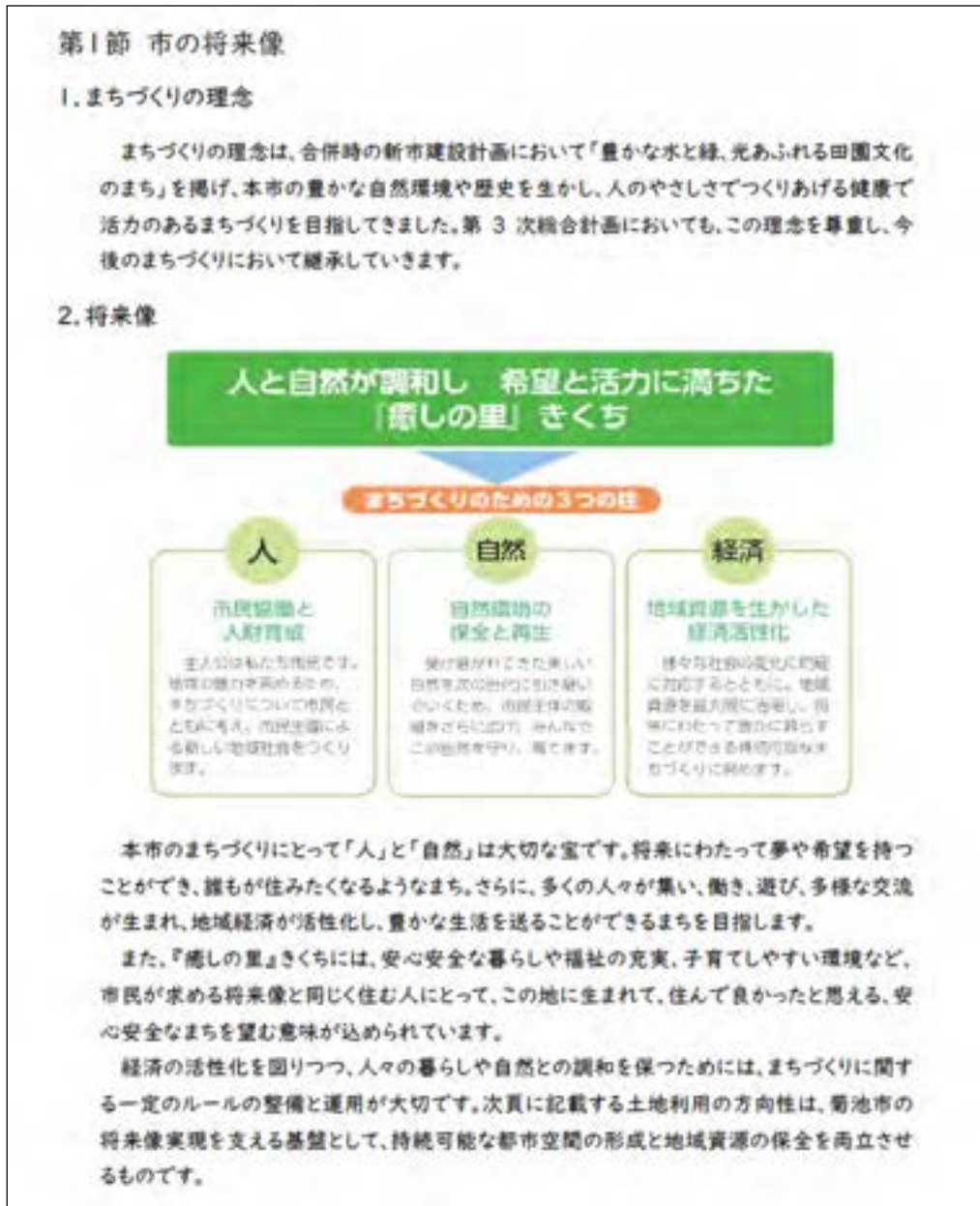


図 2-144 第3次菊池市総合計画 市の将来像

資料:R8年 第3次菊池市総合計画 p.28

「土地利用の考え方」は、以下のとおり本市を4つのゾーニングに区分しています。

山間部においては、自然環境保全ゾーンとして設定されており、自然環境を保全しつつ、市民や来訪者が身近に自然と触れ合えるように活用を図ると掲げています。

また、平野部においては、農業振興ゾーンが設定されており、市街地促進ゾーン及び工業促進ゾーンが拠点として設定されています。市街地促進ゾーンでは、安心して暮らせる、交流と賑わいを生むコンパクトで良好な市街地の形成を図ると掲げており、農業振興ゾーンでは、農地と住宅地が調和した基盤整備を推進するとしています。

**第2節 土地利用の方向性**

**1. 背景及び目的**

市域全体の均衡ある発展と総合的かつ計画的な土地利用を推進するにあたっては、自然環境の保全と都市環境の調和を図るとともに、地域の社会的、経済的、歴史的、文化的な諸条件に配慮する必要があります。さらに、国道等の主要幹線を最大限に生かした企業集積や住宅需要、優良農地の確保など、長期的な展望のもとに土地利用を図っていくこと求められます。

**2. 土地利用の考え方**

現況の土地利用状況、地域特性を踏まえて、以下のように土地利用をゾーン分けすることで、本市の均衡ある持続的発展と一体性の確保を図ります。

なお、土地利用に関する具体的施策等については、総合計画における位置づけを踏まえ、関連計画等において策定します。

**■自然環境保全ゾーン**

菊池溪谷に代表される阿蘇くじゅう国立公園など豊かな自然環境を有する地域については、美しい景観とともに水源かん養、生態系の維持などの機能を有することから、自然環境の保全に努めます。

また、市民や来訪者が身近に自然と触れあえる場として、自然環境の保全に十分配慮しつつ積極的な活用を図ります。

**■農業振興ゾーン**

本市の基幹産業である農業を支えるため、優良農地の保全や営農環境を維持し、農地と住宅地が調和した基盤整備を進めます。

**■市街地促進ゾーン**

個性ある商業機能や新たな都市機能集積を促進するとともに、居住環境の改善やコミュニティーの強化を推進します。また、多様な人々がそれぞれの地域特性を生かし、安心して暮らせる、交流と賑わいを生む良好な市街地の形成を図ります。

**■工業集積ゾーン**

用途地域として指定されたまとまりのある工業地のほか、国道沿いに整備された工業団地など、周辺の環境と調和した生産性の高い工業地の集積を促進します。

**<土地利用イメージ図>**




図 2-145 第3次菊池市総合計画 土地利用の方向性

資料:R8年 第3次菊池市総合計画 p.29

総合計画の計画期間10年の後期基本計画の体系は、以下のとおりです。「産業と経済」、「子育てと健康福祉」、「自然環境と暮らしの基盤」、「教育と文化」、「市政運営」の5つの政策分野により体系づけられています。



図 2-146 第3次菊池市総合計画 前期基本計画の体系図

資料:R8年 第3次菊池市総合計画 p.31

## 2) 菊池都市計画区域マスタープラン(令和8年(2026年)3月 熊本県)

「菊池都市計画区域マスタープラン」は、都市計画区域ごとに概ね 20 年の中長期的な視点で都市の将来像を明確にするとともにその実現に向けての大きな道筋を明らかにする都市計画の基本的な方向性を示すもので、熊本県が定めるものです。この計画では、4 つの都市づくりの基本目標を定めるとともに、都市拠点として、菊池中心市街地を位置づけており、地域拠点として泗水支所周辺と国道 325 号の道の駅旭志周辺を位置づけています。

### 【将来像】

人と自然が調和し 希望と活力に満ちた 『癒しの里』 きくち

### 【都市づくりの基本目標】

- 『持続可能な成長を実現するエコ・コンパクトな都市づくり』
- 『誰もが安全・安心に暮らし続けられる包摂的な都市づくり』
- 『基盤産業と企業集積を活かした活力ある都市づくり』
- 『多様な主体が連携し、共に未来を描く共創のまちづくり』

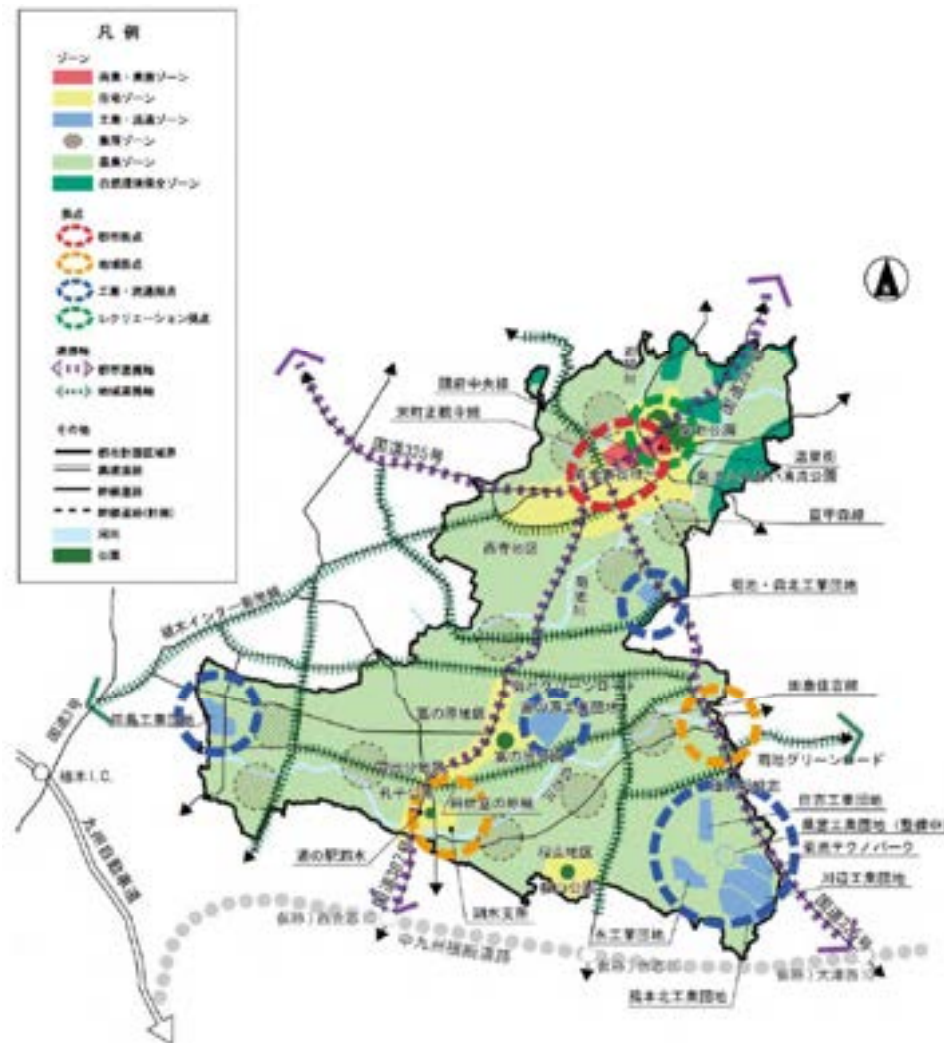


図 2-147 将来都市構想図

資料:R8年 菊池都市計画区域マスタープラン

### 3) 菊池市都市計画マスタープラン(令和8年(2026年)3月)

「菊池市都市計画マスタープラン」は、本市の都市計画の方針を定めた計画であり、本計画はその一部として機能するものです。総合計画で定めた「人と自然が調和し 希望と活力に満ちた『癒しの里』きくち」を実現するために、以下のとおりまちづくりの方針を設定しています。

<b>基本方針1</b>	<b>人口減少や高齢化社会とともに歩む魅力的な地域づくり</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・人口減少・高齢化社会で生活サービスを維持するために、商業施設などの都市機能を既存市街地や地域の生活拠点に集約し、誰もが歩いて暮らしやすいウォークアブルなまちをめざします。</li><li>・歴史的なまちなみが残る隈府の中心市街地をはじめとして、各支所周辺において、多様な世代が交流できる環境を形成し、子育て世代から高齢者までが安心して住み続けられる環境を創出します。</li></ul>	
<b>基本方針2</b>	<b>市民・来訪者の移動利便性が確保された公共交通ネットワークの形成</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・市内各地域や観光地へのアクセス向上のため、路線バスに加え、高齢者や買い物弱者の移動を支える乗り合いタクシーなど、地域ニーズに合わせた多様な移動手段を提供します。</li><li>・主要なバス停や公共施設、観光地間で、徒歩や自転車の利用を促進する環境整備を進めます。</li><li>・誰もが公共交通を安全で快適に利用できるよう、乗降しやすい車両の導入や、分かりやすい情報提供、利用者のニーズをとらえたルートの見直しの促進に努めます。</li></ul>	
<b>基本方針3</b>	<b>地域と調和した農業・工業・商業の持続可能な発展</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・本市の豊かな田園風景を形成する優良農地を無秩序な開発から守り、持続可能な農業を保全します。</li><li>・本市南部の工業団地開発に連動した関連企業の誘致や既存企業との連携を強化し、市内での新たな雇用の創出と産業振興を図ります。</li><li>・中心市街地や主要沿道商業地域の特性を活かした土地利用を図ることで、将来にわたって市民の生活の質の維持・向上を図ります。</li></ul>	
<b>基本方針4</b>	<b>水や緑をはじめとした豊かな自然環境の維持・保全</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・日本名水百選に選ばれる菊池溪谷の水源や、市内の豊かな森林・農地を守り、生物多様性を育む環境を保全し、次世代へとつなぐ自然環境の維持に努めます。</li><li>・地域の特性を活かした再生可能エネルギーの導入を推進し、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを行い、地球温暖化対策に貢献するとともに、持続可能な地域社会の実現を図ります。</li></ul>	
<b>基本方針5</b>	<b>多様な人々が安心・安全に暮らせるまちづくり</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・地震や水害などの自然災害に強いまちづくりを進め、市民の命と財産を守るための防災機能を強化し、日頃から備えます。</li><li>・高齢者や障がい者、子育て世帯など、誰もが安全かつ快適に移動でき、生活できるバリアフリーな環境を整備します。</li><li>・街路灯の適切な設置や地域住民による防犯パトロールの推進など、安全性の高い環境を整備し、市民が安心・安全に暮らせるまちを目指します。</li></ul>	

図 2-148 まちづくりの基本方針

資料:R8年 菊池市都市計画マスタープラン p.44

また、将来都市構造として、国道を中心に中心市街地から四方に伸びる交通ネットワークを軸とした都市構造を目指しています。

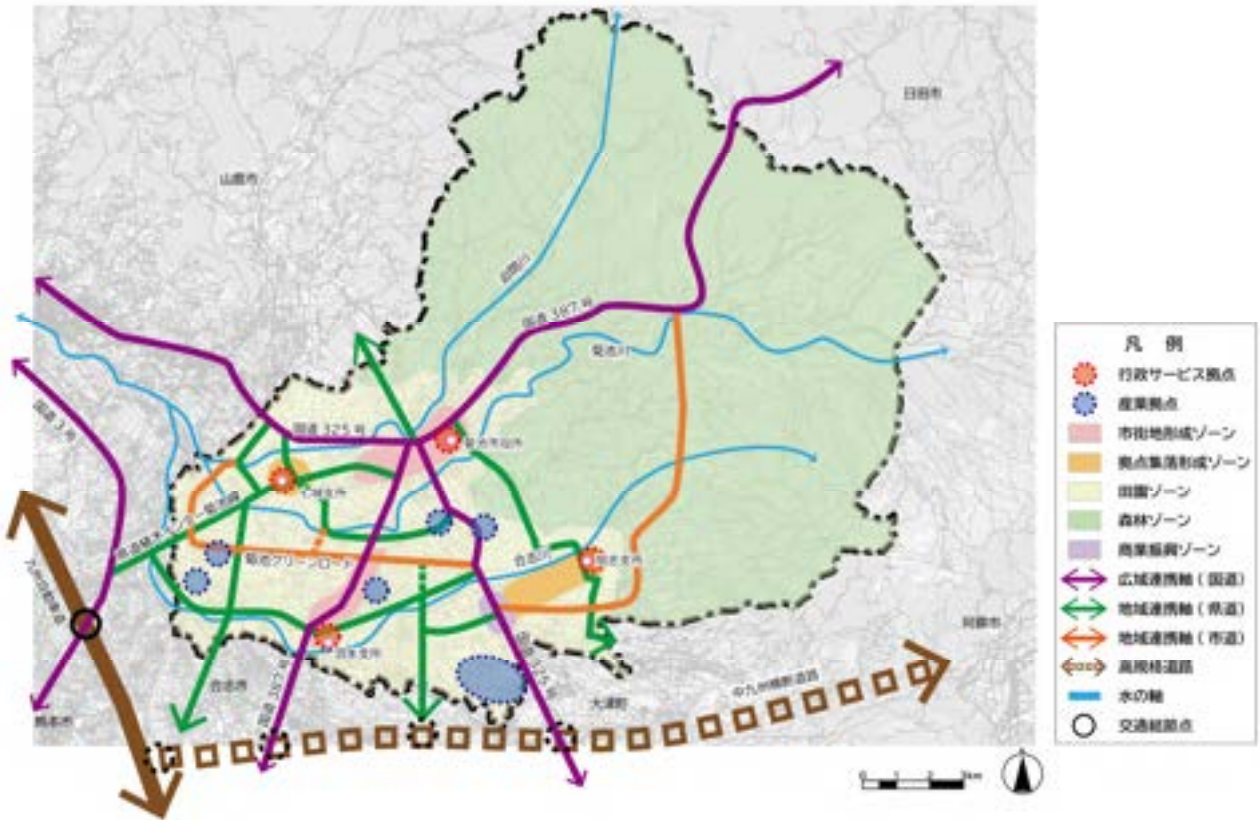


図 2-149 将来都市構造図

資料:R8 年 菊池市都市計画マスタープラン p.45



図 2-150 将来都市構造図の拡大図

資料:R8 年 菊池市都市計画マスタープラン p.46

## (2) 関連計画

### 1) 熊本都市圏都市交通マスタープラン(平成 28 年(2016 年)3 月 熊本県、熊本市)

#### ① 基本的考え方

熊本都市圏では、熊本市と周辺市町村、また近隣市町村の相互が補完・連携して、暮らしやすさと持続的な発展を確保する「多核連携型の都市構造」の実現に向けて取り組んでいます。

泗水地域は、熊本都市圏に含まれており、一体的な交通網の整備や交通結節点の充実が必要とされています。

具体的には下図に示すように中心市街地を結ぶ公共交通軸上に、地域核、生活拠点を位置づけ、ここを交通結節点として、支線バス網や自動車、自転車、タクシー等との乗換え利便性を高めていこうとするものです。

泗水支所周辺は、生活拠点として位置づけられ、国道 387 号を公共交通軸に、交通の結節点としての役割が期待されています。

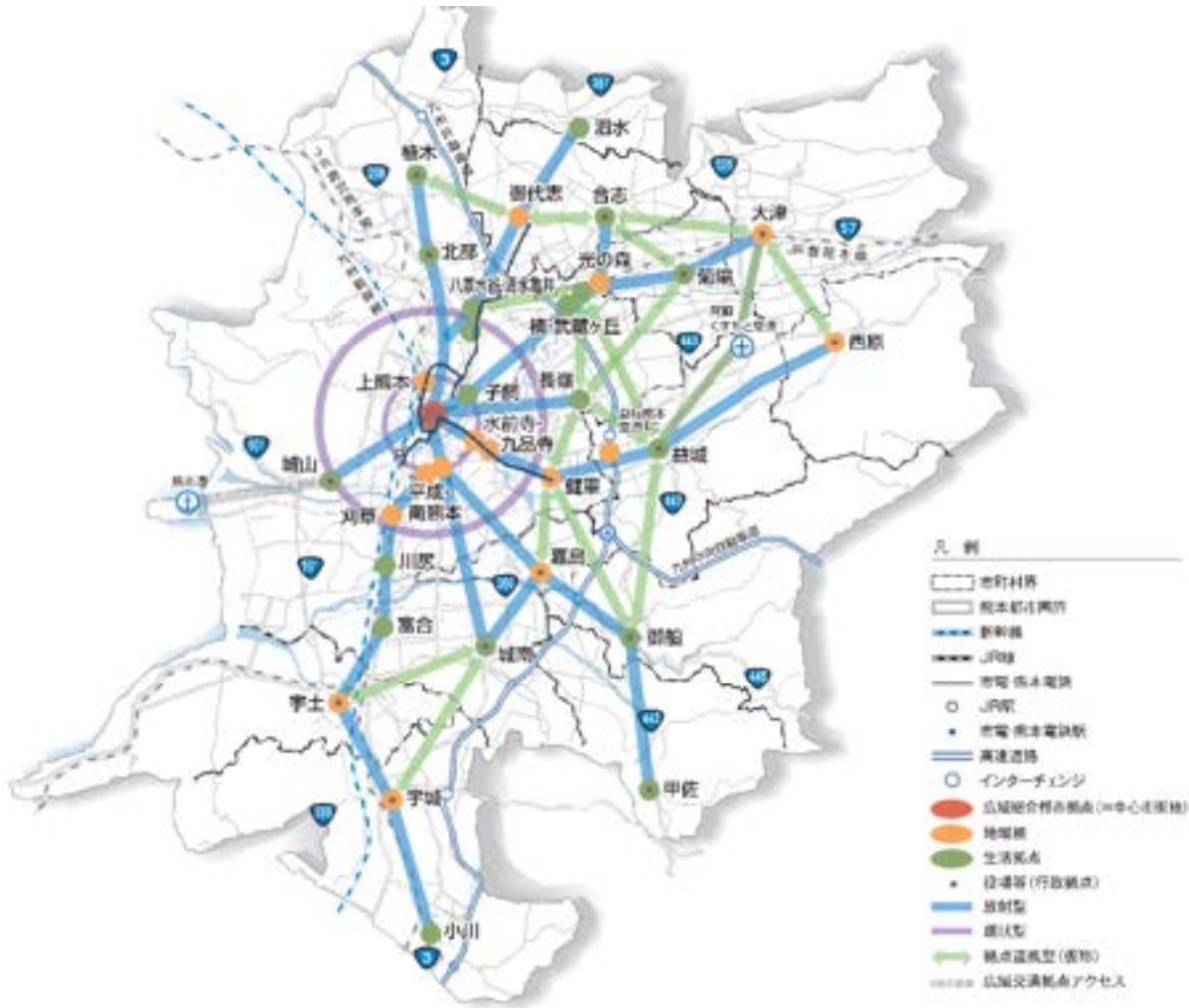


図 2-151 パーソントリップ調査結果に基づく熊本都市圏イメージ

資料:H28 熊本都市圏都市交通マスタープラン p.19

②生活拠点のイメージ

生活拠点は、日常生活に必要な商業施設や医療施設、コミュニティ施設などが集まっている地区で、泗水地域の場合、熊本電鉄の終着駅の御代志駅（合志市）を地域核とし、それから菊池方面の国道 387 号（支線バス）で本市の「入り口」にあたる生活拠点として位置づけられています。



図 2-152 熊本都市圏の多核連携イメージ

資料:H28 熊本都市圏都市交通マスタープラン pp.20-21



図 2-153 基幹となる公共交通ネットワーク

資料:H28 熊本都市圏都市交通マスタープラン p.22

2) 菊池市公共施設等総合管理計画(平成 29 年(2017 年)3 月策定 令和 4 年(2022 年)3 月更新 菊池市)

「菊池市公共施設等総合管理計画」は、本市のインフラを含む公共施設等に関する基本的な方針を定めた計画です。この計画によると、本市の公共施設は、農林業施設、学校、公営住宅の順に多くなっています。農林業施設が多いのは、市のリース事業として整備された、野菜・果物等栽培用の農業用ハウスが多いことが主な要因です。

公共施設で築 30 年以上経過したものが 40%を占め、公営住宅、学校などの教育施設の老朽化が進んでいます。今後 10 年間をみると、約 5 割強が築 30 年を超え、老朽化施設の増大が懸念されます。

公共施設の改修のほか、効率化が必要とされています。



図 2-154 大分類別の公共施設の延床面積の割合

資料:R4 菊池市公共施設等総合管理計画 p.22



図 2-155 公共施設の過去の整備量

資料:R4 菊池市公共施設等総合管理計画 p.22

### 3) 菊池市地域公共交通計画(令和7年(2025年)3月)

「菊池市地域公共交通計画」は、地域公共交通に関する基本的な方針や将来像、計画の目標や実施施策などを定めたものです。

基本理念では、基本的な方針を「公助と共助により持続的な移動環境をつくり、人と地域がうるおい・輝くまち、きくち」と設定し、地域間幹線、市街地交通、地域内交通、その他の補完的な交通の役割や確保・維持策を設定しています。

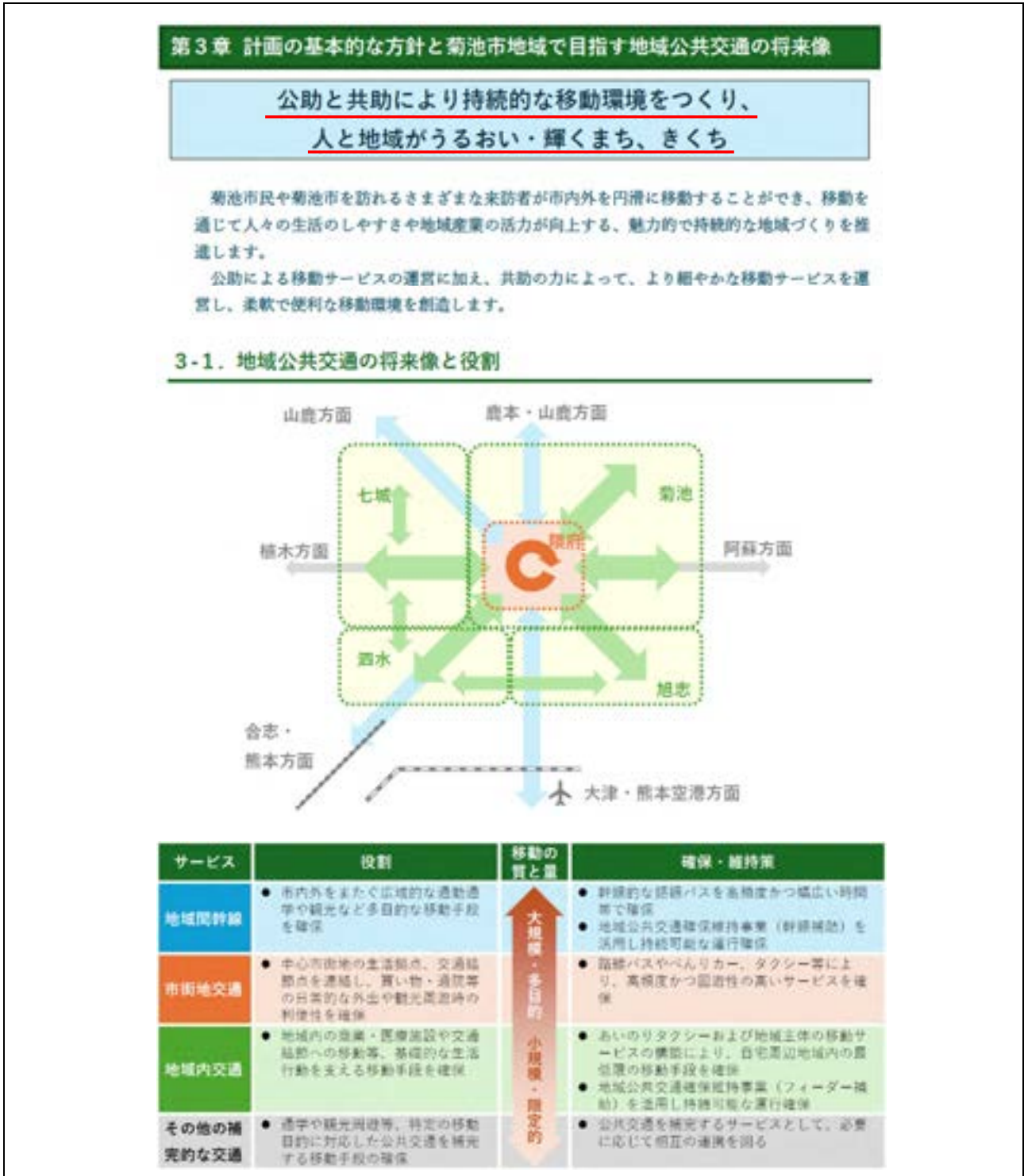


図 2-156 菊池市地域公共交通計画 計画の基本的な方針と菊池市地域で目指す地域公共交通の将来像  
資料:R7年 菊池市地域公共交通計画pp.19-20

3つの目標とその目標を達成するために実施する事業が掲げられています。その中で、目標1の「すこやかな生活を送れるまちに向け、地域内の移動を柔軟に支える」に対し、施策2の「地域内交通の利便性・運航効率性の向上」が挙げられています。

路線バス、コミュニティバス(きくちべんりカー)、予約制乗合いタクシー(きくちあいのりタクシー)の3種類の交通手段でサービスを行っていくものとしています。

特にあいのりタクシーについては、路線バスのサービスから外れる地域を中心に、市内全域でのサービスを行っていくものとしています。路線バスにおいては、乗客数の減少が続き、存続の危機にある路線が多くみられます。また、きくちべんりカー、きくちあいのりタクシーは、利用者が減少傾向にあり、財政負担も増加しつつあります。そのため、利用者の増加策を進めるとともに、主要バス路線沿線への居住や人が集まる施設の立地誘導を図る必要があります。

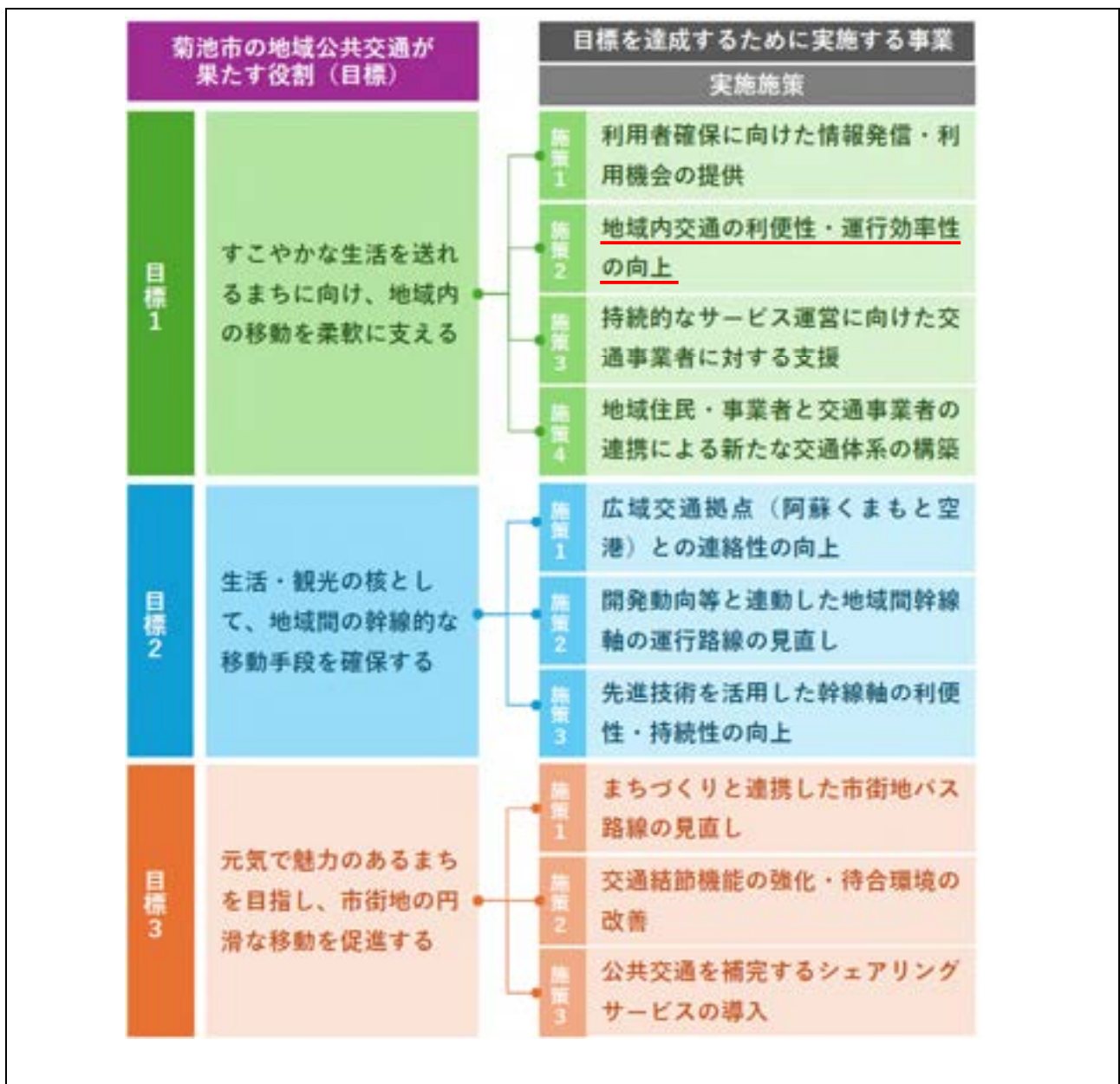


図 2-157 菊池市地域公共交通計画

菊池市の地域公共交通が果たす役割(目標)と目標を達成するために実施する事業

資料:R7年 菊池市地域公共交通計画p.25

## 2-6 菊池市の都市構造上の課題

### (1) 同規模都市との比較による都市構造の評価

#### 1) 評価方法

本市の現況の都市構造の評価について、類似規模都市平均と比較することで、客観的、定量的な把握を行います。

「都市構造の評価に関するハンドブック（平成26年（2014年）8月：国土交通省）」に基づき、主な評価指標の例をもとに、地方都市圏の10万以下都市と比較します。なお、10万以下都市の集計がない指標は、概ね30万都市のデータを活用します。

また、熊本県内の市町村のうち、本市と人口が同規模である荒尾市、山鹿市、菊陽町とも比較し、評価します。

#### 2) 結果の概要

##### ①生活利便性

- ・日常生活サービスの徒歩圏充足率が類似規模都市平均と比較すると高くなっていますが、県内同規模人口都市と比較して低い状況にあります。
- ・他の項目については、類似規模都市平均と同等程度の状況にあります。

##### ②健康・福祉

- ・類似規模都市平均および県内同規模人口都市と比較して、保育所や高齢者福祉施設は近くにあるものの、医療施設や公園は高齢者徒歩圏に少ない状況にあります。
- ・高齢者徒歩圏内に公園がない住宅の割合は、類似規模都市平均より高い状況にあります。

##### ③安全・安心

- ・最寄り緊急避難場所までの平均距離は、類似規模都市平均より高い状況にあります。

##### ④地域経済

- ・「従業員一人当たり第三次産業売上高\_従業員数合計」は、類似規模都市平均より高い状況にあります。
- ・「都市全域の小売商業床面積あたりの売上高\_小売商業床効率(市域全域)」は、類似規模都市平均より低い状況にあります。

##### ⑤行政運営

- ・歳出決算総額(市町村財政)は、類似規模都市平均より高い状況にあります。

##### ⑥エネルギー・低炭素

- ・市民一人当たりの自動車CO2排出量は、類似規模都市平均より低い状況にあります。

### 3)類似都市との比較から見た都市構造の評価

本市は、生活利便性の面からみると、類似規模都市平均と変わらない水準ですが、県内同規模人口都市と比較して、日常生活サービス施設や商業・医療・福祉施設の利用圏平均人口密度が低い傾向にあります。

また、健康・福祉の面からは、高齢者徒歩圏内に医療施設や公園が少ない特徴がみられ、これらの施設へのアクセスを向上させる取り組みが必要です。

安全・安心の面からは、避難所への距離が長い傾向があるため、災害リスクの低い土地へ居住を誘導していくことが必要です。

地域経済、財政の面からは、より効率的な地域社会の形成が求められており、公共施設の再編、集約化や、公共投資の集中化等によるコンパクトで複合的、効率的な都市経営が必要とされています。

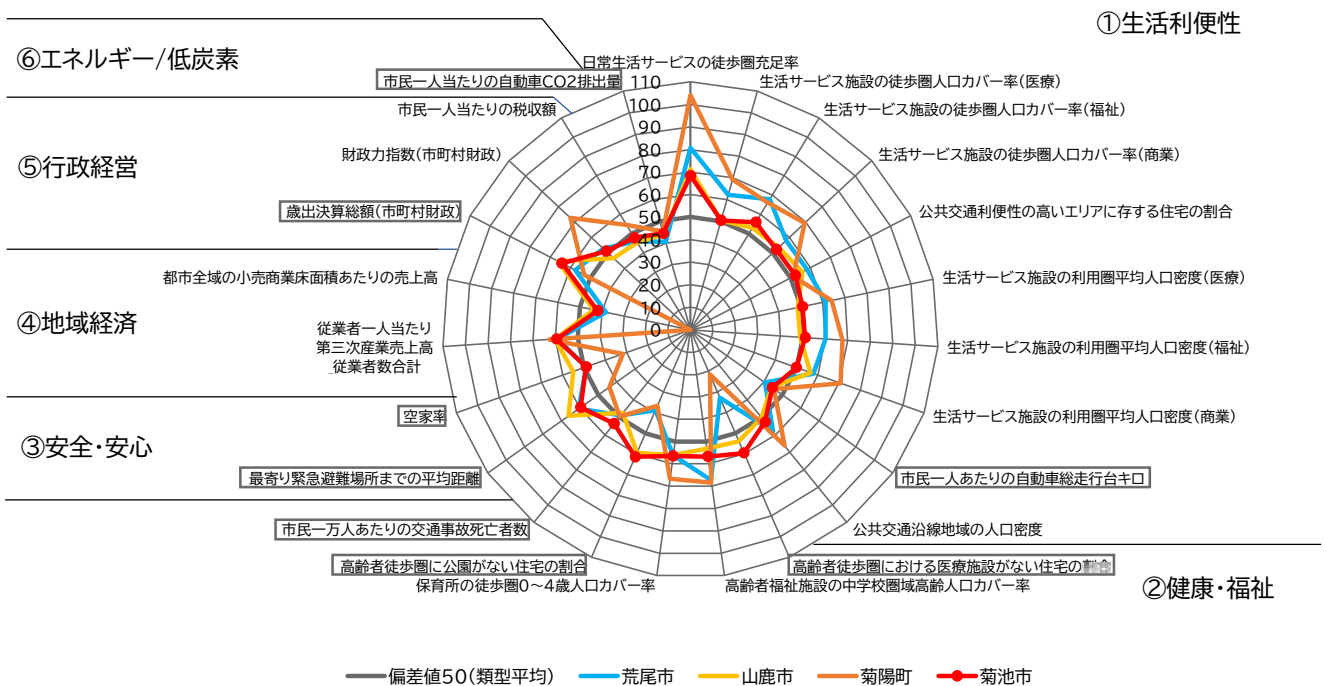


図 2-158 菊池市と同規模都市における偏差値レーダーチャート

資料:国土交通省 都市モニタリングシートとレーダーチャート自動作成ツール

※ □:偏差値が低くなるほど良い評価になる指標

菊陽町における「都市全域の小売商業床面積あたりの売上高」については、未集計のため0としている。

## (2) 都市構造上の課題

### 1) 少子高齢化社会への対応

#### 現状

##### 【現況より】

##### ①総人口

- ・人口は平成 17 年（2005 年）以降減少傾向にあります。
- ・ベトナムやフィリピンなど、アジアからの外国人居住者が増加しており、特に令和 3 年（2021 年）以降に著しく増加しています。
- ・菊池地域、旭志地域、七城地域は減少傾向にあり、特に旭志地域は人口が少なく過疎地域に指定されています。
- ・熊本都市圏に近い泗水地域では、平成 22 年（2010 年）まで増加傾向でしたが、平成 27 年（2015 年）以降は減少しています。
- ・地区別に見ると、菊池地域の中心部の外側や、泗水地域の幹線道路沿道などで人口が増加していますが、農業地帯や山間地では人口減少傾向にあります。
- ・DID 人口は減少傾向であり、指定の目安である 40 人/ha をすでに下回っています。

##### ②年齢別人口

- ・少子高齢化が進んでおり、令和 2 年（2020 年）の高齢化率は 34%で、熊本県平均 31%より 3 ポイント高くなっています。
- ・34 歳以下の若年層及び 45 歳～64 歳人口が大きく減少しています。一方で、70～74 歳の人口増が大きく、また 85 歳以上人口は着実に増加傾向にあります。
- ・都市計画区域において、年少人口と生産年齢人口の割合が比較的高く、老年人口の割合が低い傾向がみられます。一方、周辺部、特に南部や北東部の山間部にかけては、年少人口と生産年齢人口の割合が低く、老年人口の割合が著しく高い地域が広範囲に分布しており、地域の高齢化が進行しています。

##### ③500m メッシュ人口

- ・本市の人口は、用途地域内と泗水地域、国道 387 号沿道に集積が多くみられます。
- ・用途地域内は概ね 20～40 人/ha 以上の人口密度を示し、用途地域外延部でも 10～20 人/ha の地区がみられます。

##### ④将来人口

- ・社人研の将来人口では、令和 32 年（2050 年）は 32,894 人で、令和 2 年（2020 年）の 46,416 人に対し、13,522 人、29%の減少が予測されています。
- ・地区別では、将来的に最も高齢化が進むのは七城地域で、令和 32 年（2050 年）には 65 歳以上人口率は 43%と非常に高くなることが予測されています。菊池地域や旭志地域でも 42%を超えることが予測されています。

##### 【アンケート結果より抜粋】

- ・暮らしやすさについて、「高齢者や障がい者の暮らしやすさ」の満足度が低く、重要度が高いことから、優先度が高い事項として認識されていると考えられます。
- ・市全体のまちづくりの課題については、「高齢者を含め、全ての人がいきいきと暮らせるまちづくりを進める。」の回答が最も多くみられます。

### 【上位計画等からみた課題】

- ・第3次菊池市総合計画において、「子育てと健康福祉」を政策分野の1つとして掲げており、その中で「安心して子育てできるまち」、「健康で豊かに暮らし続けられるまち」を施策として挙げています。

### 課題

- ・人口が減少し、少子高齢化が進む中で、高齢者の生活水準の維持、向上が必要とされており、高齢者が安心して暮らしていける環境づくりが求められています。
- ・移動手段として過度に自動車に依存しない地域社会の形成のため、主要拠点における日常生活利便施設の充実や、公共交通の利便性向上が必要とされています。
- ・主要拠点や公共交通軸への主要機能の集中化や居住誘導により、コンパクトな市街地形成が求められています。

## 2)公共交通の利用促進

### 現状

#### 【現況より】

#### ①通勤・通学動向

- ・令和2年(2020年)の国勢調査では、菊池市に居住し菊池市内で通勤・通学する人の割合は67%です。
- ・通勤・通学動向については、流出先・流入先とも熊本市が最も多く、合志市、大津町、山鹿市も多くなっています。

#### ②利用・運行状況

- ・自動車交通量についてみると、平成27年(2015年)と令和3年(2021年)の比較では、国道325号旭志伊坂や国道387号隈府などで増加がみられますが、他の箇所では減少しています。
- ・国道325号の北宮や国道387号の泗水町吉富において、道路の混雑度が高い状況になっています。南部方面の道路の混雑度が高く、熊本市方面との交通アクセスが重要となっていることがうかがえます。
- ・熊本電鉄バスの令和5年(2023年)の利用状況をみると蓮台寺から菊池温泉を結ぶ系統の利用が2,200人/日と最も多いです。
- ・コミュニティバスとして、市街地巡回バスが東回り、西回りの系統で、それぞれ6便運行されており、公共交通機関のない地域における生活交通の確保や交通の利便性向上を図るため、市街地やまちなかを結ぶ事前予約制の乗合タクシー(きくちあいのりタクシー)が運行されています。

#### ③バス停周辺の人口集積状況

- ・人口の半数以上の人々がバス停300m圏外に居住していることがわかります。
- ・用途地域内や主要幹線道路沿線ではバス停圏内にありますが、泗水地域南部や西部の集落地等ではバス停300m圏外にあることがわかります。

#### 【アンケート結果より抜粋】

- ・日常の交通手段は、行き先に関わらず、自動車が最も多く利用されています。

- ・「公共交通の利便性の低さ」の満足度が低く、重要度が高いことから、優先度が高い事項として認識されていると考えられます。
- ・優先して整備すべき施設として、「バスや鉄道などの公共交通」や「生活道路」が挙げられています。
- ・コンパクトな都市づくりについては、「公共交通の充実や歩行者空間の整備により拠点間の連携を強化し、自動車交通に依存しない、高齢者や子どもにもやさしい都市づくりを進める。」の回答が2番目に多くみられます。
- ・道路・交通ネットワークの整備については、「日常生活の安全性を高めるため、地域の生活道路を整備すべきである。」の回答が最も多く、続いて「バスなどの公共交通機関を利用しやすくするため、バス停や路線網を整備すべきである。」の回答が多くみられます。
- ・自由意見として、道路整備や公共交通機関の充実に関する意見が多数挙げられています。

#### 【上位計画等からみた課題】

- ・熊本都市圏の交通マスタープランにおいて、熊本都市圏に含まれる泗水地域は生活拠点として、支線バスや自動車、自転車等からの乗換えを促す交通結節点としての位置づけが求められています。
- ・菊池市地域公共交通計画にて、路線バスやきくちべんりカー、きくちあいのりタクシーの利用者数が減少傾向にあることや、財政負担が増加していることが示されています。そのため、利用者の増加策を進めるとともに、主要バス路線沿線への居住や人が集まる施設の立地誘導を図る必要があります。

#### 課題

- ・自動車への依存度が高く、高齢化がさらに進行されることが予測されるため、高齢者の移動に便利な路線バスを核とした公共交通の基盤強化や日常生活利便施設の適切な配置により、コンパクトな都市づくりを進める必要があります。
- ・公共交通の維持が可能となるような都市構造への転換のため、主要拠点や公共交通軸への居住誘導や日常生活利便施設等の立地誘導を図る必要があります。

### 3)日常生活利便施設の適正立地

#### 現状

##### 【現況より】

- ・日常生活利便施設等の集積状況は、市役所および支所の周辺に公民館や文化施設等の立地が多くみられます。
- ・病院、診療所の医療機関の分布については、菊池中心市街地の立地が非常に多く、また、泗水地域の国道 387 号沿道にも集中して立地がみられます。七城地域、旭志地域に病院の立地はなく、その他医院の立地も少なくなっています。
- ・幼稚園、保育所、高齢者福祉施設、その他福祉施設の立地状況についてみると、比較的用途地域周辺や泗水地域中心部において立地しています。
- ・旭志支所 1km 圏の主要施設立地状況をみると、医療機関や高齢者福祉施設の立地がなく、商業用地面積の割合も低くなっています。

##### 【アンケート結果より抜粋】

- ・食料品日用品の買い物、通院における交通手段は、自動車が最も多くみられます。
- ・地区の将来の姿については、「日常的な買物が便利な店舗や小規模な医療福祉施設等が身近にある地区」との回答が最も多くみられます。
- ・コンパクトな都市づくりについては、「各拠点において身近な商業施設や、病院や福祉施設、子育て支援施設などを充実させる。」の回答が最も多くみられます。
- ・各拠点の方向性については、「中心拠点だけではなく地域・生活拠点にもいろいろな施設（店舗、病院等）を立地させるべきである。」の回答が最も多くみられます。

##### 【上位計画等からみた課題】

- ・第 3 次菊池市総合計画にて位置づけられた市街地促進ゾーンを中心に、商業施設を配置し、中心拠点・地域拠点の利便性を高める必要があります。
- ・熊本都市圏都市交通マスタープランにおいて、生活拠点として位置づけられる泗水支所周辺において、日常生活利便施設等の立地誘導を図る必要があります。

#### 課題

- ・商業施設の立地が多い幹線道路へのバス交通の充実、大規模商業施設へのバス交通の充実などを検討が必要です。
- ・泗水支所周辺においては、菊池中心市街地に次ぐ第 2 の拠点として、乗り継ぎ利便性の強化とともに、日常生活利便施設等の立地誘導の強化を図ることが必要です。
- ・七城地域や旭志地域には、病院の立地が少なく、中心拠点だけではなく地域・生活拠点にもいろいろな施設（店舗、病院等）を立地させることが必要です。

#### 4)土地利用、開発動向、自然環境等について

##### 現状

###### 【現況より】

###### ①土地利用

- ・全体で田畑が52%を占め、続いて山林が13%、住宅が9%、商工業地及び公共公益施設用地が6%、道路・その他が15%となっています。
- ・地域別にみると菊池都市計画区域は住宅の割合が高く、泗水都市計画区域、七城地域は田畑の割合が高く、旭志地域は山林の割合が高くなっています。

###### ②建物利用

- ・全体で戸建住宅が43%を占め、最も多く、続いて農林漁業用施設・その他施設が21%、工場施設が11%となっています。
- ・菊池都市計画区域は商業施設、官公庁・文教厚生施設、共同住宅の割合が高く、泗水都市計画区域は併用住宅、戸建住宅の割合が高く、七城地域、旭志地域は農林漁業施設、工業施設の割合が高くなっています。
- ・空家数は、平成25年(2013年)から平成30年(2018年)にかけて減少したものの、令和5年(2023年)には上昇傾向に転じています。

###### ③開発動向

- ・宅地開発は、菊池地域、泗水地域、旭志地域で行われており、七城地域では行われていません。
- ・泗水地域の宅地開発面積は5.1haと最も多く、このうち工業系が69%を占めています。
- ・菊池地域の宅地開発面積は4.5haであり、商業施設が43%を占めています。
- ・旭志地域の宅地開発面積は3.3haであり、その他が86%を占めています。

###### 【アンケート結果より抜粋】

- ・地区のこれからの土地利用については、「都市と自然のバランスを取りながら保全と開発を進める。」の回答が最も多くみられます。
- ・市街地周辺の開発については、「規制すべき」及び「どちらかといえば規制すべき」の回答が半数以上みられます。

###### 【上位計画等からみた課題】

- ・第3次菊池市総合計画においては、山間部を自然環境保全ゾーン、都市計画区域を中心に農業振興ゾーンを位置づけています。農業振興ゾーン内に設定した市街地促進ゾーン、工業集積ゾーンをもとに開発を進めていくことが必要です。

##### 課題

- ・都市と自然のバランスを取りながら保全と開発を進めることが必要です。
- ・空家数が増加傾向にあるため、市内の空家を適切に管理し、利活用について検討することが必要です。

## 5)災害リスクの対策

### 現状

#### 【現況より】

- ・菊池川水系の浸水想定区域は広く、河川が合流する七城地域では居住地のほとんどが浸水区域であり、また、泗水地域においても地域の中心部が浸水想定区域に含まれています。
- ・菊池地域の山間部に土砂災害警戒区域（土石流、地すべり、急傾斜地の崩壊）が集中しています。
- ・菊池地域のまちなか付近や菊池と泗水地域の間広がる花房台地のへりの部分が土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）、旭志地域の中央部が土砂災害警戒区域（土石流）に含まれています。
- ・七城地域や泗水地域において、浸水想定区域に含まれる避難所・避難場所が存在しています。
- ・本市の幅員 4m 未満の道路（平野部）は、農地に多く分布しており、土砂災害や浸水の恐れがある区域が、七城地域の国道 325 号以南に多くみられます。

#### 【アンケート結果より抜粋】

- ・市全体のまちづくりの課題については、「災害に強く、安心して暮らせるまちづくりを進める。」の回答が 2 番目に多くみられます。
- ・河川および湖沼・ため池については、「防災・減災対策を優先して整備・利活用すべきである。」の回答が最も多くみられます。
- ・防災に関して優先すべき取組については、「大雨時の洪水などを防ぐ河川の改修整備」の回答が最も多く、続いて「災害時の電力、通信施設、上下水道、ガスなどの復旧計画の策定」や「幅員の狭い道路等、生活道路の整備」の回答が多くみられます。

#### 【上位計画等からみた課題】

- ・総合計画において、「自然環境と暮らしの基盤」を政策分野の 1 つとして掲げており、その中で「防災・消防体制の充実」を施策として挙げています。

### 課題

- ・菊池川水系の浸水想定区域が広範囲に及んでおり、特に七城地域では居住地のほとんどが、泗水地域でも中心部が浸水区域に含まれています。さらに、これらの浸水想定区域内に避難所・避難場所が存在しており、安全な避難経路や避難所、避難場所の確保するなど、より強靱なまちづくりに向けた具体的な対策を検討することが必要です。
- ・菊池地域の山間部に土砂災害警戒区域（土石流、地すべり、急傾斜地の崩壊）が集中しているだけでなく、まちなか付近や花房台地のへり、旭志地域の中央部にも土砂災害警戒区域が点在しているため、土砂災害リスクの対策が必要です。
- ・平野部の農地に多く分布する幅員 4m 未満の道路、特に七城地域の国道 325 号以南に多くみられる狭隘道路は、災害発生時における緊急車両の通行や住民の避難に支障をきたす可能性があるため、道路整備に関する検討が必要です。
- ・河川および湖沼・ため池について、防災・減災対策を優先して整備・利活用するとともに、災害時の電力、通信施設、上下水道、ガスなどの復旧計画の策定が必要です。

## 6)他都市との比較や行財政の効率化

### 現状

#### 【現況より】

##### ①他都市との都市構造の比較

- ・本市は生活利便性の面では、類似規模都市平均と比較すると同等程度ですが、熊本県内の同規模人口都市と比較すると、日常生活サービスや病院、商業施設等が徒歩圏（自宅から 800m圏）に立地する割合が低くなっています。
- ・健康・福祉面では、医療施設や公園が高齢者徒歩圏内に少なくなっています。
- ・安全・安心の面からは、避難所への距離が長い傾向があるため、災害の恐れのない土地へ居住を誘導していくことが必要です。
- ・歳出決算総額は類似規模都市平均よりも高い状況にあります。

#### 【アンケート結果より抜粋】

- ・自由意見として、予算の効率化等の意見がみられます。

#### 【上位計画等からみた課題】

- ・第 3 次菊池市総合計画において、「市政運営」の政策分野では、市民に分かりやすい健全な行財政運営の実現のために「効率的な行政運営」を施策の 1 つとして挙げています。

### 課題

- ・日常生活利便施設等の適切な配置誘導計画や、拠点地区周辺への一層の居住誘導を進めながら、コンパクトな市街地形成を推進することが必要です。
- ・緊急避難場所の適切な配置計画や高齢者徒歩圏内に公園を増やすことが必要です。
- ・財政運営上は、公共施設の統廃合も含めた維持管理費の一層の抑制や、計画的な財政運営、公共サービスの効率化、コスト削減が必要です。